

## 富山大学留学生センター

## 紀要

第9号

2010年11月

## 目次

## I 論文

## &lt;研究ノート&gt;

日本語とタイ語の薬学用語の特徴 ―語種および用語確立のアプローチの観点からの分析―

..... 後藤寛樹 1

## &lt;実践・調査報告&gt;

複数レベルの学習者を対象とした漢字クラスの授業改善及び教材開発

―学習者の学びの活性化のための試み―

..... 高畠智美・濱田美和 9

## II 年報（2009年4月～2010年3月）

1. 留学生センター1年の歩み .....	19
2. 日本語教育部門	
日本語研修コース .....	20
日本語課外補講 .....	29
総合日本語コース .....	47
短期留学生 .....	51
日韓共同理工系学部留学生プログラム .....	54
教養教育「日本語」「日本事情」 .....	60
活動報告1「日本語相談」 .....	64
活動報告2「日本語学習支援サイトRAICHO」 .....	66
3. 留学生指導部門 .....	68
4. 留学生センター関連行事等 .....	74
5. 留学生センター教員・担当業務 .....	77
6. 資料 .....	79



富山大学留学生センター

---

# 紀 要

第 9 号



# I 論文

---



# 日本語とタイ語の薬学用語の特徴

## ー語種および用語確立のアプローチの観点からの分析ー

後藤寛樹

Characteristics of Japanese and Thai Technical Terms in Pharmaceutical Science:  
An Analysis Based on Word Type and Approaches to Establishment of Terms

GOTO Hiroki

### 要 旨

学術用語の確立は、その分野の知識を定式化するために重要な過程である。ある言語において、従来にはなかった事象や概念の名称を表現しようとする場合、他の言語からの語彙を借用して新たに語彙を作り出すことが多い。その場合の方法としては、当該語彙の意味を自国語に存在する語彙と結び付けて表記する方法（semantic adoption）と、当該語彙の音声を自国語の音韻・表記体系に当てはめて表記する方法（phonetic adoption）の2つがあり、どちらの方法をより優先するかは、言語や分野によって異なる。本稿では、日本語とタイ語の薬学用語を語種および用語確立のアプローチという2つの観点から分析した。語種別で見ると、日本語とタイ語の薬学用語は異なる分布を見せるが、用語確立のアプローチの点では、どちらも意味を重視し、共通していることがわかった。

【キーワード】 薬学用語, タイ語, 日本語, semantic adoption, phonetic adoption

### 1 はじめに

学術の世界では、当該分野の学術用語を確立することが、その分野の知識を定式化するために必要な過程である。特に、ある言語において、従来にはなかった事象、概念、事物の名称などを表現する場合には、既にそれらが確立されている言語の語彙を自国語の語彙に置き換えて、新しい語を作り出すことが多い。日本においても、明治期以降、西洋の学問の流入に伴って新しい学術用語が多く作られた。

外国語で表された概念や名称を自国語に取り入れる場合の方策には、当該語彙の意味を自国語に翻訳して表記する方法（semantic adoption, 以下「SA」と呼ぶ）と、当該語彙の音声を自国語の音韻・表記体系に当てはめて表記する方法（phonetic adoption, 以下「PA」と呼ぶ）があり、どのような方策を取るかは言語や分野によっても異なりを示す。例えば、Matsuda 他 (2008) の研究では、機械工学、コンピュータ科学、建築学の3つの分野の学術用語を日本語、ベトナム語、タイ語の3つの言語間で比較している。言語別に見ると、日本語は分野を問わず3言語の中でPAの率が最も高いこと、ベトナム語はすべての分野でPAの率が極めて低く、約9割の学術用語がSAであること、また、分野別に見ると、コンピュータ科学の学術用語は日本語およびベトナム語でPAの率が他の分野よりも高いことなど、言語や分野による違いが指摘されている。

本稿では、日本語とタイ語の薬学用語を語種および学術用語確立のアプローチの観点から分析し、日本とタイの薬学分野では、学術用語がどのように確立されているのかを見る。

## 2 学術用語の確立の動向と先行研究

日本では明治期以降、西洋の学問の流入に伴って、多くの学術用語が作られてきた。学術用語の確立の目的は、その分野の知識を定式化し、正しく普及させることにあるので、ある用語が使用者によって異なる事象や概念を示したり、同一の事象・概念を表す用語が複数存在するというのは望ましくない。そこで、1942年に文部省によって「学術文献調査特別委員会学術用語制定分科会」が設けられ、学術用語の制定に乗り出した（東 1990）。その後、文部省とさまざまな学会との協力で、これまでに 31 の分野の学術用語集が刊行されている。

学術用語については、国立国語研究所や現在の情報知識学会専門用語研究部会の前身である専門用語研究会によって研究がなされてきた。国立国語研究所（1981）には、専門用語をどのように規定するか、現代語における専門用語の特徴などについての記述がある。また、学術用語の国際比較として、日本語の専門用語と英語、ヨーロッパ諸語、中国語の専門用語を比較し、その難易度の差<sup>1)</sup>や用語の国際性などについても述べられている。専門用語研究会においても、1990年から2000年にかけて、さまざまな観点からのアプローチによる学術用語の研究が進められている。

これ以外に、Matsuda 他（2008）の研究では、工学系の学術用語を日本語、ベトナム語、タイ語の 3 言語間で比較し、この 3 言語の間で学術用語確立のアプローチにどのような違いがあるのか述べている。

学術用語の国際比較は、日本語と英語やヨーロッパ諸語、中国語、韓国語との間で、いろいろな形で行われているが、その他の言語との比較研究は、上述の Matsuda 他（2008）の研究以外にはまだほとんど進められていない状態にある。

## 3 タイ語の語種

日タイ語の薬学用語について見る前に、タイ語の語種について概観しておきたい。

タイは、古くから周辺地域の文化を取り込む形で自国の文化を発展させてきた。東からはクメール文化、西からはインドの古代インド文化、仏教文化を取り入れ、それとともに、クメール語やサンスクリット語、パーリ語から多くの語彙をタイ語に取り入れている。他にも、英語や中国語からの借用語も多く、借用語がタイ語の語彙の約 3 分の 2 を占めるとも言われる。中でも、サンスクリット語とパーリ語（インド系言語）からの借用語彙は、タイ語の教養語彙の大部分を占め、タイ語への同化・定着の度合いも高く、日本語における漢語と同様の役割を担っている（坂本 1984, 富田 1997, 田中 1999, 三上 2002, Wilailuck 2005）。もちろん、タイでもともと使われてきた固有の純タイ語語彙も存在し、日常的な動作を表す動詞や日常的な普通名詞、身体呼称、親族呼称、基本的な様態を表す形容詞などは、純タイ語の語彙が用いられる（田中 1999）。また、日本語には、漢字を組み合わせる新たに作られた漢語（例：科学）や、既存の漢語に新たな意味を付与した漢語（例：自由）のような和製漢語が存在するが、タイ語においても、サンスクリット語やパーリ語を組み合わせる新たに作られた語彙、言わばタイ製インド系語彙が存在する（例：สันติภาพ [sǎnti-phâap]<sup>2)</sup>「平和」、สามัญศึกษา [sǎaman-sùksāa]「普通教育」）。この点でも、インド系借用語の役割は日本語における漢語と同様であると言ってよいだろう。インド系言語以外からの借用語彙には、ถนุ [thanŏn]（クメール語、「通り」）、กอล์ฟ [kɔɔp]（英語、「ゴルフ」）のようなものがあり、これらは元の言語の綴りや発音に合わせてタイ文字で綴られる。つまり、タイ語の語種には、日本語の和語に相当する純タイ語、日本語の漢語と同様の役割を担うインド系借用語、日本語の外来語に相当するその他の借用語、そしてこれらが混在した混種語の 4 種類があり、表 1 に示すように、日本語と似た形で分類できるということになる。日本語とタイ語が異なるのは、タイ語には日本語のひらがな、カタカナ、漢字のような文字の種別がなく、基本的にはすべてタイ文字で綴られるという点である<sup>3)</sup>。また、ここではその他の借用語に含めてはいるが、クメール語からの借用語もタイ語への同化・定着の度合いが高く（Wilailuck 2005）、また、タイ語からの逆輸出もみられる（坂本 1984）。



表 1 日本語とタイ語の語種

日 本 語		タ イ 語	
和	語	純	タ イ 語
漢	語	インド系の借用語	
外	来 語	そ の 他 の 借 用 語	
混	種 語	混	種 語

では、似たような語種のタイプを持つ日本語とタイ語とでは、学術用語確立のアプローチに違いが見られるのだろうか。以下、日タイ語の薬学用語について分析を試みる。

## 4 日タイ語の薬学用語の分析

### 4.1 分析の対象としたデータ

分析の手順としては、まず、タイ王立学士院の編による“ศัพท์เภสัชศาสตร์” [sàp-pheesàtcha-sàat] (『薬学用語』) に掲載された約 3000 の薬学用語をデータベース化し、このうち、日本薬学会編『薬学用語集』にも同様に掲載されている用語を抽出して、分析の対象データを作成した。この 2 冊の用語集は、ともに国が学術用語の標準化を目指して作成したものであるという共通点を持つ。また 2 冊とも、日本語、タイ語に対応する英語の用語、および、英語に対応する日本語、タイ語の用語が掲載されており、両方向から用語を調べられるという点でも共通している。本稿での分析対象データ作成にあたっては、英語のエントリーに対して示された日本語、タイ語の用語を参照した。両者に共通して掲載されていた英語の用語は、657 語<sup>4)</sup>であった。英語の 1 つの用語に対して、例えば、“sub-coating” に対する日本語訳「サブコーティング」、「上げけ」や、“pellets (ペレット剤)” に対するタイ語訳“ยาเม็ดเล็ก” [yaa-mét-lék], “เพลเลต” [phellét] のように、複数の訳語が存在する場合があります、それらすべてを抽出した結果、日本語は 830 語、タイ語は 790 語の用語が得られた。

### 4.2 分析方法

4.1 で述べた日本語の薬学用語 830 語、タイ語の薬学用語 790 語に対して、語種の情報を付与した。日本語は、和語、漢語、外来語、アルファベット表記語、混種語の 5 つ、タイ語は、純タイ語、インド系借用語、その他の借用語、アルファベット表記語、混種語の 5 つに分類した<sup>5)</sup>。「アルファベット表記語」という分類は、日本語・タイ語のどちらの用語にも TDM (therapeutic drug monitoring) のような頭文字語の用語で、アルファベットのまま表記されたものがあり、このような用語に付与した語種情報である。また、混種語についてはどのような語種の語から構成されているのかも見た。それぞれの語種別の割合を計算し、両言語の薬学用語の語種別分布を調べた。さらに、日本語とタイ語の薬学用語では SA、PA のどちらが多いのかを調べた。

### 4.3 分析結果

日タイ両言語の薬学用語を語種別に見た内訳を示したのが表 2 と表 3 である。この表を見ると、日本語の薬学用語は圧倒的に漢語語彙が多いのに対して、タイ語の薬学用語は純タイ語が約 3 割、混種語が半数強を占め、日本語の漢語と同様の役割を担っているはずのインド系言語からの借用語はわずか 5 % で、非常に数が少ないことがわかる。これには、タイ王立学士院の『薬学用語』編纂の方針が大きく関わっていると考えられる。『薬学用語』巻頭の説明では、「純タイ語に翻訳できる語彙はなるべく純タイ語にし、しかるべき語彙が見つからない場合には現在タイ語の中で用いられているサンスクリット語またはパーリ語の語彙をあてた。それでもなお、用語の意味を示すのに適当な語彙がない場合には訳音をあて

た」と書かれている。学術用語であってもなるべくタイの固有の語彙で表記しようという方針<sup>6)</sup>がこの分布からもうかがえる。

表2 日本語の薬学用語の語種別内訳

語種	語数 (比率)
和語	8 (1.0%)
漢語	615 (74.1%)
外来語	91 (11.0%)
アルファベット表記語	16 (1.9%)
混種語	100 (12.0%)
計	830

表3 タイ語の薬学用語の語種別内訳

語種	語数 (比率)
純タイ語	230 (29.1%)
インド系借用語	40 (5.1%)
その他の借用語	68 (8.6%)
アルファベット表記語	10 (1.3%)
混種語	442 (55.9%)
計	790

日本語の薬学用語のうち、和語は全体の1%と非常に少ない。和語が用いられているのは、「かきませ」「下がけ」のような製薬等の過程での操作を表す語彙や、「ふるい」「へら」のような製薬等で用いられる器具の名称であった。漢語、外来語が用いられている語彙には、さまざまなものが含まれており、特徴的な傾向は見られなかった。

一方、タイ語の薬学用語については、純タイ語の語彙が用いられているのは, โกร่ง[kròŋ] (乳鉢), พาย[phaai] (へら) のような道具名, ยาพ่น[yaa-phôn]<sup>7)</sup> (スプレー剤), ยาเม็ดฟู่[yaa-mét-fûu] (発泡錠) のような形質別の薬剤名, ยาลดไข้[yaa-lót-khâi] (下熱薬), ยาสีฟัน[yaa-sii-fan] (歯磨剤) のような用途別の薬剤名などが多かった。インド系借用語語彙には, เภสัชจลนพลศาสตร์[pheesàtcha-calaná-phonla-sàat] (薬物動態学), พยาธิสรีรวิทยา[phayaathí?-sariira-wíthayaa] (病態生理学), พันธุวิศวกรรม[phanthú?-witsàwa-kam] (遺伝工学), ชีวเภสัชการ[chiiwá-pheesàtcha-kaan] (生物薬剤学) のように学術分野の名称を示すものが多かった。このことは、タイ語の教養語彙の大部分をインド系借用語彙が占めるという事実とも一致している。また、その他の借用語はすべて英語からの音訳語彙であった。

ここで混種語として分類された用語について見てみたい(表4, 表5)。日本語の場合、混種語の用語が占める割合は1割強で少ないが、タイ語は混種語が442語あり、全体の半数以上を占めている。このうち、純タイ語とインド系借用語からなる混種語が274語で、タイ語のデータ全体の34.7%を占め、混種語の形成においてインド系借用語が大きな役割を担っていると言える。

表4 日本語の混種語の内訳

語種	語数 (比率)
和語+漢語	13 (13.0%)
和語+外来語	1 (1.0%)
漢語+外来語	82 (82.0%)
漢語+英語	4 (4.0%)
計	100

表5 タイ語の混種語の内訳

語種	語数 (比率)
純タイ語+インド系	274 (62.0%)
純タイ語+その他	77 (17.4%)
インド系+その他	17 (3.8%)
純タイ語+インド系+その他	74 (16.7%)
計	442

日本語の混種語の大部分を占める漢語と外来語の組み合わせの語彙を詳しく見てみると、「コロジオン剤」、「コリン薬」のように「～剤」、「～薬」という形の薬剤名の語彙が多かった。和語と漢語の組み合わせの語彙についても、半数が薬剤に関する名称であった。

タイ語の混種語については、純タイ語とインド系借用語の組み合わせの語彙には、日本語と同様に薬

剤名に関する語が多かった。次に多い純タイ語とその他の借用語の組み合わせの語彙には、薬剤名のほかに物質名も多く見られた。純タイ語、インド系借用語、その他の借用語からなる複雑な組み合わせの語彙については、共通した傾向は見られなかった。また、混種語ではない場合のその他の借用語がすべて英語から音訳した語彙であったのに対し、混種語に含まれるその他の借用語には、クメール語からの借用語が多く含まれていた。

ここまで語種別に見てきたところでは、日本語とタイ語とでは分布の様子が異なっていたが、これを学術用語確立のアプローチ、すなわち意味を優先する SA が多いのか、音を優先する PA が多いのかという観点から見てみよう。4.2 でふれた TDM のような語彙は、英語の頭文字をそのまま採用しているだけなので、これを含む語彙はここでは分析対象から除外する。日本語の場合、和語および漢語で示された語彙は、その事象や概念の意味を元にして、該当する日本語の語彙を当てはめたものであり、SA によってできた語彙であると考えることができる。一方、外来語で示された語彙は、すべてカタカナ表記の語彙であり、これは元になる外国語の音声を日本語の音韻・表記体系に当てはめて表したものであるので、PA によってできた語彙となる。同様に、タイ語の場合も、純タイ語およびインド系借用語で表された語彙は SA による語彙、その他の借用語は PA による語彙となる。混種語を形成するそれぞれの語彙も含めて、この SA か PA かという基準で見直してみると、表 6 のようになる。3 節でふれたように、クメール語からの借用語彙もタイ語への同化・定着の度合いが高く、新しい概念を示す語を作る際などにも積極的に用いられることがある。そこで、タイ語の内訳については、クメール語をその他の借用語の 1 つとみなした内訳 (A) と、インド系借用語と同様に日本語における漢語語彙のような役割を担う語彙としてみなした内訳 (B) の 2 つの内訳を示した。

日本語の方がタイ語よりも SA、PA の割合が少し高く、タイ語は SA と PA を併用した形で形成されている語彙が日本語よりも多くはなっているが、日タイ語ともに SA の割合が高いという似た傾向を示すことがわかった。

表 6 用語の翻訳のされ方で見た薬学用語の内訳

	日本語 語数 (比率)	タイ語 (A) 語数 (比率)	タイ語 (B) 語数 (比率)
SA	636 (78.5%)	544 (69.7%)	591 (75.8%)
PA	91 (11.2%)	68 ( 8.7%)	67 ( 8.5%)
SA+PA	83 (10.2%)	168 (21.5%)	122 (15.6%)
計	810	780	780

## 5 まとめと今後の課題

本稿の分析で以下のようなことがわかった。

- (1) 日本語の薬学用語は、漢語語彙の用語が占める割合が高い。逆に和語はほとんど用いられていない。外来語の占める割合は約 1 割で、それほど多くはない。
- (2) タイ語の薬学用語は、混種語が半数強を占めている。混種語の中では、純タイ語とインド系借用語の組み合わせが最も多い。混種語以外で多いのは純タイ語の語彙で、これは国家としてなるべく純タイ語の使用を進めようというタイの国としての方針の影響が大きいと考えられる。
- (3) 語種別に見ると、日本語とタイ語の薬学用語の分布は類似性がないように思えるが、用語確立のアプローチの観点で見ると、両言語は比較的似たアプローチの様子を見せている。

本稿では、日タイ語の薬学用語を語種および用語確立のアプローチという 2 つの観点で見てきたが、両言語の薬学用語の実態をより詳しく把握するためには、さらにさまざまな点からの検討が必要である。

まずは、日本語における漢語、タイ語におけるインド系借用語彙ともに、日本あるいはタイで新たに作られた和製漢語、タイ製インド系借用語があり、日タイ語の薬学用語にこれらの語彙がどれぐらい含まれるかという点を調べてみる必要がある。次に、両言語の薬学用語がどれだけ共通する部分を有しているのか、つまり、お互いの薬学用語を知らない日タイの薬学研究者が、他の言語の用語を使うことなくどれだけ理解しあえるかという点である。日本語とタイ語は言語的にも異なるので、共通する部分は少ないことが予測されるが、もし、共通する部分があるとしたら、それはどのような部分か調べてみる必要がある。3番目に、両言語の薬学用語の難易度にはどの程度の差があるのかという点である。それぞれの言語の基本語彙の理解だけでどれぐらいの薬学用語が理解できるのか、これも調べてみなければならない。日本語の薬学用語の難易度が把握できれば、日本で薬学を学ぶ留学生がどれぐらいの語彙の知識を身につければよいのかという指標が提示できると思われる。4番目に、薬学の研究・教育の現場では実際にどのような語彙が使われているのかという点である。本稿の分析でデータを抽出したのは、日本およびタイで発刊されている学術用語集であるが、薬学分野の入門書、概論書は実際に用語集に掲載された用語を用いて書かれているのか、講義やゼミ、学会などでもそれらの用語が使われているのか、実態を調査する必要がある。その際には、両国の薬学教育の歴史的発展にも目を向ける必要があるだろう。これらの観点を踏まえて分析を続けていきたい。

## 付記

本稿は、科学研究費補助金（若手研究(B)、課題番号：20720137、課題名：薬学分野の学術用語の日タイ対照研究—日タイ英薬学用語辞典の開発を目指して—）の助成を受けて行った研究の一部である。

## 注

- 1) 国立国語研究所(1981)では、難易度の差を求めるために、当該言語の基本語とされる語彙と意味や形の上でどれぐらい関係を持っているかという基準を定め、「意味づけ」と呼んでいる。また、この意味づけという基準をもとにして、学術用語と基本語彙の「へだたり度」を求め、へだたり度の高い分野あるいは言語の学術用語は難易度が高いとしている。意味づけ、へだたり度の2つの基準を用いて、日、英、仏、独、露の5言語の間で物理学用語の比較を行った結果は、英、仏、独、露、日の順に基本語彙とのへだたりが大きい（つまり、難易度が高い）としている。
- 2) タイ語の発音表記は、富田(1997)を参照した。
- 3) タイ語の場合は、原則的にすべてタイ文字で綴られるが、純タイ語語彙の綴りには通常使用されない文字が使われたり（インド系言語、クメール語からの借用語彙）、借用元の語彙の綴りや発音に合わせて綴ることによって、タイ語では発音されない文字が現れたりする（インド系言語、クメール語、英語などからの借用語彙）ので、綴りを見ればある程度その語の語種がわかる。
- 4) 実際には、複合語や句も1つの項目として掲載されている場合があるので、「語」というよりも「項目」と呼ぶ方がふさわしいかもしれないが、ここでは便宜上「語」としておく。日本語やタイ語の用語についても同様である。
- 5) タイ語の語種の認定には、富田(1997)を参照した。
- 6) 王立学士院の方針については、富田(1997)にも次のような指摘がある。「タイ国の学士院ではしばしば英語の術語のタイ語訳を制定しており（以下略）」つまり、タイは国家の政策として、外来語（借用語）としての英語術語の流入を防ぐために、タイ語で術語を制定しようとしているのである。
- 7) 遠古シナ語、古代シナ語の音韻の研究の進展以来、タイ語がそれらの言語と同系である可能性を指摘する研究もある。ここに示した語に含まれる๗๓[yaa]についても、遠古シナ語、古代シナ語の「薬」と関連がある可能性もある（富田(1997)に参考情報として示されている）が、同系説については、未だ確固とした説があるわけではなく、借用関係ははっきりしていないので、ここではその関連性は考えないものとする。

## 参考文献

- (1) 国立国語研究所 (1981)『専門語の諸問題』国立国語研究所報告 68 (秀英出版)
- (2) 坂本比奈子 (1984)「タイ語における外来語問題」『言語生活』391号, pp.43-45 (筑摩書房)
- (3) 東秀彦 (1990)「日本工業規格における用語規格」『専門用語研究』No.1, pp.5-9 (専門用語研究会)
- (4) 富田竹二郎 (1997)『タイ日大辞典』第三版 (めこん)
- (5) 田中寛 (1999)「タイ語の学術語彙」『国文学解釈と鑑賞』64巻1号, pp.139-144 (至文堂)
- (6) 日本薬学会 (2000)『学術用語集 薬学編』(丸善株式会社)
- (7) 三上直光 (2002)『タイ語の基礎』(白水社)
- (8) Wilailuck Tangsirithongchai (2005)「タイ語における外来語および外国語起源語」『NUCB Journal of Language Culture and Communication』Vol.7, No.2, pp.95-102 (名古屋商科大学)
- (9) Matsuda Makiko, Takahashi Tomoe, Goto Hiroki, Hayase Yoshikazu, Nagano Robin Lee, Mikami Yoshiki (2008) "Technical Terminology in Asian Languages: Different Approaches to Adopting Engineering Terms" IJCNLP, The 6th Workshop on Asian Language Resources, pp.25-32
- (10) ราชบัณฑิตยสถาน (タイ王立学士院) (2008) "ศัพท์เภสัชศาสตร์" (『薬学用語』) 第2版



# 複数レベルの学習者を対象とした漢字クラスの 授業改善及び教材開発

## —学習者の学びの活性化のための試み—

高畠智美・濱田美和

Kanji Class Lesson Improvement and Development of Teaching Materials  
for Multilevel Learners: Toward Revitalization of Learner's Learning

TAKABATAKE Tomomi, HAMADA Miwa

### 要 旨

本稿は、漢字クラスにおける、学習者の自宅学習促進のための教材開発、及び、学習者間のインターアクションを活用した練習の導入についての実践報告である。この漢字クラスは、中級と上級レベルの学習者が混在しているために教師が複式で授業を行っているクラスであるが、教師の指導時間が短くて十分な指導ができない、自習時間をうまく活用できない学習者がいるといった問題があった。そこで、これらの問題の解決を図るために予習用教材の開発とグループ学習の導入を試みた。その結果、教師の指導時間の効率化と自習時間の有効活用につなげることができた。そして、この授業改善の過程で自宅学習をも含めた漢字学習全体を構成し直すことによって、学習者の学びを活性化し、理解や定着を促すものに改善することができた。このような漢字学習全体の構成は、複式授業だけでなく、一斉授業においても有効な方法として利用できるのではないかとと思われる。

【キーワード】 漢字クラス、日本語学習者、複式授業、自宅学習、グループ練習

### 1 はじめに

日本語教育においては、中級、上級レベルになっても文字の指導、すなわち、漢字の指導が必要である。初級レベルにおいて漢字の基本的知識を習得した後、中級、上級レベルではいかに新しい漢字や漢字語に関する知識を効率的に増やしていくかが指導の中心となる。このレベルの学習者からは「一度覚えてもすぐにその漢字や漢字語を使う機会がないために忘れてしまうことが多い」という声がしばしば聞かれる。漢字や漢字語の定着のための方法としては、既習の漢字や漢字語と関連させながら体系的に導入することが必要となるが、これに加えて、学習者を飽きさせずに繰り返しそれらの練習を行う機会を設けることも重要である。近年、教育の場においては、学習者主体の学びを提供する教室活動の必要性が唱えられている。これに加えて、学習者間のインターアクションは教師・学習者間のインターアクションに比べて多くの意味交渉の機会を生み出すことから、より効果的な言語習得を促すものとしてとらえられている。継続的な学習を必要とする漢字学習においても、自律的な学習の必要性は早くから指摘されてきているが、そのための足掛かりとして、クラスに学習者間のインターアクションを導入することで学習者の学習意欲を引き出し、学習内容を印象付け、より定着を促すことはできないかと考えた。

本稿は、漢字クラスにおける学習者の自宅学習の促進のための教材開発、及び、自習時間における学習者同士でのグループ練習の導入についての試みを報告するものである。いずれも、クラスに複数のレベルの学習者が混在しているために、教師が複式で授業を行わざるを得ない漢字クラスにおいて、教師の指導の効率化と自習時間の有効活用を主な目的として試みたものであるが、実際に行ったところ、学

習者が漢字や漢字語に触れる機会を増やすことにつながり、学習者の漢字学習の活性化にも効果が見られた。この試みは複式授業だけでなく、一斉授業として行われている漢字クラスにおいても利用価値があるのではないと思われる。そこで、筆者らが2009年4月から実践した漢字クラスにおける授業改善の取り組みと開発教材について紹介した上で、クラスや学習者の様子について報告したい。

## 2 漢字クラスの概要

### 2.1 学習者のレベル差と複式授業

富山大学留学生センターで開講している全学の外国人留学生及び外国人研究者向けの日本語プログラム（1学期15週）では、中級と上級の合同授業として「漢字」1コマ（90分）を開講している。クラスの人数は每期10人前後とあまり多くはないが、中級と上級の合同授業であるため、学習者の日本語の習得状況の差が大きく、漢字の習得状況についても、既習漢字200字程度から1000字程度までと、かなりの開きがある。そのため、クラス全体で同一の教科書を使っての一斉授業は難しく、3つのグループに分けて、複式授業を行っている。

グループ分けはコース初回に実施するプレースメントテストの結果をもとに行っている。期により各グループのレベルに多少の変動はあるが、多くの期で既習漢字500字程度、700字程度、1000字弱の学習者のグループに分かれる。既習漢字500字程度のグループ（以下、IMK1グループ）では『漢字1000Plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』VOL.1（以下、『IMK1』）を、既習漢字700字程度のグループ（以下、IMK2-1グループ）では『漢字1000Plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』VOL.2（以下、『IMK2』）を主教材として用いている。既習漢字1000字弱のグループ（以下、IMK2-2グループ）は、グループ2-1で1学期間学んだ学習者が引き続き受講する場合はほとんどで、『IMK2』の中で先学期に取り上げなかった課を学んだ後は新聞記事等の生教材を使用して漢字及び漢字語の学習を行っている。

授業は1つの教室で行っているが、学習者はグループごとに分かれて座っている。そして90分の授業時間を大きく3つに区切り、1グループ当たり25～30分ずつ、教師が指導に当たっている。教師が1つのグループの指導を行っている間、ほかのグループの学習者は、前回の学習内容の確認として毎回行うチェックテスト、及び、その回の学習漢字や漢字語にかかわる練習に取り組むというローテーション形式で授業を実施している。

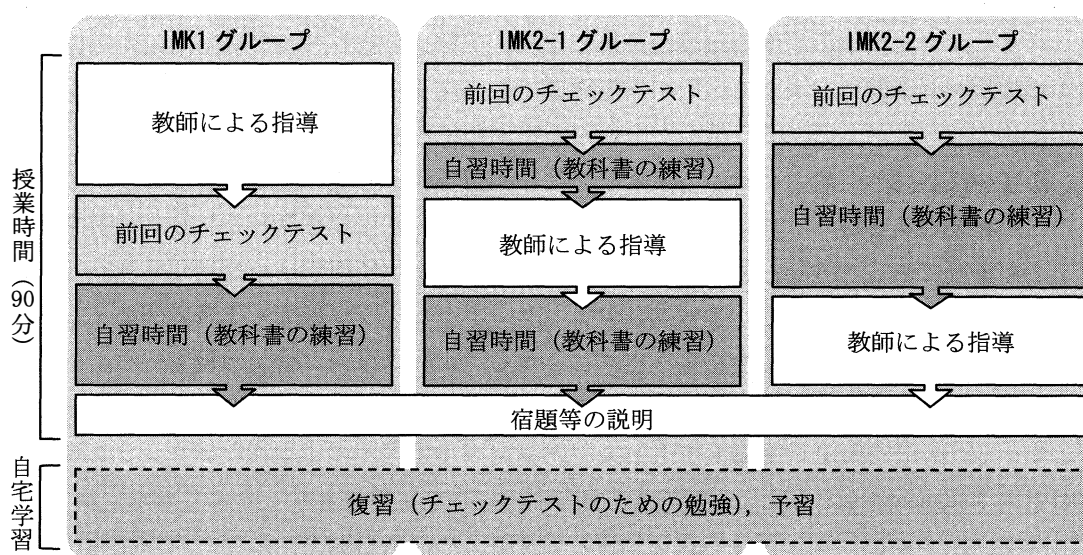


図1 従来の授業構成



図1は従来(2008年度まで)の漢字クラスにおける授業の構成である。毎回時間配分は多少異なるが、漢字の学習にまだ不慣れなIMK1グループへは教師への指導時間をほかのグループよりも若干多めに設けて、教師の指導の後で練習に取り組み、逆に、漢字クラスの受講形態や漢字の学習にも慣れているIMK2-2グループについては、最初に学習者自身での学習時間を設けて、その後で教師が疑問点等を中心に説明するという形となっている。

## 2.2 複式授業における困難点とその対応

グループごとに時間を区切って授業を進めることで、複数レベルの学習者が受講するクラスにおいても、それぞれのレベルに応じた指導を行うことができていたが、図1のような従来の授業構成では、教師の指導時間が足りない、自習時間が活用できていないという問題も見られた。

### 2.2.1 教師の指導時間の不足と自宅学習促進のための教材開発

漢字学習においては加納(2008)も指摘しているように、漢字の字形や読み、意味だけを学べばいいということではなく、「漢字が造語成分としてどのように使われるか、またその語が文中でどのように使われるかという『用法』の情報」(p.2)をも同時に学んでいく必要がある。それらを含めて導入し、その理解を確認するところまでを教師による指導の25～30分で行うのには、自ずと限界がある。

今の体制では指導時間の延長はできないため、教師の指導時間内に指導すべき項目を絞る込むための方策として、学習者自身で調べられる基本事項は事前に確認してから授業に臨むように、自宅での予習を徹底させることが必要だと考えた。従来から学習者には教科書の要点や学習漢字を予習してくるよう指導を行っているが、具体的な産出物等の提出は課していなかったこともあり、予習をしてきていない学習者も多くいた。ただ、予習をしてこなかった理由として、どのように学習したらよいかかわからないという声もしばしば聞かれた。そのため、学習者が予習しやすくなるような環境を整えるために、自宅学習用の教材の開発を試みることにした。

### 2.2.2 教室での個人学習の問題点と学習者間のインターアクションの活用

教師による指導時間以外の自習時間は、導入した漢字及び漢字語の練習や定着を図るための練習を行うように指示をしていたが、1人では集中して練習に取り組めない学習者もいた。さらに、真面目に自習に取り組んでいる学習者にとっても、チェックテストを含めて個別の自習時間が1時間程度あるという状況では、授業に出席して漢字を学ぶ意義が感じられにくく、「自習は教室ではなくて自宅で行いたい」という声が聞かれることもあった。

そこで、授業に従来の教師・学習者間のインターアクションに加え、学習者間のインターアクションを有用な学びのリソースとして活用することで、個別の学習以上の学習効果が期待できるのではないかと考え、グループ練習を導入することにした。

## 2.3 授業の構成の見直し

学習者の自宅学習の促進のための教材開発と学習者同士でのグループ練習の導入、この2つを大きな柱として、2009年度より漢字クラスにおける授業の構成を図2のように変更した。

まず、自宅学習を促進するために開発した教材は「予習ワークシート」と「Webクイズ」である。これらの教材の詳細については3で述べる。さらに、自宅学習促進のためには予習用の教材開発を行うだけでなく、自宅学習の成果を授業中に確認できる場を設定することが効果的だと考え、授業開始時に、「予習内容の確認」の時間を新たに設けることにした。また、15週の授業全体を見渡せる「記録シート」を作成し、自宅学習での成果等を毎回記録していく仕組みも作った。

次に、従来は自習時間を各学習者が教科書の練習問題を解く個別学習の時間としていたが、これを「グループ練習」の時間に変更し、同じグループの学習者とやり取りしながらタスクを達成するという形式に変えた。グループ練習の詳細については4で述べる。

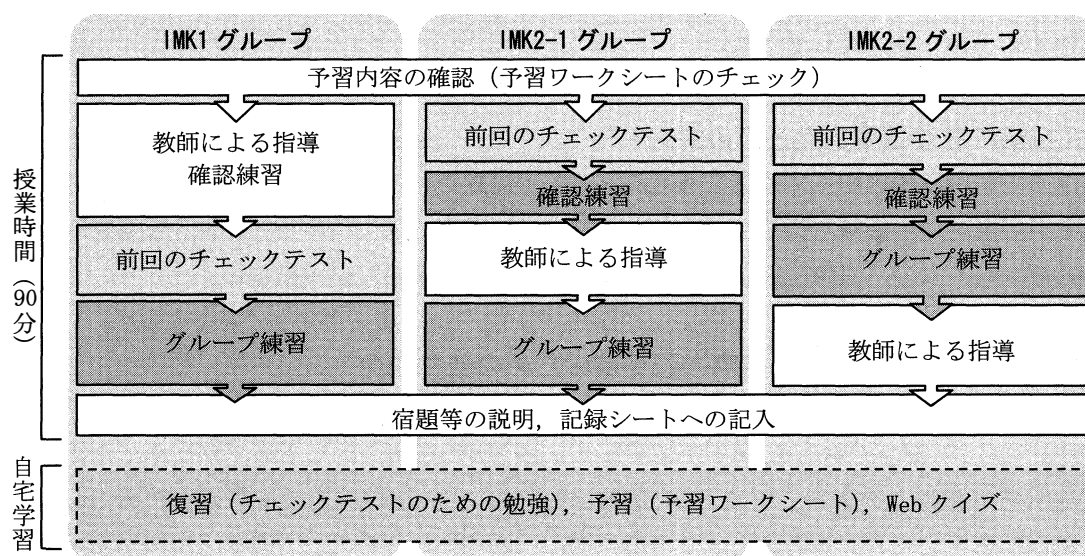


図2 新たな授業構成

また、「予習ワークシート」を開発したことによって、授業中での指導項目もかなり絞り込めるようになったため、教師による指導時に用いる「確認練習用シート」もあわせて作成した。表1に漢字クラス用にこれまでに開発した教材の一覧を示す。

表1 漢字クラス用に開発した教材

	用途	目的と内容
予習ワークシート	自宅学習	授業前に学習者が教科書に一通り目を通してくるように、教科書の流れに沿って、基本事項を設問形式で提示したもの（50点満点）
予習ワークシートの解答シート	予習内容の確認	学習者同士でシートを交換して採点できるように、予習ワークシートの解答及び採点基準を示したもの
説明用スライド	教師による指導時の説明	短時間で教師が効率的に説明できるよう、教科書のポイントと、確認練習用シートの解答を示したもの
確認練習用シート	教師による指導時の確認	教師による説明後の確認用として、学習者が混乱しそうな点や補足的な内容を設問形式で提示したもの
グループ練習用シート	グループ練習時の記入	学習者だけでグループ練習ができるように、また、グループ練習におけるポイントを確認できるように、グループ練習に関する指示、及び、練習時に使用する漢字語等を記入する欄を設けたもの
Webクイズ	自宅学習	授業後に学習者自身で、その課の学習漢字の読みがどの程度習得できているかを確認できるように、各課の学習漢字を含む漢字語の読みを問うWebクイズ
チェックテスト	習得状況の確認	学習者が自身の習得状況を確認できるように、また、自宅での復習を促すため、前回の学習内容から漢字や漢字語の読み、書き、意味や用法等について出題したテスト（『IMK1』は30点満点、『IMK2』は20点満点）
記録シート	学習状況の記録	学習者が自身の学習状況を把握しやすいように、15週全体の学習内容が記載されたシートに、予習ワークシートとチェックテストの結果及び授業の感想を記入する欄を設けたもの

チェックテストや説明用スライドは従来から使用していたものであるが、ほかの教材の開発にあわせて一部修正を加えた。

### 3 自宅学習促進のための教材開発

#### 3.1 予習ワークシートの利用

前述したように、30分程度の短い指導時間では、教師による指導で取り上げられる内容に限りがある。そこで学習者には、各課の要点をまとめた問題形式のワークシート「予習ワークシート」を用いて、各課の要点を予習してくるよう指導している。

予習ワークシートは、『IMK1』についてはA4版1枚、『IMK2』についてはA4版1～2枚のボリュームで、各課の問題数は最大50問とし、15～30分程度でできる内容とした。学習者が教科書を読み進めやすいように、『IMK1』と『IMK2』の要点で提示されている項目順に、その中で特に重要だと思われる点を取り出した。いずれも教科書の要点を読めば簡単に解けるような問題とした。

このシートは宿題として授業の前の週に配布し、次週までの宿題として課している。授業日には学習者同士でシートを交換し合い、解答例を見ながら互いのシートを採点させ、その上で学習者からの疑問点に教師が答えるようにしている。

#### 3.2 予習ワークシート利用の効果

予習ワークシートを導入した目的は、学習者が事前に学習内容に一通り触れることであった。そして、学習者がこのように事前に予習してくることで、授業では学習者が予習で理解できなかった点や漢字語の用法等、学習者だけで学ぶのは困難な内容を集中的に扱うことができ、以前よりも効率的に時間を使うことができるようになった。また、学習者が授業で予習した内容を確認したり、疑問点を教師に質問したりすることで、内容の理解を深めている様子が見られた。

学習者に対して実施した漢字クラスの授業評価アンケートにおいても、予習ワークシートに対するコメントに「予習ワークシートをする時、その授業を自分で理解できます。理解できない点を先生に聞くことにしているので、とても役立っています」「予習している時、教科書や辞書を調べてもわからないことを見つけるのに予習ワークシートが役に立っている」など、肯定的なものが多かった。また、予習ワークシートは予習に限らず復習用としても用いられており、「(予習ワークシートは)テストのためにいい練習だと思います」というコメントや、「チェックテストのために予習ワークシートを使う」という回答もあった。予習ワークシートは各課の基本事項をまとめてあることから、学習した内容を復習する際にも役立っているのだろう。

#### 3.3 Web クイズの利用

『IMK1』では各課に20～22字(復習1の課は10字)、『IMK2』では各課に20～27字の学習漢字

IMK2 L1-1

INTERMEDIATE KANJI BOOK II L 1 名前.....

予習ワークシート (p. 4～p. 6)

①性格を描写する表現

1. 例のように、対になる語を( )から選んで書いてください。 /20

例) 陽気 ⇔ ( ) 陰気 ( )

1) 気が強い ⇔ ( ) 2) 気が利く ⇔ ( )

3) 気が長い ⇔ ( ) 4) 積極的 ⇔ ( )

5) 楽観的 ⇔ ( ) 6) 外交的 ⇔ ( )

7) 理性的 ⇔ ( ) 8) 閉鎖的 ⇔ ( )

9) 無責任 ⇔ ( ) 10) おおらか ⇔ ( )

陰気	開放的	感情的	気が利かない	気が短い	気が弱い
消極的	神経質	責任感がある	内向的	悲観的	

2. 例のように、( )から選んで書いてください。 /14

例) 佐藤さんはいつも元気でしゃべりだ。 ( ) 明るい ( )

1) あの子どもは、自分が知らないことは何でも知たがる。 ( )

2) 田中さんは何でもすぐには信じないで、まず疑ってみる。 ( )

3) あの人、いつも周りの人とうまく協力している。 ( )

4) 山下さんは、何でもすぐに心配する。 ( )

5) 彼はいつでも自分に自信を持っている。 ( )

6) 吉田さんは、ほめられるとすぐに赤くなってしまふ。 ( )

7) あの人、すぐに仕事をさぼろうとする。 ( )

明るい	協調性がある	警戒心が強い	好奇心が強い
自信家	心配性	照れ屋	なまけ者

②言葉に含まれる評価・態度

3. 例のように、( )に漢字を書いて、次の表を完成してください。 /16

肯定的なことば	否定的なことば
例: (内) (向) 的な	引っ込み思案な
静かな	( ) 気な
活 ( ) な	うるさい
警戒心が強い	優柔 ( ) ( ) な
硬い表現	普通の表現
意志 ( ) ( ) な	意志が弱い
( ) ( ) 沈着な	落ち着いた

/50 点 採点者.....

図3 予習ワークシート(『IMK2』第1課)

が提示されているが、これらの学習漢字の有する読みをすべて確認できるように、課ごとに音読みと訓読み別の Web クイズを作成した<sup>1)</sup>。学習者が設問の漢字語の読みをひらがなで入力した後（図 4）、Check ボタンをクリックすると、採点結果と正答が表示されるようになっている（図 5）。

この Web クイズは、誰でもいつでもどこからでもアクセス可能なもので、学習者は授業の予習用としても復習用としても利用できるが、学習者には、授業後の復習用の課題として採点結果のページを印刷したものを、翌週の授業で提出するよう義務づけている。

### 3.4 Web クイズ利用の効果

提出させた Web クイズの点数は成績には反映させていないため、学習者の Web クイズの利用の仕方はさまざまで、辞書や教科書で調べながら解答を入力する学習者もいれば、何も準備せずにクイズをして間違ったところを確認している学習者もいる。Web クイズは問題の提示順がその利用ごとによって変わるため、何度もクイズに挑戦して、一番良い採点結果を提出する学習者もいる。

特にパソコンの利用に慣れた学習者にとって、簡単に学習漢字を練習することのできる Web クイズは好評だった。学習者を対象としたアンケートでも、Web クイズについて「復習や予習のためにはちょうどいいと思います」というコメントが見られた。また、クイズをチェックテストの準備のために利用している学習者もあり、アンケートにも、チェックテストの勉強用によく使用するものとして、Web クイズを挙げた回答が複数見られた。当該課の学習漢字すべての読みが確認できることや、採点結果のページが設問と正答、そして、自分の解答と正誤が一覧で表示され、自身の苦手な読みを確認するのに適しているのだろう。

図 4 Web クイズ画面（設問と解答入力ページ）

問題	正解	あなたの解答	正誤
Q1 地図にペンで「印」をつける。	しるし	しるし	○
Q2 国は「貧しい」が、人々の心は温かい。	まずしい	まずしい	○
Q3 「明日(みょうにち)はちよつと「寒い」言い方です。	かたい	つよい	×
Q4 このコーヒーは味が「薄い」。	うすい	うすい	○
Q5 「独り」はさびしい。早く結婚したい。	ひとり	ひとり	○
Q6 「仏様」をお願いする。	ぼとけさま	ふつさま	×
Q7 「濃い」グレーの服を着ている人が座ります。	こい	こい	○
Q8 この川は「狭い」が、流れが強い。	あさい	あさい	○
Q9 ごろんときに、「足音」をひねってしまった。	あしきび	あしきび	○
Q10 田中さんはこの春、「部長」になった。	かかりちよう	かかりちよう	○
Q11 「世の中」はいろいろな人がいる。	よのなか	よのなか	○
Q12 もう少し「厚い」紙に書いたほうがいい。	あつい	あつい	○
Q13 できるだけむだを「省く」。	はぶく	はぶく	○
Q14 自分を「有る」いい機会となった。	かたみみる	—	×
Q15 彼女は体がとても「軟らかい」。	やわらかい	やわらかい	○
Q16 レシートを「会計係」に出してください。	かいけいかり	かいけいかり	×

図 5 Web クイズ画面（採点結果のページ）

## 4 学習者間のインターアクションの活用

### 4.1 グループ練習の導入

2.2.2 で述べたように、学習者の中には自習時間に集中して練習に取り組めない学習者がいたことや個別の自習時間では授業で漢字を学ぶ意義が感じられにくいことから、自習時間に学習者同士のグループによる練習を取り入れることにした。

グループ練習は、教師による指導以外の自習時間に、学習者がそれぞれ 2～3 人のグループを作り<sup>2)</sup>、各課の要点にかかわる課題に取り組むものである。課題はいずれもその達成を目指す過程で学習者間のインターアクションを生み出すものとなっている。

## 4.2 グループ練習の種類と教材

グループ練習の種類を答えの求め方という観点から分類すると、次の3つに分けられる。1つ目は学習者同士が提示された問題に順に答える課題で、例えば「提示された接辞的用法の漢字に結びつく語を、学習者が順にカードから選んで複合語を作る」(『IMK1』第6課)といったものである。2つ目は学習者が互いに出し合った問題に答える課題で、例えば「カードに書かれた性格を表す漢字語について、そのカードを引いた学習者から出されたヒントを聞いて、その語が何かを当てる」(『IMK2』第1課)といったものである。3つ目は提示された問題に学習者が互いに持っている情報を組み合わせて答える課題で、例えば「学習者が個々に与えられた文例の空欄に入る漢字語(共通の漢字を用いた語、例えば「指導」と「導入」)を書き入れて互いの文を読み合い、共通の漢字が含まれているかどうかを手掛かりに、その語が正しいかどうかを判断する」(『IMK2』第2課)といったものである。各課題は3つの種類のいずれかに該当するが、課によってはこれらを組み合わせたものもある。

グループ練習は学習者のみで行わなければならないため、補助教材としてグループ練習用のワークシート、練習用のカード、解答例のシートを作成した。ワークシートは練習を進めるための指示と、課題を達成していく中で出てくる漢字や漢字語、それらを用いた例文等を書きこむ欄から成る。課題によってはグループのメンバーごとに異なるワークシートが必要なものもあり、その場合はグループの人数に応じて選べるようにした。また、『IMK1』『IMK2』全28課中19課はカードを用いて行う課題となっており、それらには練習用のカードを作成した。解答の提示方法にはグループ内のほかの学習者から与えられるものと、カードの裏に提示されているものがあるが、これらの形で解答が提示しにくいものについては解答例を作成し、学習者自身でチェックできるようにした。課題の中には学習者自身で例文を考える必要のあるものもあり、その例文が正しいかどうかを学習者自身では確認できないため、この場合は授業後にワークシートを回収し、教師がチェックしてフィードバックするという形で対応している。

## 4.3 グループ練習の効果

ここでは、自習時間の有効活用の試みとして導入したグループ練習の効果について述べる。

まず、グループ練習を取り入れたことで、自習時間に何をしたらいいのかがわからずに、あるいは個別の学習では集中できずに、時間を無駄に過ごしてしまうという学習者は見られなくなった。自習時間の有効活用がグループ練習の導入の第一歩であったが、ここには一定の成果があったと言える。

グループ練習における学習者間のインターアクションの内容を観察してみると、課題を達成するために必要なやり取りを行うのに加え、ほかの学習者が答えを考える際のヒントを出す、わからない点を質問するなど、活発にやり取りが行われている様子が見られた。このようなやり取りを通じ、学習者が繰り返し学習内容を確認することで、その理解や定着の促進が図られているのではないかと考えられる。

IMK2 L1-4

INTERMEDIATE KANJI BOOK II L 1

---

### グループ練習

---

どんな性格? ---ことば当てクイズ---

準備:

- ・2〜3人のグループを作ってください。
- ・各グループに1組(12枚)ずつカードを準備してください。

1. カードを裏にして置いて、そこから1人2枚ずつ取ってください。他の人にカードに書かれたことばを見せないでください。
2. カードには、性格を表すことばが書いてあります。自分がもらったカードのことばについて、
  - 1) ことばの意味がわからなかったら、辞書や教科書で調べてください。
  - 2) 例のように、カードに書かれたことばの説明を3つ書いてください。

ことば	ことばの説明
例: 悲観的	① 将来について考えるとき、何でも悪い方へ考えます。 ② このような性格の人は、何かを始めるときに慎重になるかもしれません。 ③ 反対の意味のことばは「楽観的」です。
① ② ③	
① ② ③	

3. グループの人に、2で考えた説明の①を話してください。聞いた人は、カードに書かれたことばが何なのか考えて、下の表の「①」のところにそのことばを書いてください。終わったら、②、③の説明についても、同じようにしてください。

名前	①	②	③
さん			
さん			
さん			

4. カードを見て、答えを確認してください。上の表に書いた漢字が正しいかどうかもう一度確かめてください。
5. 時間があったら、1〜4をくりかえしてください。

図6 グループ練習用シート(『IMK2』第1課)

実際、学習者を対象として行ったアンケート及びインタビューのコメントの中にも「グループ練習は習った漢字や言葉を話し合って練習しているので、覚えやすくて、応用練習になっています」「相互に練習すると、自分で勉強するより速いし、深く理解できます」「覚えにくい漢字や言葉をグループ練習を通じて楽しく覚えています」など、学習内容の理解や定着にかかわるものが多く見られた。2008年度後期と2009年度前期の2期にわたって漢字クラスを受講し、改善前と改善後、両方の授業を経験している学習者の中には、チェックテストの平均点が20点満点中14.1点(100点換算で70.5点)から17.8点(100点換算で89.0点)に伸びた者もいた。学習者自身もそれを自覚しており、漢字クラスに関するインタビューにおいても「今回(2009年度前期)の方がいい。グループでいろんな漢字や漢字の使い方とかを勉強するのは一番いいんじゃないかと思います。3人で勉強していると、1人があるポイントがわからなかったりする場合、ほかの人はこれをよく理解できていて、教えてもらおうとかします」と答えていた。このグループは漢字圏と非漢字圏の学習者の混合グループで、互いの専門も異なるグループであったが、非漢字圏学習者が漢字の読みや用法を、漢字圏学習者が漢字の書き方を教えるなど、それぞれの不得意分野を互いに補い合って練習を進めていく様子が観察された。これは、学習者各々の背景の違いがグループ練習に活かされ、学習に有機的に働いた結果だと考えられる。

さらに、グループ内の学習者間の関係性を築くのに、グループ練習が一役買っている様子がうかがわれた。学習者のコメントの中にも「グループ練習が大好きです。その時、練習すると同時に〇〇さんと仲良くなります」というものがあつた。実際この学習者は、コメントの中に挙がっていた学習者とグループ練習以外の時間でも疑問点を互いに聞き合ったり、漢字学習に関する情報を交換したりと、活発にやり取りしていた。継続的に漢字学習を続けていく上で、共に学ぶ仲間の存在は学習への負担感を多少なりとも軽減し、学習意欲を喚起することにつながる。専門の研究の忙しさから欠席が多くなったり、途中で受講を取りやめたりする学習者も少なくないが、このような学習者が減ってきたことも、グループ練習による学習者相互の関係性の確立が継続的な漢字学習に貢献していることの1つの現れではないかと考えられる。

学習者のコメントには「グループ練習がおもしろいと思います」「いろいろな練習があるので、楽しい。やる気になる」「おもしろい。雰囲気が活発になる」といった情意面に関するものも多く見られた。これは、ゲーム的な要素を取り入れた課題のおもしろさに加えて、ほかの学習者とのインターアクション自体が楽しいと学習者が感じている結果だとも言える。

## 5 学習者の学びの活性化

以上述べてきた授業改善の結果を漢字学習全体の構成として図示すると、図7のようになる。図7を見ると、授業改善として自宅学習も含めた漢字学習全体を構成し直した結果、学習者が学習内容の理解の確認と定着の促進のためのプロセスを何度も繰り返すようになっていることがわかる。「予習」「教師による指導」「グループ練習」「復習」「チェックテスト」といった個々の活動を、「個人」「学習者・教師間」「学習者間」といった多様な形態で行うことで、それぞれが有機的に結びつき、学習者の学びを活性化している。当初は複数レベルの学習者を対象とした漢字クラスを効率的に行うための授業改善であったが、今回の漢字学習全体の構成は、複式授業だけでなく、学習者のレベルが比較的そろった一斉授業においても、有意義な方法になるだろうと予想される。

改善前と改善後の両方の授業を受講している学習者のコメントに「今回の授業のやり方がよりいい、よりふさわしいと思っています」というものがあつた。さらに、この学習者は「2009年度前期に受講した時の方が漢字をよく勉強するようになった」と繰り返し述べている。これも授業改善による学習の活性化が学習者の学びに貢献した結果ではないかと考えられる。

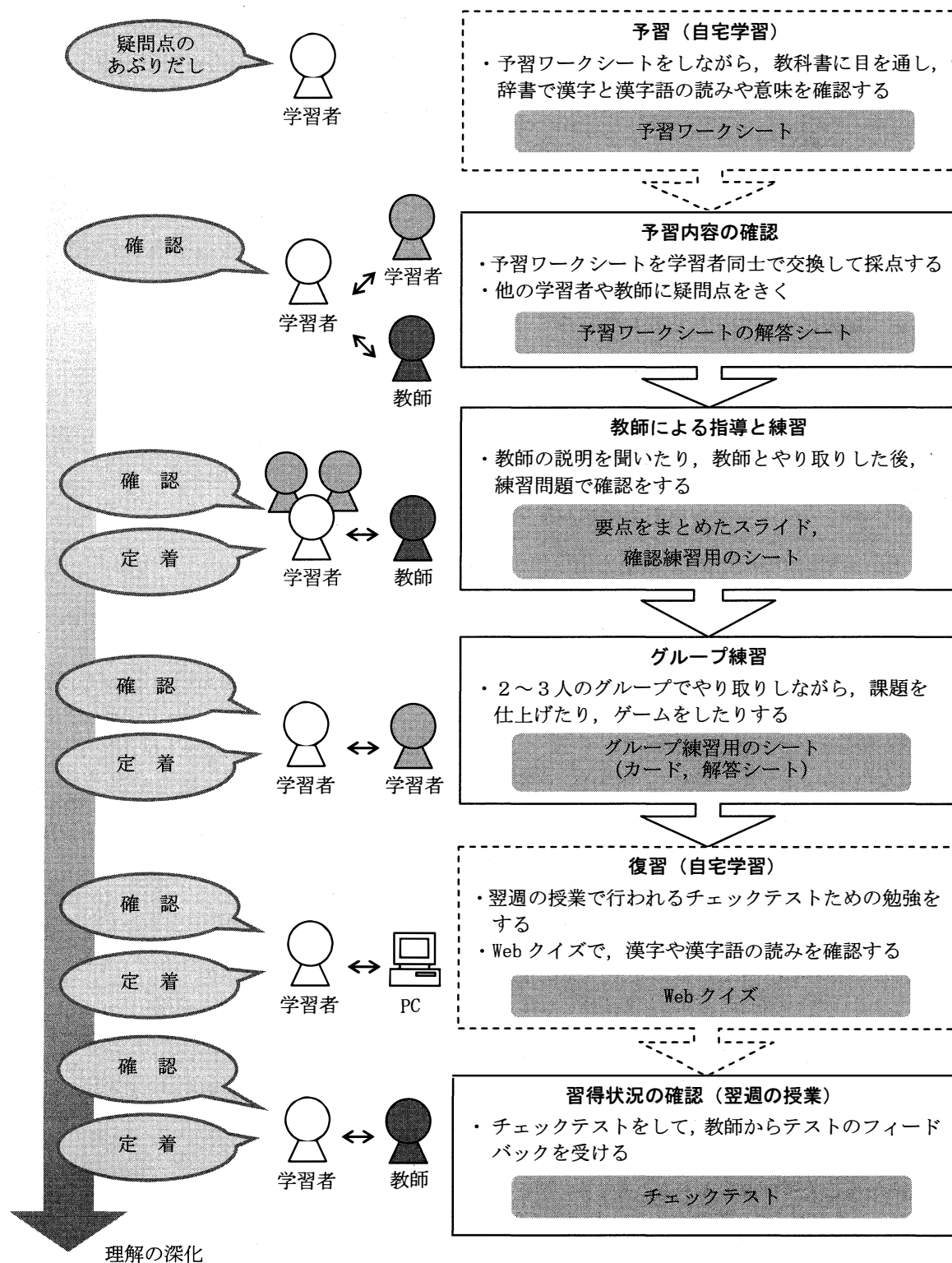


図7 学習者の学びのプロセス

## 6 おわりに

今回の授業改善と教材開発は，複数レベルの学習者が混在する漢字クラスにおいて，効率的に教師による指導を進めるため，そして自習時間を有効に使うための方策を探ることが出発点であった。その方法として自宅学習の充実やグループ練習の導入を図ってきたが，これらについては一定の成果を上げることができた。そして，この授業改善の過程で自宅学習をも含めた漢字学習全体を構成し直すことにより，学習者の学びを活性化し，理解や定着を促すものに改善することもできた。しかし，このような授業を試みる中で，特にグループ練習に関して新たに改善すべき点も生まれた。



1 つは、グループ練習に対するフィードバックを十分に行うことができるような体制作りである。教師は1つのグループの指導を行っている場合でも常にほかのグループの学習の進行程度や様子を把握するようにしている。グループ練習の解答についても学習者自身でチェックできるような体制にし、授業終了時にグループ練習用ワークシートをチェックするようにもしているが、そのフィードバックが十分にできているとは言いにくく、この点については改善していく必要がある。

もう1つは、グループ練習の課題を学習者の特性に応じて選択して与えることができるよう、課題そのものの種類や課題を達成するための方法を変えるなどして、そのバリエーションを増やすことである。前述したように、グループ練習に対する学習者のコメントは肯定的なものが大半を占めていたが、一方で、グループ練習について「あまりおもしろくない」と答えた学習者もわずかだがいた。ゲーム的な要素の多い練習よりは、問題を地道に解くといった練習を好むタイプの学習者もいることから、それぞれの学習者の学習傾向に応じた課題の種類や練習方法を探っていく必要があるだろう。そのためには、課題の種類について、難易度や生じるインターアクションの質等さまざまな観点から分析し、分類し直す必要がある。そしてさらに、課題の分析を進めてそれぞれの学習内容の習得に効果的に結びつくような課題の種類を探ることで、その内容を修正しながらグループ練習の質を高めていきたいと考えている。

## 注

- 1) Web クイズは、富山大学留学生センターの「問題作成システム」を用いて作成した。「日本語学習者向け漢字学習サイト漢字園」(<http://www3.u-toyama.ac.jp/niho/kanjien.html>) からアクセスできる。
- 2) 2009 年度前期は、IMK1 グループ 2 人、IMK2-1 グループ 2 人、IMK2-2 グループ 3 人、2009 年度後期は、IMK1 グループ 4 人、IMK2-1 グループ 3 人、IMK2-2 グループ 2 人であった。期によっては同じグループの学習者が学期途中で受講を取りやめた、あるいは授業を欠席したことで、グループ内の学習者が 1 人だけになる場合もあった。その際、グループ練習は、学習者が 1 人でもできる課題は 1 人で行わせ、学習者が互いに問題を出し合って答える課題や 1 人では達成できない課題は、事前に教師がほかの学習者役として問題を録音したものをを使って練習させるなどして対応した。また課題によっては、別のグループ練習に合流させるということもあった。

## 参考文献

- (1) 青木直子・尾崎明人・土岐哲編 (2001)『日本語教育学を学ぶ人のために』, 世界思想社
- (2) 石井恵理子 (1998)「非母語話者に対する漢字教育」『日本語学』Vol.17 pp.73-83, 明治書院
- (3) 加納千恵子 (1994)「漢字教育のためのシラバス案」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』pp.41-50, 筑波大学留学生センター
- (4) 加納千恵子 (2008)「レベル別漢字語彙処理能力テストの問題形式ー web 漢字テストのマルチレベル化に向けてー」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』pp.1-13, 筑波大学留学生センター
- (5) 小柳かおる (2004)『日本語教師のための新しい言語習得概論』, スリーエーネットワーク
- (6) 高嶋智美・濱田美和 (2009)「レベルの異なる学習者を対象とした漢字クラスにおける実践ー学習者間のインターアクションを取り入れた指導ー」, JSAA-ICJLE2009 国際研究大会 (於, オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学) 発表資料
- (7) 豊田悦子 (1995)「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育』85 号 pp.101-113, 日本語教育学会



# Ⅱ 年報

---

(2009年4月～2010年3月)



## 1. 留学生センター1年の歩み

富山大学留学生センターは、学内共同教育研究施設として、1999年4月に文部省（現在の文部科学省）省令により設置された。

富山大学は2004年に国立大学法人となり、2005年10月には富山大学（五福地区）、富山医科薬科大学（杉谷地区）、高岡短期大学（高岡地区）の県内3大学が再編・統合されて国立大学法人富山大学となった。統合後は、3地区から「富山大学留学生センター運営委員会」の委員が選出され、留学生センターの管理運営に関する重要事項について審議している。2009年度は、黒田重靖センター長を委員長として、3回の運営委員会が開催された。2月18日に開催された「平成21年度第3回留学生センター運営委員会」では、黒田センター長が任期半ばの2010年3月末でセンター長職を辞することになったため、次期センター長選出の審議がなされ、人文学部の山本孝一教授が選出された。

日本語教育部門では、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラムの4コースを開講した。本年度も日本語研修コースと日本語課外補講の合同授業化を進め、これまでと同様に専任教員がコースコーディネーターを務めた。各コースでは、学生の出欠状況や学習進捗状況を包括的に見渡して情報を得るため、毎日の授業内容を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して、日々の授業に取り組んだ。日本語課外補講と総合日本語コースの授業シラバスは、英語版と中国語版も提供している。その他、日本語学習を支援するためのサイト「富山大学留学生センター日本語学習支援サイト RAICHO」の運営および新たなコンテンツの開発、留学生からの日本語に関する様々な相談に応じる「日本語相談」の実施も引き続き行い、本学で学ぶ留学生の日本語学習を多方面から支援した。

留学生指導部門では、留学生が留学生活で困難を感じる事がないように、異文化教育を始め各種オリエンテーションを実施した。また、留学生や日本人学生等に対する指導・助言および留学相談のための面談を行った。今年度は、海外留学に関する情報提供のため、留学相談の面談に加え「留学座談会」と「セント・アンセルム大学留学説明会」を開催し、『留学体験記集』を発行した。さらに、異文化教育の一環として、異文化交流パーティー、ホームビジット、ホームステイ等の留学生と日本人間の異文化相互理解を深める活動を行った。

学部教養教育（五福地区）では、センターの5教員全員が外国人留学生のために開講されている「日本語」と「日本事情」科目を担当し、総合科目である「日本事情」では担当教員が授業をコーディネートした。

2009年9月および2010年2月には、留学生指導の充実をはかるため、「富山大学留学生教育指導連絡会議」を開催し、留学生に関する様々な問題について、各学部および事務組織と情報交換・意見交換を行った。また、「富山県留学生等交流推進会議」総会後に開催される「留学生との座談会」では、参加学生達への指導助言および司会をするなどの協力をした。

留学生センター教員は、本年度もセンター業務を順調かつ確実に遂行した。今後も、留学生に対する教育および支援の充実をはかる。

## 2. 日本語教育部門

### 日本語研修コース報告（2009 年 4 月～ 2010 年 3 月）

後藤寛樹

#### 1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年 4 月と 10 月に開講し、各期 15 週間 75 日のコースを提供している。富山大学留学生センターでは、1999 年 10 月に第 1 期を開講し、2010 年 3 月には第 21 期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000 年 10 月開講の第 3 期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2009 年 4 月から開講した第 20 期と同年 10 月から開講した第 21 期について報告する。

#### 2 受講者

第 20 期は、文部科学省からの配置学生はなく、学内公募による私費留学生 6 人が受講・修了した。第 21 期は、文部科学省から大使館推薦で配置された教員研修留学生 1 人、日韓共同理工系学部留学生事業に基づいて本学に配置された学生（以下、「日韓生」とする）2 人に加え、学内公募による私費留学生 4 人が参加し、合計 7 人が受講・修了した。第 20 期、第 21 期の受講・修了者は表 1 の通りである。

表 1 日本語研修コース受講・修了者（第 20 期・第 21 期）

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
20	陳 佳 (チン カ)	中 国	富山大学 清家 彰敏 教授
	沙 子 鈞 (シャ コキン)	中 国	富山大学 唐 政 教授
	錢 友 幸 (セン ユウコウ)	中 国	富山大学 清家 彰敏 教授
	唐 凌 (トウ リョウ)	中 国	富山大学 唐 政 教授
	王 石 (オウ セキ)	中 国	富山大学 中嶋 芳雄 教授
	ハウ フン タオ	ベトナム	富山大学 山田 恭司 教授
21	スシュミタ マンダル	イ ン ド	富山大学 小川 亮 教授
	安 大 煥 (アン デファン)	韓 国	富山大学 チャピ ゲンツイ 准教授
	金 兌 亨 (キム テヒョン)	韓 国	富山大学 松島 房和 教授
	婁 艶 輝 (ロウ エンキ)	中 国	富山大学 岡田 裕之 教授
	呉 玲 (ゴ レイ)	中 国	富山大学 馬 駿 教授
	山都哈什 托坎 (サンドゥハシ トカン)	中 国	富山大学 升方 勝己 教授
	徐 哲 (ジョ テツ)	中 国	富山大学 唐 政 教授

※第 20 期は、上記の学生に加え、3 人の私費研究生が受講していたが、いずれもコースの修了要件を満たさず、修了の認定がなされなかった。

※指導教員の職名は、それぞれコース修了時点の職名を記してある。

### 3 コース担当者

第20期、第21期ともに、センター専任教員5人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治、濱田美和）と、非常勤講師6人（中河和子、深川美帆、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子）が授業を担当し、後藤寛樹がコーディネートを担当した。

### 4 コーススケジュール

第20期は、2009年4月9日（木）に開講式、同年9月14日（月）に修了式を、第21期は、2009年10月8日（木）に開講式、2010年3月4日（木）に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

#### <第20期>

2009年 4月7日（火） 学内公募選考  
4月8日（水） 学内公募受講生：オリエンテーション  
4月9日（木） 開講式  
4月10日（金） 授業開始  
5月27日（水） 異文化交流パーティー  
6月12日（金） フィールドトリップ（（株）生産技術）  
6月26日（金） 「私の国」発表会  
7月25日（土） ホームビジット  
7月31日（金）～8月31日（月） 夏季休業  
9月2日（水） スピーチ発表会（「私の専門」発表会）  
9月14日（月） 修了式

#### <第21期>

2009年 10月6日（火） 文科省配置学生：諸手続き、オリエンテーション  
学内公募選考  
10月7日（水） 学内公募受講生：オリエンテーション  
10月8日（木） 開講式  
10月9日（金） 授業開始  
11月18日（水） 異文化交流パーティー  
12月18日（金） 「私の国」発表会  
12月23日（水）～2010年1月3日（日） 冬季休業  
2010年 1月22日（金） フィールドトリップ（富山市民俗民芸村・五百羅漢）  
2月6日（土）・7日（日） ホームステイ、ホームビジット  
2月16日（火） スピーチ発表会（「私の専門」発表会）  
3月4日（木） 修了式

### 5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日本事情、コンピュータを中心とした内容で行った（表2、3参照）。初級クラスの文法10コマ中8コマと聴解1コマ、中級クラスの午前中の10コマ（文法8コマ、聴解、会話各1コマ）は日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の

専門」プロジェクトも課した。

第20期は、受講者を日本語能力に応じて初級と中級の2つのレベルに分けて授業を行った。第21期も同様に、受講者の日本語能力に応じて初級と中級の2つのレベルに分けたが、中級レベルは日韓生のみであったので、日韓生が専門科目の授業を受けている時間帯は、初級レベルの学生をさらに2つのクラスに分けて授業を行った。

## 5.1 時間割

表2 第20期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (要門)	文法 (高島)	文法 (要門)	文法 (高島)	作文 (加藤)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	文法 (加藤)
火	文法 (横堀)	聴解 (濱田)	文法 (横堀)	会話 (副島)	聴解 (濱田)	作文 (藤田)	特別指導 (加藤・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (後藤)	文法 (中河)	文法 (後藤)	文法 (中河)	読解 (横堀)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 (副島)	文法 (高島)	文法 (副島)	コンピュータ (後藤)	文法 (加藤)	文字・漢字 (副島)	コンピュータ (後藤)
金	文法 (深川)	文法 (松岡)	文法 (深川)	文法 (松岡)	会話 (後藤)	読解 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤・副島)

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

表3 第21期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	初級 / 中級 *	初級	初級 / 中級 *
月	文法 (要門)	文法 (高島)	文法 (要門)	文法 (高島)	聴解 (加藤)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	聴解 (加藤)
火	文法 (横堀)	聴解 (加藤)	文法 (横堀)	会話 (副島)	作文 (藤田)	作文 (加藤)	特別指導 (加藤・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (後藤)	文法 (中河)	文法 (後藤)	文法 (中河)	読解 (横堀)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 (副島)	文法 (高島)	文法 (副島)	コンピュータ (後藤)	文字・漢字 (加藤)	文字・漢字 (副島)	コンピュータ (後藤)
金	文法 (深川)	文法 (松岡)	文法 (深川)	文法 (松岡)	会話 (後藤)	会話 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤・副島)

\* 「日本事情」「特別指導」以外の午後のクラスについては、日韓生が出席する水3限の「文字・漢字」を中級レベルとして開講し、その他を初級レベルのクラスとして開講した。

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

## 5.2 日本語科目

初級クラスでは、基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

中級クラスでは、これまでに身につけた文法や語彙の知識をもとに、中級レベルの文法や語彙を習得し、運用力をつけることを目指して授業を行った。さらに、第20期は、初級の文法事項の復習や整理の時間も設け、基礎力の補強も行った。

また、どちらのクラスでも、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

各クラスで使用した教科書等は以下の通りである。

### 初級クラス

主教材 『みんなの日本語』初級Ⅰ、Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『かなマスター』（専門教育出版）、『Basic Kanji Book』Vol.1, 2（凡人社）

『毎日の発音練習』（独自開発テキスト）

副教材 『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』『みんなの日本語 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）、『わくわく文法リスニング 99』（凡人社）、『クラス活動集 101』『クラス活動集 131』（スリーエーネットワーク）、『絵とタスクで学ぶにほんご』（凡人社）、『にほんごきいてはなして』（ジャパントイムズ）、『楽しく聞こう』『楽しく話そう』（凡人社）など

### 中級クラス

主教材 『J.Bridge』（凡人社）

『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語』初級Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『新・毎日の聞き取り 50 日－上－』（凡人社）

『Intermediate Kanji Book』Vol.1（凡人社）

『毎日の発音練習』（独自開発テキスト）

## 5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

## 5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

留学生には、日本語のコンピュータ用語が漢字語やカタカナ語が多いために難解であること、促音や拗音などの特殊音の入力が難しいなど、特有の問題があるが、それを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

〔使用テキスト〕『日本語学習者のためのアカデミックインフォメーションリテラシー』

（独自開発テキスト）

## 5.5 口頭発表プロジェクト

### 5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。また、日韓生についても、コース修了後には学部の日本人学生とともにさまざまな授業を履修しなければならない。本コースでは、留学生が日本の大学・大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。学生それぞれの留学目的に合わせて、大学院進学予定の学生は、これまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について、教員研修留学生は、自国の教育制度の説明と富山大学で学びたい内容について、日韓生は、学部進学後に学びたい内容について、原稿を作成し、スピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2 参照)。さらに、学生は発表原稿を元にしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第20期、第21期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3 参照)。

### 5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第20期は2009年9月2日(水)に、第21期は2010年2月16日(火)に、それぞれ午後1時半より開催した。第20期は25人、第21期は24人の出席者があった。出席者は学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学務部学生支援グループ留学支援チーム職員、ホストファミリー、富山大学の留学生および日本人学生などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。教員が原稿を朗読しテープに吹き込んだものを作成して学生に渡したり、授業時間以外にも発表の原稿をチェックするなどして、指導にあたった。

### 5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成した他、それぞれの期の中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

## 6 成績評価

初級クラスでは、メインテキスト(『みんなの日本語』)に基づく定期試験および文字・漢字の試験を実施し、中級クラスでは、メインテキスト(『J.Bridge』『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』)に基づく定期試験を実施し、また、聴解、会話、漢字のクラスでもそれぞれ試験を実施した。口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。



## 7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるために、コース終了時にコースエバリュエーションのアンケートを行っている。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、授業の内容、テキスト、教師の教え方、コンピュータ授業、口頭発表プロジェクト、日本人学生との時間、ホームステイ・ホームビジットについて、調査を行った。それぞれの期のコース評価の結果を表4、表5に示す。なお、回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものがあるが、回答結果については後者の結果のみを掲載している。第21期の回答結果については、アスタリスクがついた項目は、日韓生も含めた回答結果である。また、自由意見は日本語または英語で記入させ、英語から日本語への翻訳、日本語の訂正はコーディネーターが行った。

表4 第20期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
<b>(コース全体)</b> コースは役に立ったか： 5段階評点 スケジュールはどうだったか： 忙しすぎる1人, 忙しい1人, ちょうどいい4人 日本語は上達したか： した4人, 普通2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学がちょっと少ない。</li> <li>・私はこのコースが好きです。</li> </ul>
<b>(日本語の授業)</b> 授業はどうだったか： 5段階評点 教科書はどうだったか： 5段階評点 ハンドアウトはどうだったか： 5段階評点 教師の教え方はどうだったか： 5段階評点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はちょっと速いです。</li> </ul>
<b>(テスト)</b> テストはどうだったか： 5段階評点 テストは多かったか： 多い1人, ちょうどよい5人	
<b>(コンピュータ授業)</b> 授業は役に立ったか： 5段階評点 テキストはどうだったか： 5段階評点 教え方はどうだったか： 5段階評点	
<b>(口頭発表プロジェクト)</b> プロジェクトはたいへんだったか： たいへん3人, ふつう3人 プロジェクトは役に立ったか： 5段階評点 発表会は役に立ったか： 5段階評点	
<b>(見学)</b> 見学は楽しかったか： はい6人  見学場所は適当だったか： はい6人 見学の時期は適当だったか： はい6人	どんなところが楽しかったか <ul style="list-style-type: none"> <li>・知能ロボットを見た。</li> <li>・ロボットが好きだ。</li> <li>・ロボットを見た。</li> <li>・踊りを踊るロボットを見た。</li> </ul>

<p>(ホームビジット) 参加した5人の回答</p> <p>ホームビジットは楽しかったか： はい5人</p> <p>ホームビジットの時期は適当だったか： はい5人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パークゴルフをした。</li> <li>・日本の文化と習慣を理解した。</li> <li>・祭りを見に行った。</li> </ul>
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか： (自由記述のみ)</p> <p>日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う6人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語をよく練習しました。よかったと思います。</li> <li>・役に立ちます。</li> <li>・一緒にスポーツをしたらいいと思います。</li> <li>・楽しかった。(2人)</li> <li>・役に立ちます。日本の文化をたくさん教わりました。</li> </ul> <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものときから日本の生活と習俗が好きだから。</li> <li>・もし、日本の文化がわかれば、生活しやすくなります。そして、日本の友だちと話すのも簡単になります。</li> </ul>

表5 第21期コース評価

質問及び回答結果	自 由 意 見
<p>(コース全体)</p> <p>コースは役に立ったか： 5段階評点</p> <p>スケジュールはどうだったか： 忙しい2人, ちょうどいい3人</p> <p>日本語は上達したか*： した4人, 普通2人, しなかった1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっと速いと思う。</li> <li>・会話の練習がたくさんあった方がいい。</li> </ul>
<p>(日本語の授業)*</p> <p>授業はどうだったか： 5段階評点</p> <p>教科書はどうだったか： 5段階評点</p> <p>ハンドアウトはどうだったか： 5段階評点</p> <p>教師の教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく計画されたコースだった。</li> <li>・ちょっと速い。もっと進度がゆっくりの方がいい。</li> <li>・日本語の授業はとてもいい。4月からも時間があるときに留学生センターで日本語を勉強したい。</li> <li>・学部に入るためには、今足りないと思う。</li> <li>・ちょうどよかったが、学生の方がもっと多かったらいいと思う。</li> </ul>
<p>(テスト)*</p> <p>テストはどうだったか： 5段階評点</p> <p>テストは多かったか： ちょうどよい5人, 少ない2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの前にもっと復習があるとよい。</li> <li>・もっとたくさんあった方がいい。</li> <li>・テストは難しかったが、役に立った。</li> <li>・少ししか勉強しなくても、普通の点数が取れたので、もっと勉強をがんばろうという気持ちはあまりなかった。</li> </ul>

<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか： 5段階評点</p> <p>テキストはどうだったか： 5段階評点</p> <p>教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	
<p>(口頭発表プロジェクト) *</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： たいへん2人、ふつう5人</p> <p>プロジェクトは役に立ったか： 5段階評点</p> <p>発表会は役に立ったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語を使う自信をつけるのにいい機会だった。</li> <li>・日本語の練習にいい。</li> <li>・少し大変だった。</li> </ul>
<p>(見学)</p> <p>見学は楽しかったか： はい5人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい5人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい5人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化を知ることができた。(3人)</li> <li>・日本の古いものが楽しかった。</li> <li>・五百羅漢。</li> </ul> <p>・日本文化を学べるところへ行きたい。</p> <p>・土日に行けるともっとよい。</p>
<p>(ホームステイ・ホームビジット) *</p> <p>ホームステイ・ホームビジットは楽しかったか： はい7人</p> <p>時期は適当だったか： はい7人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストファミリーがとても親切だった。</li> <li>・ひな人形を飾った。</li> <li>・日本人家族と一緒に食事したり、遊んだりした。よかったと思う。</li> <li>・日本人の生活を体験できた。</li> <li>・日本のおいしい食べ物。</li> <li>・学校以外の日本人に会えたこと。</li> </ul>
<p>(日本事情) *</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p> <p>日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う7人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばらしい経験でした。</li> <li>・よかった。日本語の勉強になったし、日本の文化についても知ることができた。</li> <li>・とても楽しかったと思う。</li> <li>・よかった。(2人)</li> <li>・日本の友達がいらないから、日本語を練習するのに一番いい機会だった。</li> <li>・中級レベルの会話ができたならもっといいと思う。</li> </ul> <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来日本語を教えなければならないので、日本について知るいい機会になった。</li> <li>・日本人と交流すると日本の文化がよくわかる。</li> <li>・日本で生活するためには、日本語だけではなく、日本の文化も知らなければならないと思う。</li> <li>・日本で生活するのに必要。</li> <li>・日本で長く生活するので、日本の文化を知ることが必要。</li> <li>・自分の国と文化が違うから。</li> <li>・日本人と接する機会があるから。</li> </ul>

このコースは1日4コマ、75日間の集中コースということもあり、受講者の中には研究活動を同時に進めながら受講している留学生がいるため、どうしてもスケジュールが忙しいととらえられてしまう傾向がある。とはいえ、第20、21期ともに、コースは役に立ったかという問いに対して、5段階評点でも平均4.7以上の回答が得られていることから、受講者のコースへの満足度は高かったと言ってよいだろう。自己の日本語の上達度についての問いに、多くの学生が「上達した」と答えており、この点からも受講者のコースへの満足度の高さがうかがえる。

日本語の授業やテストについての問いでは、5段階評点ではどの項目も平均4.5以上の回答が得られているが、自由記述で第20、21期ともに「進度が速い」という記述が見られた。どちらも初級の学生の回答であるが、初級クラスでは75日の授業期間で『みんなの日本語』I、IIを終え、間に定期テストも数回入るために、1日ないしは2日で1課進むというスケジュールになっており、どうしてもこのような意見が出てしまうことがある。これまでも在籍者の数や学習状況等に応じて、スケジュールの調整を行ってきたが、間になるべく復習日を入れるなどして、学生の負担が少しでも軽くなるように、授業スケジュールの調整や検討を引き続き行っていく必要がある。

コンピュータの授業や口頭発表プロジェクトについても、概ね高い評価を得ている。富山大学に留学生センターが設置された当初は、コンピュータの扱いに慣れていない留学生も多かったが、最近では、来日前に既に母語環境あるいは英語環境のコンピュータを使いこなしている留学生がほとんどである。そのような状況にあってもコンピュータの授業への評価は高く、それだけ日本語環境でのコンピュータの使用は留学生にとって困難を伴うものと言えるだろう。口頭発表プロジェクトは、それぞれの専門について日本語で説明するというプロジェクトであり、発表会にいたるまでにかなりの労力と時間が必要となる。実際、口頭発表プロジェクトに対する質問でも、「大変であった」という回答が見られたが、一方で、自由記述では、「日本語を使う自信をつけるのにいい機会だった」「日本語の練習にいい」という記述も見られ、このプロジェクトが学生にとって良い動機付けになっていることもうかがえる。

見学、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても概ね良い評価が得られた。受講した学生たちは、これらの機会を、学んだ日本語を使う練習の場や日本の文化や週間を学ぶ場として、教室での日本語学習以外に日本や日本語について学ぶ良い機会だととらえられているようである。

## 8 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2009年9月で、第1期の開講から丸10年を迎えた。2010年3月には第21期生を送り出し、これまでの修了生は、文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて145人となった。この10年の間にも、コースを取り巻く状況の変化などに合わせてコース内容等を少しずつ変えてきたが、引き続きコースの運営のあり方や内容等を検討していく必要がある。特に、日本語研修コースの授業の一部を日本語課外補講との合同クラスとして開講するようになって4年が経過し、合同クラスとしての利点もある反面、ニーズや出席要件の異なる学生が同時に授業を受けることによる欠点も見え始めている。2010年度には、これまで研修コース単独の授業として開講していた初級クラスの一部の授業科目および内容を改め、日本語課外補講の学生も受講できるようにすることになっている。つまり、合同授業となる科目が新たに増えることになるので、現在見えてきている合同クラスの欠点をどのように補っていくかが大きな課題であると言える。

また、第20期は、3人の学生が修了要件を満たさずにコースを修了することができないという残念な結果となってしまった。この背景には、日本語の学習だけでなく、大学院入試の準備も含めた様々な事情があると考えられる。コースあるいは留学生センターだけでは解決できない側面も有していると思われるが、このようなことが続けて起こらないようにするために、コースとして、また留学生センターとしてどのような対策が取れるか考えていかなければならない。

今後も、指導教員や留学生のニーズをはじめ、日本語研修コースを取り巻く状況は変化していくことが予想される。さまざまな変化に瞬時に対応し、より中身の濃いコースが提供できるように、センター教員、コース担当非常勤講師をはじめ、受講者の指導教員や事務系職員とも連携を密にして指導にあたっていきたい。

# 日本語課外補講報告（2009 年 4 月～2010 年 3 月）

濱田美和

## 1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラス、及び、中級・上級クラスの共通科目「漢字」を開講している。2009年度は、前期（2009年4月～9月）と後期（2009年10月～2010年3月）にそれぞれ15週間開講した。

以下、2009年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、2005年10月に富山大学（五福キャンパス）、富山医科薬科大学（杉谷キャンパス）、高岡短期大学（高岡キャンパス）の3大学が再編・統合したことにより、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて留学生センターが実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものとの2つとなったが、本稿では、五福キャンパスで留学生センターが実施している日本語課外補講について報告する。

## 2 受講者

前期は、初級クラスが8人、中級クラスが11人、上級クラスが27人、計46人（大学院生15人、研究生14人、特別聴講学生9人、特別研究学生、日本語・日本文化研修留学生、科目等履修生（県費留学生）各2人、学部生、教員研修生各1人）が日本語課外補講を受講している。46人の国・地域別の内訳は、中国35人、韓国3人、ロシア2人、アメリカ合衆国、インドネシア、チェコ、フィンランド、モロッコ、モンゴル各1人となっている。また、所属別の内訳は、経済学部13人、理工学教育部8人、人文学部7人、経済学研究科、工学部各4人、芸術文化学部、教育学研究科、生命融合科学教育部各2人、人間発達科学部、理学部、人文科学研究科、医学薬学教育部各1人となっている。

後期は、初級クラスが13人、中級クラスが15人、上級クラスが25人、計53人（研究生17人、特別聴講学生10人、大学院生13人、特別研究学生、日本語・日本文化研修留学生各5人、学部生、科目等履修生（県費留学生）、客員研究員各1人）が日本語課外補講を受講している。53人の国・地域別の内訳は、中国36人、韓国6人、チェコ、ミャンマー各2人、インド、インドネシア、エジプト、バングラデシュ、ベトナム、モンゴル、ロシア各1人となっている。また、所属別の内訳は、理工学教育部12人、人文学部、経済学部各10人、工学部8人、芸術文化学部、生命融合科学教育部各3人、人間発達科学部、人文科学研究科各2人、理学部、経済学研究科、医学薬学教育部各1人となっている。

なお、日本語・日本文化研修留学生、及び、協定校からの短期留学生については、日本語課外補講上級クラスで開講している科目を、総合日本語コースの科目として受講している（詳細は、総合日本語コース報告、短期留学生報告を参照）。

## 3 授業担当者

前期、後期ともに、センター専任教員2人（加藤扶久美、濱田美和）、及び謝金講師（日本語研修コースとの合同授業については非常勤講師）9人（遠藤祥子、高畠智美、中河和子、永山香織、深川美帆、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子）が授業を担当した。濱田美和がコーディネートを行った。

## 4 授業日程

前期は4月10日（金）～7月30日（木）を授業期間とした。曜日調整のため、5月1日（金）は水

曜日、7月23日（木）は月曜日の授業を行った。

後期は10月9日（金）～2月9日（火）を授業期間とした。12月23日（水）～31日（木）は冬季休業、1月15日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、1月12日（火）は月曜日の授業を行った。

学期ごとに、留学生センター専任教員5人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治、濱田美和）がオリエンテーションを行った。前期は4月8日（水）、後期は10月7日（水）にオリエンテーションを開催した。オリエンテーションの案内は、留学生センターのホームページに掲載する他、日本語、英語、中国語の3カ国語表記で作成したポスターを五福キャンパス内の各学部及び留学生センター談話室に掲示し、また、学期初めに発行される留学生センターニュースの掲示板でも紹介した。留学生センターのホームページでは、時間割や授業概要（日本語、英語、中国語版を用意）の閲覧、それから、受講申請書とふりがな入りの時間割もPDFファイルとしてダウンロードできるようになっている。オリエンテーションでは、受講希望者一人一人とセンター専任教員が面接し、受講者の日本語の習熟度に応じたクラスを紹介し、受講申請書の提出により、登録を行った。ただし、来日時期が遅れる学生等については、コーディネーターが面接を行った上で、開講期間の途中からの受講も認めた。

## 5 授業内容

### 5.1 時間割

前期、後期ともに週32コマ授業を行った。前期の時間割を表1、後期の時間割を表2に示す。

表1 2009年度前期日本語課外補講時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法（要門）	文法（高島）	
	2	生活日本語（加藤）	文法（要門）	文法（高島）	表現技術（濱田）
	3			[中級・上級クラス共通]漢字（高島）	
火	1		文法（横堀）	聴解（濱田）	
	2		文法（横堀）	会話（副島）	会話（松岡）
	3		聴解（濱田）		作文（松岡）
	4				読解Ⅰ（藤田）
水	1		文法（永山）	文法（中河）	文法（遠藤）
	2		文法（永山）	文法（中河）	読解Ⅱ（遠藤）
	3				日本文化（中河）
木	1		文法（高島）	文法（副島）	
	2	生活日本語（要門）	文法（高島）	文法（副島）	
	3				聴解（要門）
金	1		文法（深川）	文法（松岡）	
	2		文法（深川）	文法（松岡）	

\* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

\* 網掛けの授業科目は、日本語研修コースとの合同授業

表2 2009年度後期日本語課外補講時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法（要門）	文法（高島）	
	2	生活日本語（加藤）	文法（要門）	文法（高島）	表現技術（濱田）
	3		聴解（加藤）	[ 中級・上級クラス共通 ] 漢字（高島）	
火	1		文法（横堀）	聴解（濱田）	
	2		文法（横堀）	会話（副島）	会話（松岡）
	3				作文（松岡）
	4				読解Ⅰ（藤田）
水	1		文法（永山）	文法（中河）	文法（遠藤）
	2		文法（永山）	文法（中河）	読解Ⅱ（遠藤）
	3				日本文化（中河）
木	1		文法（高島）	文法（副島）	
	2	生活日本語（要門）	文法（高島）	文法（副島）	
	3				聴解（要門）
金	1		文法（深川）	文法（松岡）	
	2		文法（深川）	文法（松岡）	

\* 1 限 8:45～10:15, 2 限 10:30～12:00, 3 限 13:00～14:30, 4 限 14:45～16:15

\* 網掛けの授業科目は、日本語研修コースとの合同授業

## 5.2 初級クラスの授業内容

前期、後期ともに、月曜日から金曜日まで毎日午前中2コマ連続で「文法」の授業と午後に週1コマ「聴解」の授業を行った。また、毎日日本語の授業に出席することが困難な受講者のために、「生活日本語」の授業を週2コマ（月曜日と木曜日の2限）設けた。

週10コマの「文法」の授業では、『みんなの日本語初級』Ⅰ、Ⅱ（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を1日1課ないしは2日に1課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習も適宜取り入れた。

表3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語初級』）の授業進度

第1週	1課～4課		第9週	30課～32課	
第2週	5課～7課	1課～6課試験	第10週	33課～35課	26課～32課試験
第3週	8課～11課		第11週	36課～38課	
第4週	12課～14課	7課～12課試験	第12週	39課～41課	33課～38課試験
第5週	15課～18課		第13週	42課～45課	
第6週	19課～22課	13課～18課試験	第14週	46課～48課	39課～45課試験
第7週	23課～26課		第15週	49課～50課 復習	日本語能力試験 3級模擬試験
第8週	27課～29課	19課～25課試験			

「聴解」の授業では、『毎日の聞き取り 50 日』上, 下 (凡人社), 『絵とタスクで学ぶ日本語』(凡人社), 『わくわく文法リスニング 99』(凡人社), 『楽しく聞こう』I, II (凡人社), 『日本語きいてはなして』Vol. 1, Vol. 2 (ジャパンタイムズ), 『Situational Functional Japanese』Vol. 1, Vol. 2, Vol. 3 (凡人社), 『みんなの日本語初級聴解タスク 25』(スリーエーネットワーク) の CD やテープを用い, 初級クラス「文法」(『みんなの日本語初級』) の授業進度に合わせて, 聴解練習を中心に行った。

週 2 コマの「生活日本語」の授業では、『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』I (講談社インターナショナル) をメインテキストとして, 1 日の授業で 1 課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

### 5.3 中級クラスの授業内容

前期, 後期ともに, 午前中週 4 日は 2 コマ連続で「文法」の授業を行い, 1 日は「聴解」と「会話」の授業を各 1 コマ行った。

「文法」の授業では, 週 2 日ずつ 2 種類の教科書を使用した。月曜日と水曜日は、『ジェイ・ブリッジ』(凡人社) をメインテキストとして, 3 日 (6 コマ) の授業で 1 課進むペースで, 中級の文型や表現を導入し, それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて, 運用できるよう談話練習なども行った。一方, 木曜日と金曜日は『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとして, 『日本語中級 J301』は 1 日 (2 コマ) の授業で 1 課進むペース, 『日本語中級 J501』は 2 日 (4 コマ) の授業で 1 課進むペースで, それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し, 主に読解や作文の力を伸ばすための練習を行った。

「聴解」の授業では, 『毎日の聞き取り 50 日中級』上, 下, 『新・毎日の聞き取り 50 日中級』上, 下 (凡人社), 『ニュースからおぼえるカタカナ語 350』(アルク) などの CD やテープを用い, 中級の語彙や表現を確認しながら, 聴解練習を行った。

「会話」の授業では, 「文法」の授業でのメインテキスト『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』を部分的に用いて, 話し合いの練習やプレゼンテーションの練習を中心に, 大学生活や日常生活で出会う場面に応じた日本語を使って, 適切に話すための練習を行った。

### 5.4 上級クラスの授業内容

前期, 後期ともに, 「読解」の授業を週 2 コマ, 「作文」, 「聴解」, 「会話」, 「文法」, 「表現技術」, 「日本文化」授業をそれぞれ週 1 コマ行った。

「読解」の授業は, 「読解 I」と「読解 II」の 2 科目を設け, 「読解 I」は『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』(ジャパンタイムズ) をメインテキストとし, 発音の指導, 表現や文型練習なども取り入れながら読解練習を行った。学期ごとに教科書の奇数ユニット, 偶数ユニットに分け, 2 期続けて受講すると, 教科書を全て終えられるようになっている。「読解 II」は, 専門書の他に, 現代日本社会の問題を扱った新聞記事, 文学作品, 教養書などの生教材を利用し, 初めに論理構成を把握させ, 効率的な読みの練習を心がけた。ブックレポート作成の練習も行った。

「作文」の授業では, コンピュータを使用しながら, レポートや論文を書く際に必要となる論理的な文章の書き方の練習を行った。『留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク), 『大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』(アルク) 等を参考書とし, 練習問題等はワープロ文書で提供した。

「聴解」の授業では, 日本語の聴解教材とあわせて, テレビやラジオ, インターネットなど, 様々なメディアを用いて, 大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では, ロールプレイ等の会話練習等を通して, 大学生活や日常生活で出会う場面, 状



況での会話力を伸ばす練習を行った。また、アカデミック・ジャパニーズに必要なスピーチや討論の基礎力をつけた。

「文法」の授業では、前期は『完全マスター 1 級日本語能力試験文法対策問題』（スリーエーネットワーク）、後期は『新基準対応文法問題日本語能力試験 1 級・2 級試験に出る文法と表現』（桐原書店）をメインテキストとし、大学での学習、研究生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験 1 級受験対策もあわせて行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやりとりや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用した口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、教育、仕事への意識、ジェンダー、ポップカルチャーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

## 5.5 中級・上級クラス共通科目「漢字」の授業内容

「漢字」は、中級・上級クラスの共通科目として、前期、後期ともに週 1 コマ授業を行った。教科書には『漢字 1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol. 1, Vol. 2（凡人社）を使用した。非漢字圏の学生には、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行い、漢字圏の学生には、読み方と意味・用法の確認を中心に、長文の中の漢字を理解するための練習も行った。様々なレベルの学習者がいるため、一斉授業ではなく、時間を区切ってそれぞれのレベルに合わせた指導を行っている。

## 6 試験

初級クラス「文法」「聴解」では、7 回の定期試験と最後に日本語能力試験 3 級の模擬試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験で、いずれの試験も日本語研修コース初級クラスと同じものを使用した。初級クラス「生活日本語」は期末試験のみを実施した。中級クラスでは、「文法（『ジェイ・ブリッジ』）」は 2 回の定期試験、「文法（『J301』『J501』）」は 3 回の定期試験、「聴解」では期末試験を実施し、「会話」は授業中に発表を課した。上級クラスでは、「読解 I」「聴解」「会話」「文法」は期末試験を実施し、「読解 II」「作文」「表現技術」「日本文化」では期末レポートあるいは発表を課した。中級・上級クラスの共通科目「漢字」では期末試験を実施した。

## 7 授業評価

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施した。授業内容に関するアンケートはクラス別に集計し、カリキュラムに関するアンケートは回答者全員分をまとめて集計した。

授業内容に関するアンケートは、いずれのクラスにおいても、基本的には科目ごとに実施したが、同一の教科書を使用した科目（初級クラス「文法」と「聴解」）についてはまとめて実施し、逆に、科目名が同じでも異なる教科書を採用した科目（中級クラス「文法」）については使用教科書ごとに分けて実施した。

以下、表 4 に前期初級クラス、表 5 に前期中級クラス、表 6 に前期上級クラス、表 7 に後期初級クラス、表 8 に後期中級クラス、表 9 に後期上級クラスの授業内容のアンケート集計結果をまとめた。中級・上級クラスの共通科目「漢字」は、上級クラスの受講者が大半を占めるため、上級クラスに入れて集計した。授業内容に関するアンケートでは、中級、上級クラスについては、1 人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は 5 段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を 5 点、「よかった」を 4 点、「ふつう」を 3 点、「あまり

よくなかった」を2点,「全然よくなかった」を1点として,その平均点を出したものである。

カリキュラムに関するアンケート調査は,1人の学生が1回のみ回答することになっている。表10に前期,表11に後期の結果をまとめた。

なお,自由記述については一部英語での回答もあったが,筆者が日本語に翻訳した。また,日本語の表記や助詞等の間違いは修正して掲載した。

表4 前期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果(回答者6人)

質問項目(回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった(3人) よかった(2人) ふつう(1人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.3	・文法は多分大丈夫だと思います。でも,いろいろな言葉は使わないので,忘れてしまいます。時間があるときに復習します。(文法・聴解)
2. 授業のレベル ちょうどよかった(2人) よかった(3人) ふつう(0人) あまりよくなかった(1人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.0	・難しすぎた。私は初めて日本語を勉強します。(文法・聴解)
3. 授業の進度 ちょうどよかった(2人) よかった(2人) ふつう(1人) あまりよくなかった(1人) ぜんぜんよくなかった(0人)	3.8	・速すぎた。後期にもう一度勉強したいです。(文法・聴解)
4. 教科書・プリント とてもよかった(4人) よかった(2人) ふつう(0人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.7	・先生が読解の本を紹介してくれたら,日本語の文章を読む練習ができると思います。(文法・聴解)
5. 教え方 とてもよかった(4人) よかった(2人) ふつう(0人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.7	・もう少し練習の時間があれば,もっといいと思います。(文法・聴解)
6. どのぐらい出席したか 80%~100%(4人) 60%~80%(2人) 40%~60%(0人) 20%~40%(0人) 0%~20%(0人)	—	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから(0人) ・アルバイトがあったから(0人) ・病気のため(0人) ・その授業に興味がなかったから(0人) ・その他(2人):バスに乗り遅れました。 5月28日に日本へ来ました。

7. 予習・復習をしたか かなりした（1人） すこした（4人） ぜんぜんしなかった（1人）	—	
--	---	--

その他

- ・私は毎日朝のクラスがありますが、午後のクラスも参加したいです。今の私の日本語はだんだんよくなりました。でも、文章を作るのは難しいと思います。（文法・聴解）
- ・先生方、どうもありがとうございました。私の日本語の力は本当によくなりました。今も毎日一生懸命勉強しています。これからもお世話になります。またよろしく願いいたします。（文法・聴解）

表5 前期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者8人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（8人） よかった（0人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時々日本で2番目の新聞「朝日新聞」と1番目の新聞「北日本新聞」を読みました。（文法『J301』『J501』）</li> <li>・簡単な問題と難しい問題があって、よかったと思います。（聴解）</li> <li>・自分の好きな一曲とか面白かったことを今も覚えています。（会話）</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった（6人） よかった（2人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私にとってちょっと簡単だと思います。（文法『ジェイ・ブリッジ』）</li> <li>・文法が時々わからないことがありましたが、よかったと思います。（文法『J301』『J501』）</li> <li>・もう日本に来て2年なので、ちょっと簡単でした。（聴解）</li> </ul>
3. 授業の進度 ちょうどよかった（8人） よかった（0人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	5.0	
4. 教科書・プリント とてもよかった（7人） よかった（1人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと練習したいです。（文法『J301』『J501』）</li> <li>・よかった。（文法『J301』『J501』）</li> </ul>
5. 教え方 とてもよかった（7人） よかった（1人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は自分に甘いですから、宿題があったほうがいいです。（文法『ジェイ・ブリッジ』）</li> <li>・時々私たちを笑わせてくださった。（文法『J301』『J501』）</li> <li>・テープのとおり聞いたあともう一度話します。これはよかったと思います。（聴解）</li> <li>・授業中に聞いた言葉をもう一度言う方法がよかったと思います。もし自分が復習をしていたら、いま日本語がもっと上手になったかもしれない。（聴解）</li> </ul>

6. どのくらい出席したか 80%～100% (6人) 60%～80% (0人) 40%～60% (1人) 20%～40% (1人) 0%～20% (0人)	—	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (0人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (0人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (1人)：専門の宿題がときどきいっぱいあったので。
7. 予習・復習をしたか かなりした (0人) すこした (8人) ぜんぜんしなかった (0人)	—	

その他

- ・2年半日本語を勉強したけど、まだまだ自分が言いたいことがはっきり言えず残念でした。もしもって会話の練習をしたら、日本の友達と自由に交流することができたのかなと思います。(会話)

表6 前期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答者59人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (39人) よかった (17人) ふつう (3人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は古いですけど、内容はおもしろいです。授業中にみんなと話したり相談したり意見を発表したり手伝いあったりして、楽しかったです。(読解I)</li> <li>・テーマが毎週かわって、飽きることはありませんでした。決まったパターンで勉強していたので、やさしかったです。(読解I)</li> <li>・このクラスは私にとってとても役に立ちました。文章を要約して、自分の話とか文章の批評とか、新しい短文を作ったり、いいクラスだと思う。最後にいろいろお世話になりました。ありがとう。(読解II)</li> <li>・今回は能力試験を受けなかったんで、まあまあ役に立ったと思います。(読解II)</li> <li>・私にとってこの授業は役に立つと思います。初めて論文を書いたからです。(作文)</li> <li>・この授業はとてもいいと思います。国の大学にこのような授業はないので、どうやって作文を書くのかわかりませんでした。結論、序論をどうするかがわかりませんでした。この授業でいろいろ大切なことを勉強しました。(作文)</li> <li>・とてもおもしろい授業です。後期もこの授業をやってほしいです。(聴解)</li> <li>・とてもおもしろい授業だと思います。後期もこの授業をやってほしいです。(聴解)</li> <li>・日常生活でよく使われる言葉を覚えました。(会話)</li> <li>・とても勉強になりました。他の授業にも役立ちました。(文法)</li> <li>・文法というものはもともとあまりおもしろくない。でも、先生の授業では全然眠くない。とても勉強になりました。(文法)</li> <li>・授業を通じて、日本語の基礎知識から実際の応用まで、いろいろ勉強になりました。後期でもこの授業をやっていただきたいです。(表現技術)</li> <li>・敬語は日本語の勉強で一番難しい問題点です。今期の勉強を通して、以前より敬語の使い方がわかりました。(表現技術)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常にレベルが高くて、現実的な意味がある。(日本文化)</li> <li>・技術、脳の不思議、日本国憲法、日本史についてのテーマは非常におもしろかった。(日本文化)</li> <li>・テーマがすべて素晴らしかった。頭を働かせて、皆と一緒に考えるのは楽しかった。(日本文化)</li> <li>・おもしろくて、よかった。(漢字)</li> <li>・おもしろかったです。(漢字)</li> <li>・専門用語がいっぱいあるので難しいです。(漢字)</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった (29人) よかった (26人) ふつう (4人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レベルはちょうどいい。(読解I)</li> <li>・声を出して読むという訓練は勉強になりました。わからない単語がありましたが、先生が説明をしてくださったので、すぐわかりました。(読解I)</li> <li>・ちょっと難しかった。(日本文化)</li> <li>・高い。よかった。(日本文化)</li> <li>・あるテーマは私にとってとても難しかった。一番難しかったのは、新聞の見出しの授業です。(日本文化)</li> <li>・非常によくて、おもしろかった。(日本文化)</li> </ul>
3. 授業の進度 ちょうどよかった (28人) よかった (23人) ふつう (6人) あまりよくなかった (2人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たぶん時間が少ないので、文章は長いし、時々時間がたつのは本当に速すぎました。(読解I)</li> <li>・2人だけだったので、いいペースで進みました。止めて説明していただけたし、わからないところをとばさずに進みました。(読解I)</li> <li>・速すぎた。(読解II)</li> <li>・少しスピードが速かった。時々面白いテーマを勉強したとき、スピードが速すぎて残念でした。あるテーマ(技術、脳の話、日本史について)をもっと詳しく勉強したいです。(日本文化)</li> </ul>
4. 教科書・プリント とてもよかった (35人) よかった (20人) ふつう (4人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生が特別にプリントを配っていたので、内容の確認ができました。(読解I)</li> <li>・例があるのでよかった。(作文)</li> <li>・とてもよかった。今年の1級のテストで出題されたものが多かった。(文法)</li> <li>・ビデオなどがあり、よかった。(日本文化)</li> <li>・先生に例などを挙げてもらって、よく理解できたと思う。(漢字)</li> <li>・いいところは練習問題がたくさんあることです。(漢字)</li> </ul>
5. 教え方 とてもよかった (46人) よかった (13人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生はやさしくて、まじめで、十分に準備してくれて、本当にありがとうございます。(読解I)</li> <li>・先生はゆっくりしたペースで授業を行ったので、迷うことはありませんでした。説明がわかりやすかったので、生徒を焦らせませんでした。(読解I)</li> <li>・聴解の先生のことが大好きだ。もしかしてまた10月…(聴解)</li> <li>・とてもよかった。みんな笑いながら勉強しました。(文法)</li> <li>・毎週水曜の1限でいつも眠い感じがあるけど、先生の授業は本当に好きだから、できるだけ出席します。先生はやさしくて親切で素晴らしい笑顔でいつも教えてくれてありがとう。先生の笑顔を見ながら、勉強したり話したり、本当に楽しかった。(文法)</li> <li>・先生はときどき厳しいけれど、でも、私のようなそっかしい学生にとってとても役立ちます。(表現技術)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>• よかったが、時々私にとって難しかった。それは私の日本語のレベルが足りないからです。(日本文化)</li> <li>• わかりやすかった。(日本文化)</li> <li>• グループで勉強するのは何よりもよいと思う。(漢字)</li> <li>• 先生、ありがとうございます。(漢字)</li> <li>• 先生の教え方はわかりやすくて、とてもいいです。(漢字)</li> </ul>
6. どのくらい出席したか 80%～100% (56人) 60%～80% (2人) 40%～60% (1人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)	—	欠席した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門の授業やゼミがあったから (5人)</li> <li>• アルバイトがあったから (1人)</li> <li>• 病気のため (9人)</li> <li>• その授業に興味がなかったから (0人)</li> <li>• その他 (4人)：専門の授業の準備をしていました。寝坊。</li> </ul>
7. 予習・復習をしたか かなりした (15人) すこしした (37人) ぜんぜんしなかった (7人)	—	

#### その他

- この授業は役に立つと思います。ただ、残念なことに、この授業は1限でしたので、大変でした。(文法)
- 日本の社会に関していろいろ勉強になりました。後期にもこの授業を開設してほしいです。(日本文化)
- この授業の科目名「日本文化」は、授業内容を正確に表していません。また、授業では多くのテーマを扱いますが、それらが相互にどう関係するかが整理されていません。このクラスは、カリキュラムをより系統立てて、科目名をより正確にすると、もっとよくなると思います。(日本文化)
- 日本文化の授業では、今まで知らない知識を教えてくれて、内容は豊富でおもしろくて、深くて、本当にいい授業だったと思います。しかし、たぶん自分の日本語の力がちょっと不足しているので、少し難しい感じがしました。先生はやさしくて、親切で、いい人です。ありがとうございます。これからもがんばります。(日本文化)
- 先生、ありがとう。こんなにおもしろい授業、忘れられません。(日本文化)
- この授業が毎日あればいいと思います。漢字で一番大事なのはよく見たりよく使ったりすることだからです。先生の教え方も本当にいいと思います。(漢字)
- この授業が大好きです。(漢字)

表7 後期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答者9人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (5人) よかった (4人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常よく使うものだった。(生活日本語)</li> <li>• 1つの課のコンセプトが多い。(文法・聴解)</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった (4人) よかった (3人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	4.4	

3. 授業の進度 ちょうどよかった (1人) よかった (3人) ふつう (2人) あまりよくなかった (2人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	3.4	・遅い。(文法・聴解) ・速すぎた。『みんなの日本語』IIの授業は速いです。遅くてもいいと思います。(文法・聴解)
4. 教科書・プリント とてもよかった (2人) よかった (6人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	4.3	・日常よく使うものだった。(生活日本語)
5. 教え方 とてもよかった (6人) よかった (2人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	4.8	・先生は熱心で、いろいろ助けてくれた。本当にありがとうございます。(生活日本語) ・好き。(文法・聴解) ・授業を面白くしてくれた。(文法・聴解)
6. どのぐらい出席したか 80%～100% (5人) 60%～80% (3人) 40%～60% (1人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)	—	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (5人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (0人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (0人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (1人) すこした (8人) ぜんぜんしなかった (0人)		・日本語を読んだり聞いたりするのがとても難しかった。(生活日本語) ・日本語の勉強を続けます。(文法・聴解)

表8 後期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答者3人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (3人) よかった (0人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	5.0	
2. 授業のレベル ちょうどよかった (1人) よかった (2人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.3	

3. 授業の進度 ちょうどよかった (0人) よかった (3人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.0	
4. 教科書・プリント とてもよかった (0人) よかった (3人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.0	
5. 教え方 とてもよかった (0人) よかった (3人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.0	
6. どのくらい出席したか 80%～100% (1人) 60%～80% (2人) 40%～60% (0人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)	—	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (2人) ・アルバイトがあったから (1人) ・病気のため (0人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (0人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (0人) すこした (1人) ぜんぜんしなかった (2人)	—	

表9 後期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答者 54人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (36人) よかった (17人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容を通して、いろいろな以前は知らなかった知識を知りました。(読解II)</li> <li>・いろんな論文の書き方を勉強できてよかったと思います。(作文)</li> <li>・レポートについて、いろいろ教えてくれて、とても役に立ちました。(作文)</li> <li>・映像やCDなどで生の日本語を勉強したのはとてもよかったと思います。(聴解)</li> <li>・日本文化についての知識や日本語についての内容が深く理解できました。(聴解)</li> <li>・とても面白い。先生が優しい。だから、楽しい。勉強にもなる。(会話)</li> <li>・もっと話したい。(会話)</li> <li>・現実の場面に似ている練習をやらせていただいて、ありがとう。(会話)</li> <li>・話すときの言葉づかいがもっと理解できました。(会話)</li> <li>・テストはもっと多くなった方がいいと思う。(文法)</li> <li>・1級も2級も勉強できましたので、とてもいいと思います。(文法)</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・二級と一級の内容で、ちょうどいいと思う。(文法)</li> <li>・授業を二つの部分に分けて教えたから、分かりやすかったです。(表現技術)</li> <li>・尊敬語などの内容はとてもよかったです。それに最後のプレゼンテーションの作り方など役に立ちました。(表現技術)</li> <li>・日本について以前は全然知らないことがだんだんわかるようになってきて、勉強になりました。とても役に立つと思います。(日本文化)</li> <li>・日本社会のいろいろな面を知り、日本社会や文化について、よく理解できた。(日本文化)</li> <li>・前の期よりよかったと思います。新聞の記事の中の漢字は日常生活の中でよく使うからです。そして、記事を読んで、漢字を勉強するだけではなく、日本の事情もよくわかるようになりました。(漢字)</li> </ul>
<p>2. 授業のレベル</p> <p>ちょうどよかった (32 人)</p> <p>よかった (16 人)</p> <p>ふつう (3 人)</p> <p>あまりよくなかった (3 人)</p> <p>ぜんぜんよくなかった (0 人)</p>	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いてすぐわかるし、勉強にもなれたと思う。(作文)</li> <li>・大体二級レベルですので、日本語能力を伸ばすチャンスとしていいです。(聴解)</li> <li>・知識も増やしてくれたので、好きです。(会話)</li> <li>・やさしかったです。(会話)</li> <li>・やさしかったです。(文法)</li> <li>・ちょうどいいと思います。自分のレベルに合っていました。(文法)</li> <li>・理解できるし、日常の授業で使う語などがでてきます。(表現技術)</li> <li>・むずかしいです。(日本文化)</li> <li>・ちょうどよかった。またおもしろいと思います。(日本文化)</li> <li>・大体一級のレベルで、私にとってちょっと難しいが、理解できる。(日本文化)</li> </ul>
<p>3. 授業の進度</p> <p>ちょうどよかった (32 人)</p> <p>よかった (16 人)</p> <p>ふつう (6 人)</p> <p>あまりよくなかった (0 人)</p> <p>ぜんぜんよくなかった (0 人)</p>	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の話すスピードがちょうどいいと思う。(作文)</li> <li>・ちょうどいいと思います。理解できました。(作文)</li> <li>・ちょうどいいと思います。(聴解)</li> <li>・ちょうどよかった。もちろん。(会話)</li> <li>・時々速い。(文法)</li> <li>・ちょうどいいと思う。内容の深さが理解できる。(日本文化)</li> </ul>
<p>4. 教科書・プリント</p> <p>とてもよかった (31 人)</p> <p>よかった (21 人)</p> <p>ふつう (1 人)</p> <p>あまりよくなかった (1 人)</p> <p>ぜんぜんよくなかった (0 人)</p>	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく役に立ちました。(読解 II)</li> <li>・各課に例文や練習問題があるので、授業はとても役立つ。わかりやすいと思う。(作文)</li> <li>・聞いた後、スクリプトをもらうので、完全に理解できます (聴解)</li> <li>・プリントを通して、いろいろ知識を得ました。(聴解)</li> <li>・できれば、プリントなどで例文を配っていただけると、ありがたいです。(会話)</li> <li>・優れている。(会話)</li> <li>・もっと完全なメモがほしい。(会話)</li> <li>・先生の個人的なまとめやノートなどが勉強したいです。(文法)</li> <li>・本が欲しい。(文法)</li> <li>・授業を通して、丁寧な表現に関してよい勉強になりました。(表現技術)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと完全なのがほしい。(表現技術)</li> <li>・分かりやすかったです。(表現技術)</li> <li>・もっとことばがあってほしい。(日本文化)</li> <li>・教材はよかったと思いますが、ピクチャーなどがあればもっとよくなったと思います。(日本文化)</li> <li>・とてもよかったと思います。プリントのおかげで、授業の内容が深く分かるようになっている。(日本文化)</li> <li>・Intermediate Kanji Book という教科書があまり好きではありません。専門的な言葉がたくさんあるからです。でも、この教科書にあるレッスンは役に立ちました。(漢字)</li> </ul>
<p>5. 教え方</p> <p>とてもよかった (37 人)</p> <p>よかった (17 人)</p> <p>ふつう (0 人)</p> <p>あまりよくなかった (0 人)</p> <p>ぜんぜんよくなかった (0 人)</p>	4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生がまず説明して、その後で学生に一人ずつ練習問題を答えさせるという形はとてもよかったと思う。(作文)</li> <li>・先生の説明はよく理解できるし、おもしろいことを教えてくれるし、よかったです。(聴解)</li> <li>・感想を聞くので、一人ずつ聞くので、授業を始める前、学生たちと話しあうので、好きです。(会話)</li> <li>・学生にやさしいし、授業もいつも楽しくて本当によかったです。(会話)</li> <li>・先生はとてもまじめな方で、分かりやすく説明してくださいました。(文法)</li> <li>・学生にやさしく、説明も親切なのでよかったです。(文法)</li> <li>・とても分かりやすく、やさしいと感じました。ありがとうございました。(表現技術)</li> <li>・細かく説明してくれてありがとうございます。(表現技術)</li> <li>・とてもいいです。(日本文化)</li> <li>・どの内容でも易しい段階から難しい段階まで、だんだん導いてくれる方法はとてもよかったと思います。(日本文化)</li> <li>・学生の積極性を引き出し、学生に自主的に話させたりして、とてもよかった。(日本文化)</li> <li>・先生、ありがとうございました。一年間、このクラスを取って、私はいろいろなことを学びました。このクラスが大好きです。(漢字)</li> </ul>
<p>6. どのぐらい出席したか</p> <p>80%～100% (51 人)</p> <p>60%～80% (3 人)</p> <p>40%～60% (0 人)</p> <p>20%～40% (0 人)</p> <p>0%～20% (0 人)</p>	—	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の授業やゼミがあったから (2 人)</li> <li>・アルバイトがあったから (0 人)</li> <li>・病気のため (2 人)</li> <li>・その授業に興味なかったから (0 人)</li> <li>・その他 (2 人)：事故にあった。 天気が・・・。</li> </ul>
<p>7. 予習・復習をしたか</p> <p>かなりした (24 人)</p> <p>すこしした (28 人)</p> <p>ぜんぜんしなかった (2 人)</p>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習復習すると、授業の効果が増すと思う。(作文)</li> <li>・もっと予習や復習をしたらよいと思ったが・・・。(聴解)</li> <li>・予習と復習を通じて、いろいろな単語や表現を勉強しました。(聴解)</li> <li>・復習はかなりした。(会話)</li> <li>・メモがなくて、時々何を見たらいいか分からなかった。実は復習したかったです。(会話)</li> <li>・いろいろ勉強でき、本当に充実していました。(会話)</li> <li>・いつもテストをしたので、予習や復習をしなければなりません。それはとてもよいことだと思います。(文法)</li> <li>・1級の文法は難しい。(文法)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習だけしました。(表現技術)</li> <li>・予習しなかった。メモがあったら、復習した。(日本文化)</li> <li>・授業の内容がおもしろくて、予習や復習のようなことが好きです。(日本文化)</li> <li>・内容は予習、復習しなければ、授業中内容は十分理解できないからだ。(日本文化)</li> </ul>
--	--

その他

- ・読解の教材にもっと文芸的な文章を入れていただけると、うれしいです。(読解 II)
- ・もっと自分で読まなければいけないと思います。(読解 II)
- ・この半年の授業を受けて、論文の書き方（構成、文型など）などいろいろ勉強ができました。ありがとうございました。(作文)
- ・今まで明らかでなかった部分を、先生のご指導のもと、もう一回勉強させていただき、ありがとうございました。(作文)
- ・この授業の内容はほんとうに論文の書き方に役に立ちます。ありがとうございました。(作文)
- ・聴解の授業はとてもおもしろいです。この授業でいろいろな知識を楽しく得ることができます。(聴解)
- ・授業でいろいろな面白い映像を見ることを通して、日本語能力が伸びました。そして、先生の教え方もいいし、授業の速さもいいし、私にとってちょうどいいと思います。次の期にもし時間がよければ、ぜひ受けたいです。(聴解)
- ・国でこつこつ勉強するつもりです。(聴解)
- ・この授業が好きです。(会話)
- ・opera やりたい。(会話)
- ・話すチャンスをもっと提供してくだされば、ありがたいです。(会話)
- ・この授業を通して、本当に勉強になりました。1級や2級の文法を身につけると、日本語能力試験に助かります。先生の説明と教え方はとても詳しくて、わかりやすいです。(文法)
- ・この授業はとても勉強になりました。いつもテストがあったので、授業の内容はかなり覚ええました。(文法)
- ・類似文法がたくさんあり、もしよかったら、まとめて紹介してくだされば、ありがたいです。ありがとうございました。(文法)
- ・本が欲しい。(文法)
- ・やはり、記憶力が必要だと思います。(文法)
- ・この授業はいろいろ勉強になりました。とくに、プレゼンテーションの作り方がよかったと思います。(表現技術)
- ・もっと完全なレジュメが欲しい。(表現技術)
- ・この授業でテストもプレゼンテーションもやったので、授業の内容はほとんど覚ええました。(表現技術)
- ・いろいろな新しいものを勉強しました。とても役に立ちます。ありがとうございました。(表現技術)
- ・いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。(日本文化)
- ・ちょっと難しい。(日本文化)
- ・この授業の内容は私にとってむずかしかったけれども、だんだん分かるようになりました。そのうえこの授業を受けて語彙も増えてきました。この授業を受けて、前は分からなかった分野のことも分かるようになりました。(日本文化)
- ・新しい単語がたくさん出てきて、難しい授業でしたが、とても参考になりました。(日本文化)
- ・もっと自分の意見を話し合ったらもっといい授業になったと思う。(日本文化)
- ・この授業を通して、たくさんの情報を得て、現代の日本文化、いろいろな側面を理解しました。ほんとうにいい授業だと思っています。(日本文化)

- ・ビデオと映像によって、幅広い分野の知識を得て、いい勉強になりました。来学期もこの授業を受けたいです。(日本文化)
- ・日本文化という授業を受けて、ほんとうにいろいろ勉強になりました。授業の内容はとてもおもしろかったし、社会につながっているし、とても役に立つものだと思います。(日本文化)
- ・漢字を勉強する時に、この漢字を書く、話すときにどのように使ったらいいかが分かりませんでした。それで、宿題としてあたらしい漢字を使って、文を書いたほうがいいと思います。宿題が増えるかもしれませんが、とても役に立つと思います。(漢字)

表 10 前期のカリキュラムについてのアンケート結果 (回答者 17 人)

1. 日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答可)	<p>オリエンテーション出席者 (9 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た (2 人)</li> <li>・学部の教員にきいた (4 人)</li> <li>・留学生センターの教員にきいた (2 人)</li> <li>・友だちにきいた (1 人)</li> <li>・学部の事務できいた (1 人)</li> <li>・無回答 (1 人)</li> </ul> <p>オリエンテーション欠席者 (8 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の教員にきいた (2 人)</li> <li>・留学生センターの教員にきいた (1 人)</li> <li>・友だちにきいた (3 人)</li> <li>・無回答 (2 人)</li> </ul>
2. 授業科目数の希望	<p>今のままでいい (12 人): 初級 3 人, 中級 1 人, 上級 8 人          多くしてほしい (4 人): 初級 3 人 (会話 2 人, 中級クラス),          中級 1 人 (会話)          その他 (1 人): 上級 1 人 (文法の授業を午後の時間帯に移動してもらいたい)</p>
3. 授業科目の希望	<p>今のままでいい (13 人): 初級 6 人, 上級 7 人          新しい科目を作ってほしい (3 人): 中級 2 人 (作文), 上級 1 人          無回答 (1 人): 上級 1 人</p>
4. 来期の授業時間帯の希望	<p>専門の時間割がわからないのでこたえられない (7 人): 中級 1 人,          上級 6 人</p> <p>いつでもいい (3 人): 初級 1 人, 上級 2 人          午前 1・2 限 (4 人): 初級 3 人, 上級 1 人          午後 3・4 限 (1 人): 初級 1 人          その他 (1 人): 中級 1 人 (帰国する)          無回答 (1 人): 初級 1 人</p>

その他

- ・夏休みが終わったあと、中級クラスで勉強したいです。(初級)
- ・クラスの学生の人数が多いので、練習時間が少なくなります。(初級)
- ・今の作文の授業の教え方は、ちょっとつまらない。もしおもしろいものを加えれば、もっと効果があるかもしれない。(上級)

表 11 後期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者 12 人）

1. 日本語課外補講をどこで知ったか（複数回答可）	<p>オリエンテーション出席者（8 人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た（3 人）</li> <li>・学部の教員にきいた（1 人）</li> <li>・留学生センターの教員にきいた（3 人）</li> <li>・友だちにきいた（3 人）</li> </ul> <p>オリエンテーション欠席者（4 人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちにきいた（4 人）</li> </ul>
2. 授業科目数の希望	<p>今のままでいい（7 人）：初級 5 人，中級 1 人，上級 1 人</p> <p>多くしてほしい（5 人）：初級 4 人（生活日本語，漢字，会話），中級 1 人</p>
3. 授業科目の希望	<p>今のままでいい（9 人）：初級 7 人，中級 2 人</p> <p>新しい科目を作ってほしい（2 人）：初級 2 人（新しい聴解，漢字）</p> <p>その他（1 人）：上級 1 人（上級クラスでも発音の練習ができれば，とてもいいと思います。）</p>
4. 来期の授業時間帯の希望	<p>専門の時間割がわからないのでこたえられない（3 人）：初級 3 人</p> <p>午前 1・2 限（2 人）：初級 1 人，中級 1 人</p> <p>午後 3・4 限（2 人）：初級 1 人，上級 1 人</p> <p>いつでもいい（1 人）：中級 1 人</p> <p>無回答（4 人）：初級 4 人</p>

その他

- ・留学生センターの先生の教え方はとてもいい。（初級）
- ・私は上級クラスですが，中級，初級の文法をよく間違えます。こういうトラブルはほかの人にもあると思います。でも上級クラスに入ったら，初級，中級の授業を取れません。それで，もし，上級クラスの人が中級クラスの文法を取ることができれば，とても役に立つと思います。（上級）

まず，各クラスの授業内容に関するアンケート結果については，前期，後期ともに初級クラスの授業進度で 3.8 点，3.4 点となっている以外はすべて 4.0 点以上で，全体の 9 割以上が 4.0 点以上，5 割以上が 4.5 点となっており，概ね良い評価を得ていると言ってよいだろう。以下，クラス別に，今後の参考となるとと思われる点をいくつか取り出しておきたい。

初級クラスでは，前期と後期ともに，授業の進度に対する評点が低くなっているが，コース開講時における日本語の学習歴にばらつきがあることや，来日が遅れてコースの途中から参加した受講者がいること，また，日本語の学習時間が十分に取れる環境にある受講者とそうでない受講者がいたことが主な要因だと思われる。初級クラスの授業の進度に対する評価は 2009 年度だけではなく，これまでも低い傾向にあった。

中級クラスでは，アンケート結果からは見えてこないが，初級，上級クラスの受講者と比べて，コース終了時まで学習を継続できない受講者が多かった。中級クラスの受講者は理工系の学生が多く，初級レベルの日本語力を習得した後は，専門の学習・研究が中心となり，日本語の学習に時間を割くことが困難になるケースが多い。これに加えて，中級クラスの授業は日本語研修コースとの合同授業となっているため，欠席が続くと，日本語研修コースの受講者との習得状況の開きも大きくなってしまい，授業に出づらくなってしまった受講者もいるのではないかとと思われる。

上級クラスは、全体的に高い評価を得ている。ただ、前期は授業のレベル、後期は授業の進度において「あまりよくなかった」という回答が複数見られた。いずれも受講者数が多い授業において見られたコメントで、受講者数が多いと、受講者間の日本語力の差も大きくなりがちなので、不満を感じる受講者がいたのではないかと考えられる。

次に、カリキュラムに関するアンケート結果については、前期、後期ともに日本語課外補講に関する情報は「教職員や友人からきいた」という回答が多い。また、授業時間帯については「専門の時間割がわからないのでこたえられない」という回答が最も多いが、午前と午後では、午前を希望する学生のほうが多い。授業科目数や内容については「今のままでいい」という回答がいずれの期も最も多くなっているが、2009年度は前期も後期も初級クラスの受講者から科目数を多くしてほしいという要望が目立った。これについては2010年度より、日本語研修コースとの合同授業を増やすことによって対応したいと考えている。

## 8 おわりに

2009年度に行った取り組みとして、Webで公開している授業概要の多言語化が挙げられる。従来は、時間割などの基本的な情報は日本語と英語の2言語で提供していたが、授業概要については日本語でのみ掲載していた。2009年度から新たに日本語と英語と中国語の3言語で授業概要の閲覧を可能とした。この主な目的は、本学の留学生に日本語の授業に関する情報を詳しく伝えることであるが、本学への留学希望者への情報提供にも役立つものと思われる。

コースの内容については、前年度に行ったカリキュラムの変更（「日本語課外補講報告（2008年4月～2009年3月）」『富山大学留学生センター紀要』第8号参照）によって、初級と上級クラスについては、受講者が各自のニーズに応じて必要な科目を選択しやすくなり、クラスの運営もしやすくなったと感じるが、中級クラスについては、まだ日本語研修コースとの合同授業の運営が十分にうまくいっていないとは言えない状況にある。中級クラスは、受講者の日本語力やニーズも期によってかなり異なるために、対応が困難な面もあるが、日本語研修コースコーディネーター及び授業担当者と連携しながら、合同授業に適した指導方法や内容の検討を引き続き行っていくつもりである。

また、2009年度は中級・上級クラス共通科目「漢字」の受講者向けに、使用教科書の内容にあわせて復習用Web教材を新たに作成した。今後も教室以外の日本語学習環境の整備に力を入れたい。

# 総合日本語コース報告（2008 年 10 月～2009 年 9 月）

濱田美和

## 1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004 年 10 月に新設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級クラスとの合同授業として開講している。2005 年 9 月に、初めて本コースの修了生を送り出し、2008 年 10 月に 5 期目の学生を迎えた。

以下、2008 年度秋期（2008 年 10 月～2009 年 3 月）及び春期（2009 年 4 月～9 月）の総合日本語コースの実施状況について報告する。

## 2 受講学生

「2008 年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は 2 人で、2 人ともが総合日本語コースを受講した。2 人の出身国はアメリカ合衆国とロシアで、いずれも所属は人文学部である。なお、2006 年 10 月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となったが、短期留学生の受講状況等については別に報告する。（「短期留学生報告」参照）

総合日本語コースの授業科目として、2008 年度は秋期と春期、各期 9 科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期 8 科目以上の履修が義務づけられている。

2008 年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は、1 人は 11 科目（秋期 5、春期 6）、もう 1 人は 5 科目（秋期 3、春期 2）受講した。

## 3 担当者

秋期、春期ともに、1 人のセンター専任教員（濱田美和）、及び、7 人の謝金講師（遠藤祥子、高畠智美、中河和子、深川美帆（秋期のみ）、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規（春期のみ））が授業を担当した。いずれの期も、センター専任教員（濱田美和）がコーディネートをを行った。

## 4 スケジュール

秋期は、2008 年 10 月 14 日（火）～2009 年 2 月 13 日（金）を授業期間とした。12 月 24 日（水）～1 月 2 日（金）は冬季休業、1 月 16 日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11 月 4 日（火）と 1 月 15 日（木）は月曜日の授業を行った。

春期は、2009 年 4 月 10 日（金）～7 月 30 日（木）を授業期間とした。曜日調整のため、5 月 1 日（金）は水曜日、7 月 23 日（木）は月曜日の授業を行った。

学期ごとに、コーディネーターがオリエンテーションを行った。オリエンテーションの実施日は、秋期は 2008 年 10 月 8 日（水）、春期は 2009 年 4 月 7 日（火）である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は留学生センターホームページ上にも掲載、Web 版は日本語、英語、中国語の 3 言語での閲覧が可能）を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は、授業開始後 1 週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

## 5 授業内容

総合日本語コースは、上級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。

表1 総合日本語コース授業概要（2008年10月～2009年9月）

授業科目名 (開講曜限)	担当	授業概要
読解Ⅰ (火曜4限)	藤田	日本人向けに書かれた文章の読解を通して、大学での学習や研究に必要とされる実践的な日本語読解能力を身につける。主教材として『生きた素材で学ぶ 中級から上級への日本語』(The Japan Times)を使用し、秋期は奇数ユニット、春期は偶数ユニットを学ぶ。この他、適宜テーマに合った生教材も取り入れ、中上級の表現、文法、語彙を習得する。
読解Ⅱ (秋期：水曜3限、 春期：水曜2限)	遠藤	大学生活で出会う様々なテキストタイプの読み物を扱い、それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造、文体等を把握し、それに慣れる手だてを見つける。特に留学生にとって必要な専門書、論文、教養書を読み解く技能を多面的に養うとともに、ブックレポートの際の基本的技術をマスターする。
文法 (水曜1限)	遠藤	大学での学習、研究生生活に必要な上級レベルの文法・表現（時を表す表現、接続表現、文末表現など）を、実践的な演習を通して、習得する。日本語能力試験1級受験対策もあわせて行う。
作文 (秋期：火曜2限、 春期：火曜3限)	松岡	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書く力をつける。文章を書く練習はコンピュータを使って行い、ワープロ文書でのレポート作成方法も同時に学ぶ。
聴解 (秋期：金曜1限、 春期：木曜3限)	深川 (秋期) 要門 (春期)	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
会話 (秋期：火曜3限、 春期：火曜2限)	松岡	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、ことなどがらなど様々な題材について日本語での確に説明する力を養う。
漢字 (秋期：木曜3限、 春期：月曜3限)	高畠	日常生活や大学の講義で用いられている漢字の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『漢字1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol. 1, Vol. 2 (凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
表現技術 (月曜2限)	濱田	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
日本文化 (秋期：水曜4限、 春期：水曜3限)	中河	留学生として日本社会を分析する試み（情報の読みとり、整理など）をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読む解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。

\* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15



いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語課外補講報告の7 授業評価を参照いただきたい。

## 6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、優（80点～100点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。学生への成績の通知は、9月の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了時に、成績を記した履修証明書の発行を留学生センター長名で行っている。

## 7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2009年7月28日（火）、30日（木）、調査対象：2008年度日本語・日本文化研修留学生（2人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コース（日本語・日本文化研修留学生）インタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期には専門と重なった科目がいくつかあったのが残念だったが、留学生の専門はいろいろなので仕方がないと思う。日本語の授業で、敬語でディスカッションする場がほしかった。ディスカッションそのものはできるが、敬語や丁寧語が難しい。日本企業に就職する場合にこの力が必要だと思う。</li> <li>・個人的な希望を言えば、もっとあったほうがいい。漢字の授業はもっと頻繁にあったほうが習得しやすいと思う。一度だと覚える漢字の量が多く、教師の指導の時間が少ないと思う。ただ、富山大学は留学生の数が少ないから、科目数については仕方がないとも思う。</li> </ul>
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしても分からない言葉が出てくる授業もあったが、授業中電子辞書で調べながら対応すれば問題なかった。</li> <li>・ついていくのが難しいのもあった（漢字、読解Ⅱ、日本文化）し、そうでないもの（読解Ⅰ）も、ちょうどよかったもの（作文）もあった。</li> </ul>
3. 自身の日本語力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順調に話せるようになったし、話すスピードも速くなった。周りにネイティブの日本人が多くいるという環境が一番良かったと思う。日本語能力試験2級や1級の文法も前より使えるようになったが、新しい文法を誰かに教えてもらう機会はなかった。前に知っていた文法でも実際に使う機会がないものもあった。漢字は、書き、読みともに良くなった。専門の授業でもいろいろな専門用語を覚えることができた。</li> <li>・伸びたと思う。特に読む力がついた。毎日漢字を見ていたので、漢字を読む力がついた。そして、日本人の友達と会話するとき、自分自身がびっくりするほど速くスムーズに自然に話せるようになった。</li> </ul>
4. 富山での留学生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は日本が好きでやって来て、実際に来てみたらいろいろな問題もあったが、次第にそれらにも慣れ、今ではうまく対応できるようになった。留学中に、日本語の能力の向上だけではなく、文化への適応力も身につけることができたので、次に日本で勉強する機会があったら、今度はもっとうまくいくと思う。日本に来て一番つらかったことは、自転車で何度か転んだが、そのときに周りの人たちが手を貸してくれなかったこと。一度だけ助けてくれた人がいて、そのときはとてもうれしかった。日本人の友人も少ないが、信頼できるいい関係の友人ができた。将来できれば日本の大学院で勉強したい。</li> </ul>

- ・ 冬は暗くて外に出られないから、友達が作りにくかった。秋期のほうがきつかった。春期に入ったら友達もできたし、毎日遊んだりすることができた。本当にいい人たちに出会えた。ボランティアをする機会もあった。翻訳などのボランティアをした。チャリティーショーにも出て、ステージで歌った。テレビにも出たし、新聞にも載った。普通ここに住んでいる人でもなかなか体験できないことを体験できた。富山のような地方都市だからこそできた経験だと思う。富山では、必要なものは何でもそろふし、行きたいところには自転車でもほとんど行けるし、魚や野菜も美味しく、とてもいいところだと思う。

まず、コースの日本語の科目については、専門の授業との時間的な重なりで受講したい科目が取れなかったというコメントや、科目数がもっとあったほうがよいというコメントがあったが、レベルについては適当だったようである。次に、自分自身の日本語力の伸びについては、話す・聞く力と、漢字・語彙力を中心に日本語力の伸びを実感していることがわかる。最後に、富山での留学生活については、来日当初は辛い思いもしたようであるが、2人とも良い友人ができ、日本や富山での留学生活にとっても満足している様子が窺えた。

## 8 おわりに

2008年度秋期、春期はカリキュラム等に変更はなく、これまでと同様の科目数で開講することができた。総合日本語コースの各科目における授業内容はかなり整ってきているが、今後さらに充実させるためには、授業担当者間の情報の共有を進め、可能であれば、共同で教材開発を行うなどの取り組みが考えられる。時間的な余裕がなく実現がなかなか難しいが、少しずつ検討を重ね、改善に向けての準備を進めたいと考えている。

# 短期留学生報告（2008 年 10 月～2009 年 9 月）

加藤扶久美

## 1 はじめに

富山大学留学生センターでは、学術交流協定校からの短期留学生が学部および大学院で学習・研究が円滑に進められるように、「富山大学短期留学生受入れ体制要項」に基づき、日本語教育および見学旅行「スタディ・トリップ」の立案・実施をしている。

表 1 に所属別短期留学生数を示した。2008 年度後期（2008 年 10 月～2009 年 3 月）と 2009 年度前期（2009 年 4 月～9 月）に、それぞれ 14 人在籍した。短期留学生の多くは、留学期間が 10 月から翌年の 9 月までの 1 年間であるが、「医薬」と「芸術」では、半年間だけ在籍した。

表 1 所属別短期留学生数

	五福地区				杉谷地区	高岡地区	合計
	人文	人間	経済	理工	医薬	芸術	
2008 年度後期	8	2	2	1	1	0	14
2009 年度前期	7	2	2	1	0	2	14

・人文は人文学部と人文科学研究科，人間は人間発達科学部，経済は経済学部と経済学研究科，理工は理工学教育部，医薬は医学薬学教育部，芸術は芸術文化学部を示す。

本稿では、表 1 に示した短期留学生について、2008 年度後期と 2009 年度前期の日本語プログラム（五福キャンパス）の受講状況とスタディ・トリップの実施状況について報告する。

## 2 日本語プログラム（五福キャンパス）の受講状況について

### 2.1 総合日本語コース

上級レベルの短期留学生は、総合日本語コースを受講できる。受講者は、2008 年度後期が 9 人、2009 年度前期が 6 人である。

表 2 に所属別「総合日本語コース」受講者数を示した。「総合日本語コース」の受講者は文系の人文学部、人文科学研究科，人間発達科学部，経済学部 に在籍している。

表 2 所属別「総合日本語コース」受講者数

	人 文	人 間	経 済	合 計
2008 年度後期	6	2	1	9
2009 年度前期	4	1	1	6

・人文は人文学部と人文科学研究科，人間は人間発達科学部，経済は経済学部と経済学研究科を示す。

表3に出身大学別「総合日本語コース」受講者数を示した。受講者が比較的多いのは、韓国の国民大学と中国の山東大学である。

表3 出身大学別「総合日本語コース」受講者数

	韓 国		中 国			ロシア	合計
	国民大学校	江原大学校	山東大学	遼寧大学	大連理工 大学	ノボシビルスク 大学	
2008 年度後期	3	1	2	1	1	1	9
2009 年度前期	1	1	2	1	1	0	6

表4に、授業科目別「総合日本語コース」受講者数を示した。

表4 授業科目別「総合日本語コース」受講者数

	読解 I	読解 II	作文	聴解	会話	漢字	日本 文化	文法	表現 技術	合計	平均受講 コマ数
2008 年度後期 (受講者：9人)	0	4	3	1	3	2	4	3	3	23	2.6
2009 年度前期 (受講者：6人)	0	2	3	1	0	0	3	4	1	14	2.3

平均受講コマ数は、2008 年度後期が 2.6 コマで、2009 年度前期が 2.3 コマである。2008 年度後期と比べて 2009 年度前期は、1 人当たり平均受講コマ数が 0.3 少ないが、これは専門の授業等と重なったことによると考えられる。

## 2.2 日本語課外補講

初級・中級レベルの短期留学生は日本語課外補講を受講できる。受講者は、2008 年度後期が 2 人、2009 年度前期が 4 人である。

表5に所属別「日本語課外補講」受講者数を示した。2008 年度後期は、工学部 1 人と経済学研究科 1 人の計 2 人が、初級クラスを受講した。2009 年度前期は、2008 年度後期に初級クラスを受講した 2 人と芸術文化学部 of 1 人が中級クラスを、芸術文化学部の 1 人が初級クラスを受講した。

2008 年度後期の高岡キャンパス芸術文化学部の受講者は、高岡キャンパスと五福キャンパス間のシャトルバスを利用して、五福キャンパスで開講されている日本語課外補講を受講した。

表5 所属別「日本語課外補講」受講者数

	経済学研究科	工学部	芸術文化学部	合計
2008 年度後期	1	1	0	2
2009 年度前期	1	1	2	4

## 2.3 成績評価

上級レベルの短期留学生については、受講した総合日本語コースの科目の成績評価がなされる（「総合日本語コース報告」参照）。学生への成績通知は、日本語教育部門短期留学生担当の加藤扶久美が「学業成績通知書」を作成し、学期末に個別に渡している。人文学部については、学部長名で、「富山大学人文学部短期（1 年）留学生プログラム（受け入れ）」に基づく「履修証明書」が発行されている。

初級・中級レベルの短期留学生については、依頼に応じて、受講した日本語課外補講の「受講証明書」が発行される。

### **3 スタディ・トリップの実施状況**

#### **3.1 フィールド・トリップとの合同見学**

日本語研修コースのフィールド・トリップとの合同見学として、2008年11月21日（金）の午後に富山市民俗民芸村・五百羅漢へ、2009年6月12日（金）の午後に株式会社生産技術（第八ロボット展示場）へ出かけた。短期留学生の参加者は2008年度後期が6人、2009年度前期が3人で、留学生指導部門の出原節子がコーディネートし、引率者は、2008年度後期が出原節子と後藤寛樹、2009年度前期が出原節子、後藤寛樹および副島健治であった。

#### **3.2 スタディ・トリップ**

2009年3月3日（火）午後に、スクールバスで広貫堂資料館、梅かまミュージアム、岩瀬カナル会館、富山港展望台の見学に出かけた。参加者は19人で、短期留学生が5人、その他の留学生が12人、外国人研究者が2人で、短期留学生担当の加藤扶久美が企画し、加藤扶久美と副島健治に学務部学生支援グループ留学支援チームから1人加わって引率した。

### **4 おわりに**

学術交流協定に基づく短期留学生に対する留学生センターの支援は、日本語教育とスタディ・トリップである。日本語教育については、日本語課外補講を受講する初級・中級レベルの学生および総合日本語コースを受講する上級レベルの学生に対して、今後も学部との連携をとりながら支援体制をさらに充実させていきたい。

また、スタディ・トリップについては、短期留学生以外の留学生や研究者にも参加を呼びかけて実施し好評であったので、今後も積極的に進めていきたい。

# 日韓共同理工系学部留学生プログラム報告 (2009 年 4 月～ 2010 年 3 月)

副島健治

## 1 はじめに

1998 年の日韓首脳会議における「21 世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は韓国で選抜された高校卒業生を留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。

1999 年に本事業の第 1 期生の募集が開始された。富山大学へは本事業によって、2001 年度(第 2 期生) 4 人、2003 年度(第 4 期生) 1 人、2004 年度(第 5 期生) 1 人、2006 年度(第 7 期生) 1 人の配置学生(以下、「日韓生」とする)があった。そして、2009 年度に 2 人の日韓生(第 10 期生)を予備教育生として本学留学生センターに迎えた。本事業は 10 年計画で開始されており、第 10 期生が最終期生ということになるが、「平成 21 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会」(2009 年 8 月 4 日(火)、於：鹿児島大学)において、本事業は「第 2 次日韓プログラム」として継続されることが発表された。

「日韓共同理工系学部留学生事業」による本学配置の日韓生への予備教育、すなわち日韓共同理工系学部留学生プログラム(予備教育)を「日韓プログラム」と呼ぶこととする。

本学における日韓生の第 2 期生、第 4 期生、第 5 期生は本学学部をすでに卒業した。現在の本プログラムの学部在籍者は第 7 期生 1 人であるが、工学部の 3 年生として真面目に勉学に励んでいる。

## 2 2009 年度の本事業による富山大学への配置について

2009 年度における富山大学の理・工学部の日韓生の受け入れ可能数(各学科合計)は 16 人で、2 名の配置があった。(表 1)

表 1 [2009 年度 富山大学配置日韓生(第 10 期生)]

氏名	受入れ学部・学科
アン デ フェン (Ahn Dae Hwan)	工学部・電気電子システム工学科
キム テ ヒョン (Kim Tae Hyung)	理学部・物理学科

## 3 2009 年度日韓プログラムのスケジュール

上の 2 人を迎え、富山大学における日韓生(第 10 期生)のための予備教育を実施した。

第 10 期生のための主なスケジュールは以下の通り。

2009 年 9 月 30 日(水) 日韓プログラム専門教科講師ミーティング

10 月 6 日(火) 配置日韓生来日、外国人登録、国民健康保険、銀行口座の手続き(市役所)等

10 月 7 日(水) 日本語研修コースオリエンテーション、キャンパスツアー、教科書購入  
日本語プレイスメントテスト、「日韓生のための生活オリエンテーション」

10 月 8 日(木) 日本語研修コース開講式

10 月 13 日(火) 工学部長表敬訪問

10 月 15 日(木) 理学部長表敬訪問

11 月 18 日(水) 「留学生と日本人学生との異文化交流パーティー」

12 月 18 日(金) 口頭発表プロジェクト(日本語研修コース)「私の国」発表会

2010年 2月6日(土)～7日(日) ホームビジット・ホームステイ

2月16日(火) 口頭発表プロジェクト(日本語研修コース)「私の専門」スピーチ発表会

3月4日(木) 日本語研修コース修了式

#### 4 日韓プログラムの概要

このプログラムは、日本語教育と専門教科、「日本文化」およびその他の特別指導からなっている。日本語・日本事情教育の部分については、日本語研修コース(中級)を部分的に受講する形で実施している。専門教科と「日本文化」は日韓プログラム独自の開講である。

日本語・日本事情教育においては、「日本語文法Ⅰ」「日本語文法Ⅱ」「日本語聴解」「日本語会話」「日本語文字・漢字」「日本事情」の科目の授業を実施した。専門教科においては、「数学」「物理」「化学」「科学技術日本語」「コンピュータ」「英語」の科目の授業を実施した。これら以外に「特別指導」の時間を設けた。

##### 4.1 日韓プログラム(第10期生)の時間割

第10期生のプログラムにおける時間割、時間区分は次の通りである。

[時間割]

時限	(月)	(火) <sup>注1</sup>	(水)	(木)	(金)
1	日本語文法Ⅰ	日本語聴解	日本語文法Ⅰ	日本語文法Ⅱ	日本語文法Ⅱ
2	日本語文法Ⅰ	日本語会話	日本語文法Ⅰ	日本語文法Ⅱ	日本語文法Ⅱ
3	英語 <sup>注2</sup>	数学	日本語文字・漢字	化学	コンピュータ
4	特別指導	物理	日本事情	科学技術日本語	特別指導
5	「日本文化」活動等				

(注1) 平成22年1月12日(火)は月曜日の授業を実施。

(注2) 平成21年10月26日(月)3限目の授業は11月6日(金)4限目に実施。

[時間区分]

1限目	2限目	(昼休み)	3限目	4限目	5限目
8:45～10:15	10:30～12:00	12:00～13:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00

##### 4.2 「特別指導」について

4.1の時間割の通り、毎週月曜日4限目と金曜日の4限目を「特別指導」と位置付けて諸活動を行った。必要に応じて5限目も行った。

###### 4.2.1 「特別指導」における「日本文化」活動

学内外から講師を招いたり、美術館を訪問したりして、日本文化に関するレクチャーあるいは実技指導の「日本文化」活動を行った。日韓生以外の日本語研修コースの留学生を中心に、広く参加を認めた。

2009年度は4回実施した。

- |           |                |          |
|-----------|----------------|----------|
| (1) 日本文学  | 10月30日(金)4限    | (参加:17名) |
| (2) 邦楽    | 11月27日(金)4・5限  | (参加:11名) |
| (3) 茶道    | 12月11日(金)4限    | (参加:15名) |
| (4) 水墨画鑑賞 | 2010年1月8日(金)4限 | (参加:10名) |

#### 4.2.2 「特別指導」におけるその他の活動

「日本文化」活動以外の特別指導として「ガイダンス」・「自主活動A」・「自主活動B」・「学習点検」等の活動を行った。

「自主活動A」は、基本的に学内での自主活動で、日韓生の自主的な学習等のほかに、富山大学中央図書館探索、日本映画鑑賞、スピーチ指導などを行った。「自主活動B」は、引率を伴う学外施設の見学で、本年度は郷土博物館、佐藤記念美術館、富山市科学博物館、富山市天文台（いずれも富山市内）を訪ねた。「学習点検」では、日韓生の学習状況を把握しコンサルティングや具体的な学習指導等を行った。

また、日韓生は日韓プログラムの特別指導とは別に、日本語研修コースの特別指導にも参加した。

以下、具体的に実施した日を示す。

「ガイダンス」2009年 10月9日(金)

「自主活動A」2009年 10月16日(金), 10月19日(月), 10月26日(月), 11月2日(月), 11月9日(月),  
2010年 1月12日(火), 1月18日(月), 1月22日(金), 2月5日(金), 2月8日(月),  
2月12日(金)

「自主活動B」2009年 11月30日(月), 12月14日(月),  
2010年 1月25日(月)

「学習点検」2009年 10月26日(月), 11月16日(月), 12月7日(月),  
2010年 1月4日(月), 2月1日(月)

日本語研修コース特別指導（「スピーチ発表会」等を含む）

2009年 10月23日(金), 11月13日(金), 12月4日(金), 12月18日(金), 12月21日(月),  
2010年 1月29日(金), 2月15日(月), 2月16日(火)

その他 2009年 11月20日(金)

#### 4.2.3 他大学との交流

12月18日(金)の日本語研修コース口頭発表プロジェクト（「私の国」発表会）は、金沢大学配置の日韓生と合同で行った。口頭発表後は、留学生センター1階談話室にて両校の日韓生の交流の時間を持った。

金沢大学の日韓生との交流は2006年度の日韓プログラム（第7期生）で行われており、今回で2回目である。

### 5 日韓プログラム担当者

プログラムの内容の担当者は以下の通りである。

#### ▶[日本語・日本事情] (科目名/担当者)

「日本語文法Ⅰ」/中河和子・高島智美

「日本語文法Ⅱ」/松岡裕見子・副島健治

「日本語聴解」/加藤扶久美

「日本語会話」/副島健治

「日本語文字・漢字」/濱田美和

「日本事情」/出原節子

#### ▶[専門教科] (科目名/担当者)

「数学」/吉田範夫（世話教員）・渡邊義之・阿部幸隆・菊池万里・古田高士・幸山直人・村川秀樹

「物理」/石川義和（世話教員）・桑井智彦・清水建次・兼村晋哉

「科学技術日本語」/宮武滝太

「化学」/宮武滝太



「英語」／土田千津子

「コンピュータ」／松岡裕見子

▶[ 日本文化 ] (科目名／担当者)

「日本文学」／呉羽長

「邦楽」／井上雅喜代・遠藤雅楽佐保・小谷晃子

「茶道」／津澤宗美

「水墨画の基礎知識と鑑賞」／富山県水墨美術館職員

▶コーディネーター

副島健治 (留学生センター)

## 6 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

### 6.1 構成員

日韓共同理工系学部留学生事業の本学におけるプログラムを円滑に遂行するための準備などを行う「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」(以下「日韓WG」とする)は2001年4月に立ち上げられ、若干のメンバーの交代を経て現在に至っている。2009年度のメンバーは石川義和(理学部, 日韓WG長), 宮武滝太(工学部), 加藤扶久美(留学生センター), 副島健治(留学生センター), 飯野るみ子(学生支援グループ留学支援チーム)の5人で構成され、副島がコーディネーターを務めている。

### 6.2 日韓WGの活動

2009年度は以下のように、日韓WGのミーティングが4回持たれた。

#### ○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第23回ミーティング

日 時：2009年5月26日(火) 15:00～16:20, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー

##### [ 報告事項 ]

▶日韓プログラム協議会と推進フェア開催について

▶日韓生配置を受けて

a 日韓生のための予備教育(専門科目)について, b 日韓プログラム時間割, c 日韓生のための予備教育の「英語」と「コンピュータ」講師, d 「日本文化」講師, e 「日本文化」実施日程調整表

##### [ 審議事項 ]

▶昨年度(2008年度)の日韓共同理工系学部留学生プログラム総括

▶今年度の日韓プログラム協議会と推進フェア開催の参加者

▶今年度の推進フェアに向けて アイデアなど

▶その他

#### ○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第24回ミーティング

日 時：2009年7月24日(金) 9:30～10:30, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー, 張 勁\*, 石原外美\*, 朝野真\* (※は推進フェア参加者)

##### [ 報告事項 ]

▶今年度の「日韓プログラム協議会」と推進フェア開催, 参加者について

▶日韓生配置を受けて, 今年度の日韓生予備教育について確認

a 日韓生のための予備教育(日本語・専門科目, 時間割), b 「日本文化」

##### [ 審議事項 ]

▶金沢大学の日韓生との交流について

- ▶今年度の日韓プログラム推進フェアに向けて
- ▶推進フェア後の報告と反省会等
- ▶第10期生の予備教育（今年度の後期）について
  - 専門科目授業担当者への説明会（a 時期, b 場所, c 内容）
- ▶その他

○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第25回ミーティング

日 時：2009年11月18日（金）13:00～14:30, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー

[ 報告事項 ]

- ▶今年度の「日韓プログラム協議会」について
- ▶日韓プログラム「推進フェア報告会」について
- ▶本年度配置日韓生と予備教育について
- ▶来年度の配置に関して

[ 審議事項 ]

- ▶今年度の日韓プログラム推進フェア（「フェア報告会」も含む）の反省
- ▶来年度の日韓プログラム推進フェアに向けて
- ▶金沢大学の日韓生との交流について
- ▶日韓プログラム「特別指導」における学外施設の見学について
- ▶その他

○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第26回ミーティング

日 時：2010年1月19日（火）16:30～17:30, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー

[ 報告事項 ]

- ▶第7期生と本年度配置の第10期生の様子
- ▶金沢大学の日韓生との交流（12月18日（金））について
- ▶来年度の配置に関して

[ 審議事項 ]

- ▶来年度の日韓プログラム推進フェアに向けて
- ▶今年度日韓プログラム予備教育の終了（修了）について
- ▶その他

### 6.3 日韓WGのその他の活動

○推進フェア直前最終打ち合わせ

日 時：2009年9月3日（木）9:30～10:30, 場所：学生相談室（学生支援グループ事務室隣）

○推進フェア報告会

日 時：2009年9月9日（水）11:00～12:30, 場所：理学部2階小会議室

参加者：推進フェア参加者, 日韓WGメンバー, 学生支援グループ長

## 7 平成21年度日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業は10年計画の事業ということで、今年度で一旦の区切りがつけられ、来年度より「第2次日韓プログラム」に入る。この第2次事業における第1期生筆記試験合格者150人と保護者およびその関係者を対象として、「推進フェア」が開催された。

「推進フェア」というのは、理工系学部を擁する日本の各国立大学がソウル市内に設定された会場に

ブースを設け、日韓生候補者およびその関係者に対して自大学を紹介し配置希望を促すものである。

日本から 37 の国立大学が参加した（資料展示のみの 10 大学を含む）。

日時：2009 年 9 月 6 日（日）9:00 ～ 17:00

場所：国立国際教育院（所在地：韓国 Seoul 特別市鐘路区東崇洞 181）

主管：韓国国立国際教育院，日本国文部科学省，日本大学連合会

本学からは石原外美（工学部機械知能システム工学科），張勁（理学部生物圏環境科学科），朝野真（学務部学生支援グループ留学支援チーム）の 3 人が参加し，本年度富山大学配置予定の日韓生（第 10 期生）の安大煥<sup>アン・デフアン</sup>君も手伝いに来てくれた。

本年度は富山大学を紹介するデザインの団扇を準備して，会場で日韓生候補者やその保護者等に配布した。

推進フェアの日程は，午前中は全体に対する説明会が講堂で行われ，昼食をはさみ，午後は本事業の第 2 次プログラムの第 1 期採用予定者を対象として，各参加大学のブースにおいて通訳を介して説明が行われた。本学のブースへは 13 人の訪問があった。

## 8 おわりに

日韓共同理工系学部留学生事業は，開始後 10 年を経て，次年度から「第 2 次」の段階に入ることになった。今後日本の国立大学における本事業の重要性は高まり，さらに各大学の日韓プログラムの充実が求められると思われる。

日本の各国立大学への日韓生の配置は，日本留学希望生徒が「志望調査」でどの大学を望んだかによりほぼ決定されるので，受け入れようとする日本の国立大学は，自大学が留学希望者の希望大学として選ばれるように努力することが求められるという現実がある。これまでも富山大学としても，日韓WGを中心として本事業による韓国人留学生が配置されるように努力してきたが，いっそうの努力が必要であらう。

今年度は 3 年ぶりに本学への 2 名の配置があり，本報に詳述したように出来る限りの充実したプログラムを実施した。今後も日韓生の配置があるように積極的に努力し，充実したプログラムを提供していきたい。

# 教養教育「日本語」「日本事情」報告 (2009 年 4 月～ 2010 年 3 月)

加藤扶久美

## 1 はじめに

富山大学の学部教養教育は、2005 年に富山大学（五福キャンパス）、富山医科薬科大学（杉谷キャンパス）および高岡短期大学（高岡キャンパス）を再編・統合してからも、各キャンパスで旧実施体制を引き継いで実施されている。本稿では五福キャンパスにおいて、学部正規留学生を対象として開講されている教養教育「日本語」「日本事情」について報告する。

五福キャンパスの教養教育では、外国語科目として「日本語 A」「日本語 B」を、総合科目として「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」「日本事情Ⅲ」を開講している。以下に、2009 年度の教養教育「日本語」「日本事情」の実施状況について報告する。

## 2 「日本語」

「日本語 A」は学部正規留学生 1 年生を対象とした科目で、前学期に「日本語 A1」を、後学期に「日本語 A2」を開講している。「日本語 B」は、2 年生以上の学部正規留学生と各学部から受講申請願いの出された聴講生、科目等履修生を対象とした科目で、前学期に「日本語 B3」を、後学期に「日本語 B4」を開講している。

授業では中・上級用の日本語教材、視聴覚教材、新聞や雑誌の記事を使って、四技能（聞く、話す、読む、書く）の面でバランスのとれた日本語能力の養成と、大学での学習や研究活動に十分な日本語能力の養成を目的としている。主に文法・作文中心の授業と読解・聴解中心の授業がある。

### 2.1 2009 年度の実施状況

前学期は、文系クラス（人文学部・人間発達科学部・経済学部対象）の「日本語 A1」を火曜日 3 時限と金曜日 2 時限に各 1 コマ、理系クラス（理学部・工学部対象）の「日本語 A1」を火曜日 3 時限と金曜日 2 時限に各 1 コマ、合計 4 コマ開講した。「日本語 B3」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日 3 時限に 1 コマ、主に人文学部の留学生を対象として火曜日 4 時限に 1 コマ、全学部留学生を対象として水曜日 4 時限に 1 コマ、主に工学部の留学生を対象として金曜日 2 時限に 1 コマ、合計 4 コマ開講した。

後学期は、文系クラス（人文学部・人間発達科学部・経済学部対象）の「日本語 A2」を火曜日 3 時限と金曜日 2 時限に各 1 コマ、理系クラス（理学部・工学部対象）の「日本語 A2」を火曜日 3 時限と金曜日 2 時限に各 1 コマ、合計 4 コマ開講した。「日本語 B4」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日 3 時限に 1 コマ、全学部留学生を対象として火曜日 1 時限と水曜日 4 時限に各 1 コマ、合計 3 コマ開講した。

### 2.2 授業科目及び授業担当者

前学期は、「日本語 A1」をセンター専任教員 4 人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治）が担当し、「日本語 B3」を学部留学生専門教育教員 3 人（人文学部；山崎けい子、経済学部；村上剣十郎、工学部；宮武滝太）及び非常勤講師 1 人（横堀慶子）が担当した。

後学期は、「日本語 A2」をセンター専任教員 2 人（後藤寛樹、副島健治）、学部留学生専門教育教員 2 人（人文学部；山崎けい子、工学部；宮武滝太）が担当し、「日本語 B4」をセンター専任教員 1 人（濱

田美和), 経済学部留学生専門教育教員 1 人(村上剣十郎) 及び非常勤講師 1 人(横掘慶子) が担当した。

## 2.3 受講者

前学期の受講者は、「日本語 A1」が 26 人であり、「日本語 B3」が月曜日 3 時限に 0 人, 火曜日 4 時限に 8 人, 水曜日 4 時限に 10 人, 金曜日 2 時限に 0 人であった。

所属別の内訳は, 「日本語 A1」が人文学部 5 人, 人間発達科学部 1 人, 経済学部 4 人, 理学部 1 人, 工学部 15 人であり, 火曜日 4 時限の「日本語 B3」が人文学部聴講生 6 人, 人文学部科目等履修生 1 人, 人間発達科学部聴講生 1 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B3」が経済学部 2 年生 1 人, 人文学部聴講生 5 人, 人文学部科目等履修生 3 人, 人間発達科学部聴講生 1 人である。

国・地域別の内訳は, 「日本語 A1」が中国 16 人, マレーシア 9 人, ベトナム 1 人であり, 火曜日 4 時限の「日本語 B3」が韓国 4 人, 中国 3 人, ロシア 1 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B3」が韓国 3 人, 中国 3 人, ロシア 2 人, アメリカ 1 人, ベトナム 1 人である。

後学期の受講者は, 「日本語 A2」が 26 人であり, 「日本語 B4」が火曜日 1 時限に 10 人, 水曜日 4 時限に 8 人であった。

所属別の内訳は, 「日本語 A2」が人文学部 5 人, 人間発達科学部 1 人, 経済学部 4 人, 理学部 1 人, 工学部 15 人であり, 火曜日 1 時限の「日本語 B4」が人文学部聴講生 5 人, 人文学部科目等履修生 3 人, 人間発達科学部聴講生 2 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B4」が工学部 3 年生 1 人, 人文学部科目等履修生 4 人, 人文学部聴講生 3 人である。

また, 国・地域別の内訳は, 「日本語 A2」が中国 16 人, マレーシア 9 人, ベトナム 1 人であり, 火曜日 1 時限の「日本語 B4」が韓国 5 人, 中国 4 人, ロシア 1 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B4」が中国 5 人, ミャンマー 2 人, インドネシア 1 人である。

## 3 「日本事情」

「日本事情」は学部正規留学生を対象とした科目で, 1 年生後学期(第 2 期)に「日本事情Ⅰ」を, 2 年生前学期(第 3 期)に「日本事情Ⅱ」を, 2 年生後学期(第 4 期)に「日本事情Ⅲ」を開講している。3 科目とも, 留学生センターの専任教員がコーディネートしている。

「日本事情Ⅰ」では, 日本の文化や芸術についての理解を深めるとともに, 母国の文化を客観的に見る目を養うこと, 「日本事情Ⅱ」では, 日本の自然, 産業, 社会, 文化等についての理解を深め, 日本と母国との比較ができるようになること, 「日本事情Ⅲ」では, 日本という「異文化」を理解し, 異文化への対処の仕方を身につけ, さらに「異文化」を通して自文化への理解を深めることを目標としている。

### 3.1 2009 年度の実施状況

2009 年度前学期は, 「日本事情Ⅱ」を木曜日 2 時限に, 後学期は, 「日本事情Ⅰ」を火曜日 5 時限に, 「日本事情Ⅲ」を木曜日 5 時限に開講した。

2009 年度に 2 年生となった学生は, 前学期開講の「日本事情Ⅱ」と後学期開講の「日本事情Ⅲ」を受けることになる。また, 1 年生の学生は後学期開講の「日本事情Ⅰ」を初めて受けることになる。

### 3.2 受講者

「日本事情Ⅰ」の受講者は 36 人であった。所属別の内訳は, 人文学部 1 年生 5 人, 人間発達科学部 1 年生 1 人, 経済学部 1 年生 3 人, 工学部 1 年生 14 人, 工学部 3 年生 1 人, 人文学部聴講生 5 人, 人文学部科目等履修生 5 人, 人間発達科学部聴講生 2 人である。また, 国・地域別の内訳は, 中国 18 人, マレーシア 9 人, 韓国 5 人, ミャンマー 2 人, ベトナム 1 人, インドネシア 1 人である。

「日本事情Ⅱ」の受講者は 35 人であった。所属別の内訳は, 人文学部 2 年生 7 人, 経済学部 2 年生 5

人、経済学部4年生1人、工学部2年生11人、生命融合科学教育部博士課程2年生1人、人文学部聴講生6人、人文学部科目等履修生3人、人間発達科学部聴講生1人である。また、国・地域別の内訳は、中国17人、マレーシア9人、韓国4人、ロシア2人、ベトナム2人、アメリカ1人である。

「日本事情Ⅲ」の受講者は29人であった。所属別の内訳は、人文学部2年生7人、経済学部2年生4人、工学部2年生11人、工学部3年生2人、人文学部科目等履修生4人、人文学部聴講生1人である。また、国・地域別の内訳は、中国13人、マレーシア11人、ベトナム2人、韓国1人、ロシア1人、インドネシア1人である。

### 3.3 コーディネーターと授業担当者

前学期は、「日本事情Ⅱ」のコーディネーターを加藤扶久美が担当し、学部教員8人（青地正史、石原外美、黒田重靖、小松美英子、竹内章、諸岡晴美、山田茂、龍世祥）と非常勤講師1人（竹内茂弥）と加藤扶久美が授業を担当した。

後学期は、「日本事情Ⅰ」のコーディネーターを濱田美和が担当し、学部教員6人（鈴木景二、隅敦、立川健治、鼓みどり、林夏生、二村文人）と非常勤講師4人（桂博子、三遊亭良楽、清水星栄、経澤菁汀）と濱田美和が授業を担当した。

「日本事情Ⅲ」は、出原節子がコーディネーターを担当し、学部教員8人（大熊敏之、神川康子、久保田真功、呉羽長、島添貴美子、鼓みどり、堀田裕弘、水内豊和）と非常勤講師1人（彼谷環）と出原節子が授業を担当した。

### 3.4 授業内容

以下のようなテーマで授業がなされた。

#### 「日本事情Ⅰ」

桂 博子（非常勤講師）	「富山の民謡」
三遊亭良楽（非常勤講師）	「落語」
清水 星栄（非常勤講師）	「華道」
鈴木 景二（人文学部）	「富山の歴史と観光」
隅 敦（人間発達科学部）	「日本の手作りおもちゃと世界のつながり」
立川 健治（人文学部）	「日本人の身体所作」
鼓 みどり（人間発達科学部）	「日本の美術」
経澤 菁汀（非常勤講師）	「書道」
林 夏生（人文学部）	「日本社会と漫画・アニメ」
二村 文人（人文学部）	「日本の伝統芸能」
濱田 美和（留学生センター）	「情報収集・レポート作成」

#### 「日本事情Ⅱ」

青地 正史（経済学部）	「高度経済成長期の日本人」
石原 外美（工学部）	「日本における最近の技術者倫理教育」
黒田 重靖（工学部）	「日本の化学と工業」
小松美英子（大学院理工学部研究部）	「日本に生息するマリンペスト」
竹内 章（理学部）	「日本の地殻変動と海底資源」
竹内 茂弥（非常勤講師）	「人間活動と環境問題」
諸岡 晴美（人間発達科学部）	「日本の繊維工業」
山田 茂（工学部）	「日本機械産業の歴史と今後の展望」

龍 世祥（経済学部）  
加藤扶久美（留学生センター）

「環日本海地域における環境協力」  
「異文化理解」「異文化体験発表」

#### 「日本事情Ⅲ」

大熊 敏之（芸術文化学部）  
彼谷 環（非常勤講師）  
神川 康子（人間発達科学部）  
久保田真功（人間発達科学部）  
呉羽 長（人文学部）  
島添貴美子（芸術文化学部）  
鼓 みどり（人間発達科学部）  
堀田 裕弘（工学部）  
水内 豊和（人間発達科学部）  
出原 節子（留学生センター）

「日本の造型」  
「日本の法律」  
「日本の住まい・住宅事情」  
「日本の教育事情」  
「日本文学」  
「世界の音の文化／日本の音の文化」  
「日本の美術」  
「日本における情報通信事情」  
「日本の障害児教育」  
「異文化コミュニケーション」

## 4 おわりに

五福キャンパスの教養教育においては、「日本語」の授業担当者は、留学生センター教員5人と学部留学生専門教育担当教員（人文、経済、工）3人の計8人と、同じく留学生教育の経験が豊富な非常勤講師1人であり、全員が留学生教育の経験が豊富で、日々留学生の指導に携わっている。入学して1年目の学部正規留学生を対象とした「日本語 A」では、授業を通して生活上の指導・助言ができるように、また、2年生以上の留学生を対象とした「日本語 B」では、学部の専門性を考慮したアドバイスができるように、担当教員が連携して、きめ細かい指導を行っている。

また、「日本事情」についても、センター専任教員3人がコーディネートして、学部留学生専門教育教員とも連携をしつつ、学部教員等との連絡・調整をしながら授業を進めている。

# 日本語教育部門活動報告 1 ―日本語相談― (2009 年 4 月～2010 年 3 月)

副島健治

## 1 はじめに

富山大学留学生センターでは 2003 年度より、昼休みの時間を利用して、日本語教育部門の専任教員がアポイントメントなしで、留学生からの日本語学習に関する相談を受けたり、日本語に関する質問に答えたりする「日本語相談」を行っている。この「日本語相談」は留学生センターが教室外で行う日本語学習支援として、一定の効用があると言える。

2004 年度からは夏期休業中も「日本語相談」を実施しており、2009 年度は合計 28 回の「日本語相談」を実施した。以下、2009 年度の「日本語相談」の実施状況について報告する。

## 2 「日本語相談」の概要

2009 年度の「日本語相談」の実施概要は次の通りである。

- (1) 実施場所：留学生センター 1 階談話室
- (2) 実施日時：毎週水曜日 昼休み (12:00 ～ 13:00) 1 時間
- (3) 実施回数：前期（授業期間中） 12 回  
夏期休業中 4 回  
後期（授業期間中） 12 回
- (4) 担当者：留学生センターの日本語教育部門の教員 4 人

## 3 「日本語相談」の実施状況

表 1 は 2009 年度に実施した「日本語相談」の所属別来談者数、表 2 はその相談内容別件数をまとめたものである。

「日本語相談」をよく利用する留学生の「所属学部」は年度によって異なるが、2009 年度は人文学部所属の留学生が最も多く「日本語相談」を利用した。人文学部の留学生には授業での発表やレポートの提出が求められるため、表 2 に見られるように、相談内容も「授業に関連した作文や論文（レポート）の添削などの相談」が最も多く、全体の 4 割強（19 件）を占めた。しかし、相談者が持ってくる課題と作文などは教員にとっても初見である場合が多く、一つ一つの相談内容は比較的重いので、時間を大きく取ってしまいがちで、時間内に全員の相談に応じきれない場合もあった。

近年の「日本語相談」の実施状況と比べてみると、今年度は来談者数や相談件数が少なかった（表 3）。1 つの理由として、今年度の場合は経済学部留学生の利用が例年に比べて少なかったということがある。経済学部の留学生が来談する場合は、経済学研究科の大学院入試に小論文が課されることから、その対策に「日本語相談」を頻繁に利用する傾向があるからである。小論文対策には留学生センターのホームページに、留学生のための学習支援サイト“RAICHO”が開設されており、このサイトから「日本語相談」→「小論文の書き方コース」とたどっていくと、小論文の書き方のポイントなどが示されており、練習のための課題も提示されている。「日本語相談」を利用して具体的な指導が受けられるように設計されている。（参照：<http://tisc.isc.u-toyama.ac.jp/soudan/shoron.html>）

上に述べたように、表 3 を見ると、2003 年度の開始以来、2009 年度は最も少なくなっているように見えるが、必ずしも「日本語相談」の活動が低調であったということではない。



表 1 所属別来談者数 (単位: 人)

	人文学部	人間発達科学部	経済学部	理学部	工学部	その他	合計
前 期	7	0	4	0	9	0	20
夏期休業期間	0	0	0	2	0	0	2
後 期	14	0	4	0	2	0	20
合 計	21	0	8	2	11	0	42

表 2 相談件数 (単位: 件)

相談内容	前期	夏期	後期	計
大学院入試科目「小論文」の練習作文の添削	0	0	0	0
授業に関連した作文や論文(レポート)の添削などの相談	9	0	10	19
進学・就職活動に関連した相談(作文の添削・面接の練習など)	0	0	0	0
日本語学習(文法・会話・語彙・漢字・発音・勉強法)に関する相談	6	0	10	16
手続きに関する書類(各種保険や注文書等)についての相談	2	1	1	4
修学上・生活上の相談	1	1	1	3
その他(日本事情に関する質問, 手紙の添削, 文献の探し方, その他)	2	0	2	4
計	20	2	24	46

※ 来談者数と相談件数は必ずしも一致しない。

表 3 相談者数・相談件数の推移

	2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
相談者数	55 人	57 人	52 人	46 人	59 人	77 人	42 人
相談件数	55 件	60 件	57 件	47 件	60 件	86 件	46 件

※ 2004 年度から夏期休業中も「日本語相談」を実施。

#### 4 「日本語相談」担当教員ミーティング

2009 年度の「日本語相談」を実施するに当たり, 担当教員が集まってミーティングを実施したり, メールで必要事項を確認したりして, 円滑に相談ができるようにした。

##### (1) 第 1 回ミーティング

日時: 2009 年 4 月 2 日 (木) 9:30 ~ 10:00

場所: 共通教育棟 430 教室

内容: 2009 年度の授業期間中の「日本語相談」の日程と担当の決定。「日本語相談」実施の広報について。

##### (2) 第 2 回ミーティング

日時: 2009 年 6 月 30 日 (火) 12:45 ~ 13:10

場所: 留学生センター カウンセリング室

内容: 夏期休業期間中の「日本語相談」の日程と担当の決定。「日本語相談」実施の広報について。

#### 5 終わりに

今後の課題としては, 留学生や留学生のニーズの多様化などに鑑み, 留学生センターの総合的な日本語教育のシステムの一環として, より多くの留学生たちが「日本語相談」を利用できるように工夫し, 広報活動や相談体制の在り方についてさらに検討し充実させていくことが必要であろう。

# 日本語教育部門活動報告 2－日本語学習支援サイト RAICHO－ (2009 年 4 月～ 2010 年 3 月)

後藤寛樹

## 1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」とする、<http://tisc.isc.u-toyama.ac.jp/>)は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、留学生センター日本語教育部門が開設・運営しているサイトである。サイト開設のねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点をおいている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。インターネットはわれわれの生活に深く浸透し、インターネットを介してありとあらゆる情報にアクセスできるようになったが、インターネット上には膨大な量の情報があり、求める情報を効率よく探し出すためには、この膨大な量の情報の中から必要とするものを取捨選択する能力が必要とされる。しかし、必要な情報の取捨選択はそれほど容易ではなく、留学生が日本語学習のリソースをインターネット上に求めたとしても、自己の学習に有益な情報をうまく選ぶことができなければ、リソースを学習に効率的に生かすことはできない。そこで、本学で学ぶ留学生に必要な情報を一括して提供する Web サイトがあれば、留学生にとっての利便性が高くなるだろうというねらいのもとで開設したのが、RAICHO サイトである。本稿では、RAICHO サイトの 2009 年度の整備状況等について報告する。

## 2 2009 年度 RAICHO サイト整備状況および利用状況

RAICHO サイトを公開している Web サーバには、多肢選択式あるいは回答記述式の問題を作成し、Web 上で公開できる「問題作成システム」が整備されている。このシステムでは、テキストデータ、画像データ、音声データを用いた問題が作成できるようになっており、現在、このシステムを用いて作成したひらがな、カタカナ、漢字、助詞などの練習問題が RAICHO サイト上の「日本語自己学習」コンテンツで提供されている。また、留学生センター教員が作成している日本語学習者向け漢字学習サイト「漢字園」(<http://www3.u-toyama.ac.jp/niho/kanjien.html>)でも、このシステムを利用して作成した漢字学習のための問題が公開されている。

2009 年度には、この問題作成システムを用いて、日本語入力のための練習問題を作成し、RAICHO サイト上で公開を開始した。このコンテンツは、提示される問題の解答を入力し、Check ボタンをクリックすると、その場で解答の判定が出るので、留学生センターで開講している日本語研修コースのコンピュータのクラスでも、テキストに掲載した練習問題と併せて活用することで、効果が出ている。

RAICHO サイトの利用状況については、学内だけではなく、学外からも「サイトを利用している」という声が寄せられている。特にひらがな、カタカナの学習コンテンツについては、海外の機関からも利用の報告がある。また、「日本語自己学習」コンテンツはユーザ登録をすることによって、利用者が自身の解答履歴を参照できるようになっているが、2009 年 4 月から 2010 年 3 月までの 1 年間に、新たに 286 人がユーザ登録をしてこのコンテンツを利用している。

## 3 今後の展望

RAICHO サイトは開設から約 7 年が経過した。2008 年度までに、問題作成システムの整備・充実を進めており、このシステムを利用して、いろいろな内容のコンテンツを提供することが可能となって

いる。既に述べたように、2009年度も日本語入力のためのコンテンツを作成し、公開を開始しているが、留学生の日本語学習を体系的な視点で見た場合、コンテンツの開発はまだ十分とは言えない。2節で、2009年度の1年間に、新たに286人の利用者がユーザ登録をして、「日本語自己学習」のコンテンツを利用しているということを述べたが、そのうち、継続してこのコンテンツを利用しているのはごく限られた利用者のみで、大半の利用者は、登録後、数回使用したのみにとどまっている。これは、現在、公開しているコンテンツが、文字・漢字、初級レベルの文法の一部、日本語入力の練習のみで、体系的なコンテンツが提供されていないために、継続した利用につながっていないからだと考えられる。RAICHOサイトの利用法や評価も含め、この教材をもとにした研究活動も視野に入れて、体系的なコンテンツの開発を行っていく必要があると言える。

富山大学は3つのキャンパスからなる総合大学であるが、留学生数の違いやキャンパスごとの事情などもあり、3つのキャンパスで同内容の日本語支援を行っていくのは難しいという現状がある。そのような状況の中、RAICHOサイトを利用することで、各キャンパスで行われる授業では補いきれない部分についての支援を行うことが可能になると考えられる。インターネットを利用したサイトの機能や特長を大いに生かして、留学生の日本語学習支援をさらに進めていくために、本学の留学生に適したコンテンツや授業内容とも連動した形の体系的なコンテンツの開発を進めていきたい。

### 3. 留学生指導部門報告 (2009年4月～2010年3月)

出原節子

#### 1 はじめに

留学生指導部門では、部門担当教員（出原）が以下のような業務を行っている。

1. 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言
2. 異文化教育及び日本語教育
3. 留学生と日本人学生の相互理解、コミュニケーション能力を高めるための活動
4. 海外留学に関する情報の提供及び留学相談
5. 留学生生活に関わる各種情報の提供、地域交流団体等が主催する行事の案内

小稿では、2009年度に留学生指導部門が行った主な活動について、報告する。

#### 2 指導・助言

以下のように面談時間（OH）を設けたが、面談時間以外にも訪ねて来る学生がいるので、時間のあ  
る限り対応している。

< 2009年度前期面談時間 >

	1限	2限	3限	4限	5限
月	OH	OH	OH	OH	
火	OH				OH
水	OH	OH			
木	OH	OH	OH	OH	OH
金	OH	OH	OH	OH	

< 2009年度後期面談時間 >

	1限	2限	3限	4限	5限
月	OH	OH	OH	OH	OH
火	OH	OH	OH	OH	OH
水	OH	OH			
木	OH	OH			
金	OH	OH	OH	OH	

指導部門に寄せられた様々な問題に対しては、留学生センター日本語教育部門教員及び非常勤講師を  
はじめ、各学部、留学支援チーム（旧留学支援室）、学生支援グループ（旧学生支援課）等と連携して  
対処した。

##### （1）留学生に対する指導・助言

件数： 28 件

##### （2）日本人学生に対する指導・助言

件数： 27 件

##### （3）その他（富山大学以外の教育機関の学生・教職員、卒業生、外部交流団体等からの相談）

件数： 15 件

### 3 異文化理解・交流

#### (1) 「日本事情」

日本語研修コース「日本事情」の授業に、学内から募集した『国際交流学生ボランティア』に参加してもらい、留学生との合同授業を行っている。この授業は、①語学（主として日本語）能力の向上、②日本人学生による留学生支援、③異文化理解、④自文化理解、⑤異文化交流活動の拠点化、を目的としている。

#### (2) 見学

前期と後期に原則各1回、日本語研修コースのフィールドトリップを実施している。それと同時に「富山大学短期留学生受入れ体制要項」に基づく短期留学生のためのスタディトリップも実施している。見学には日本人学生も希望があれば付き添いとして参加を認め、異文化交流の場としている。2009年度も日本文化への理解を深めるため、近隣の博物館等を見学した。

##### ・フィールドトリップ&スタディトリップ（前期）

###### <実施日・見学場所>

2009年6月12日（金） 株式会社生産技術（第8ロボット展示場）

###### <参加者数>

留学生	20人
日本人学生	2人

・後期の研修コースフィールドトリップは、スタディトリップと同時に実施した。スタディトリップの企画立案・実施は短期留学生担当教員（加藤）が行った。

###### <実施日・見学場所>

2010年1月22日（金） 五百羅漢・富山市民俗民芸村

###### <参加者数>

留学生	22人
-----	-----

#### (3) ホームステイ

財団法人とやま国際センターの斡旋により、1999年度後期より留学生センター所属の文部科学省国費留学生（予備教育生）に対し1泊2日のホームステイ・プログラムを実施している。

###### <実施日・参加者数>

2010年2月6日（土）～7日（日） 1人（21期生）

#### (4) ホームビジット

日本語研修コースには、文部科学省からの国費留学生だけでなく、学内公募による受講生を受け入れている。「留学生センター在籍者ホームステイ実施要項」制定時には、学内公募の学生がいなかったため、これらの学生はホームステイ・プログラムの対象者に含まれていない。そこで、富山市民国際交流協会の協力により、『日本語研修コース受講学生』を対象とした1日家庭訪問プログラムを2002年度前期より実施している。

<実施日・参加者数>

2009年7月25日（土）	8人（20期生）
2010年2月6日（土）	6人（21期生）

(5) 異文化交流パーティー

留学生と日本人学生の交流を目的としたパーティーを春と秋の年2回、留学生センターの談話室で開催し、200円の参加費で、スナック菓子と飲物を用意している。

<開催日時・参加者数>

2009年5月27日（水）17：00～	40人
2009年11月18日（水）17：00～	33人

(6) おしゃべりタイム

毎週木曜日の12：00～13：00に留学生センターの談話室で「おしゃべりタイム」を開催し、留学生と日本人学生が昼食を食べながら語り合う時間を設けているが、木曜日以外にも留学生と日本人学生が昼食を共にしている姿がみられる。

(7) 異文化理解教育等への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や市・町・村主催の国際交流行事、地域の各種団体等が主催する行事等に参加依頼・協力依頼があった場合は、その要請に応じて、都合のつく留学生に参加協力を依頼している。今年度は、2人の韓国人留学生に依頼した。

<参加日・内容>

2009年12月22日（火）～12月23日（祝）

富山高等専門学校国際流通学科2年生の第二外国語ウインターセミナーへの参加

## 4 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留學生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内を留学生センターの談話室に掲示している。

国際交流団体および行事内容については「外国人留学生関係行事一覧」を参照していただきたい。

## 5 オリエンテーション

(1) 学部新入留学生のためのオリエンテーション

学部教員や留学支援チーム、学生支援グループ等の協力により、前期の授業開始日前に、全学のオリエンテーションとは別に、学部新入留学生を対象としたオリエンテーションを実施している。オリエンテーション終了後には、先輩学生の協力を得て、「前期時間割」を作成し、更に、留学生指導部門担当教員が留学生センターの施設案内をしている。

<実施日時>

2009年4月9日（木）17：40～

<オリエンテーションの内容>

- ・教職員の紹介
- ・留学生センター及びその他の施設について

- ・留学支援チーム及び学生支援グループ職員による所掌事項について（奨学金，授業料免除，アルバイト等）
- ・危機管理について（各種保険等）
- ・教養科目履修について
- \*「前期時間割」作成

## (2) 新規来日非正規生（研究生，科目等履修生，特別聴講学生）のためのオリエンテーション

### <実施日・参加者数>

2009年4月13日（月） 14人

2009年10月5日（月） 17人

### <オリエンテーションの内容>

- ・学内・学外における諸手続きについて
- ・留学生センターについて
- ・学生生活について
- ・危機管理について

## (3) 平成21年度外国人留学生（学部新入生）オリエンテーション

2008年度まで，学務部学生支援グループ留学支援チームの企画立案により一泊二日で行われていた合宿研修が廃止となった。その代わりに，2009年度は半日のオリエンテーションが実施された。オリエンテーション後は，学生同士の交流を目的とした実地見学が行われた。

### <実施日>

2009年5月23日（土）

### <参加者>

- ・学部新入留学生
- ・工学部教員（1人）
- ・人文学部教員（1人）
- ・経済学部職員（1人）
- ・留学生センター教員（1人）
- ・学生支援チーム職員（4人）

### <内容>

10：20～12：15

- ・留学生活における留意事項
- ・大学における相談窓口について
- ・大学生協の業務・サービス等について

12：15～16：00

実地見学（海王丸パーク，高岡地場産業センター，高岡大仏）

## 6 海外留学相談

留学生センターの1階に「留学情報資料室」を設置し，海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに，留学（主として，欧・米への留学）の相談にのっている。今年度は，海外留学に関する情報提供のため，『留学体験記集』を発行した。

面談回数： 23 回  
相談者数： 20 人（中国人留学生 1 人を含む）

人文学部	4 人
人間発達科学部	3 人
経済学部	8 人
理学部	4 人
工学部	1 人
<hr/>	
計	20 人

希望留学先：英語圏諸国（カナダ，アメリカ，イギリス等），韓国

## 7 その他

### (1) 富山大学留学生教育指導連絡会議

2002 年 9 月 24 日に「富山大学留学生指導連絡会議要項」を制定し，以来留学生指導等の充実を図るために連絡会議を開催し，留学生に関する様々な問題について各学部の教員及び事務との情報交換・意見交換を行って来たが，2006 年 7 月 21 日に「富山大学留学生教育指導連絡会議」として再スタートし，引き続き留学生の教育及び生活指導等の充実を図ることを目的に，各学部や留学支援室と連携して会議を開催して情報・意見の交換，収集を行った。2009 年度からは，より緊密な連携のため，教員だけでなく各学部の事務職員も会議に参加している。

<開催日>

2009 年 9 月 14 日（月）

2010 年 2 月 22 日（月）

### (2) 「留学座談会」

大学在学中に留学を考えている学生と留学経験者が集い，留学に関する情報提供や意見交換を行った。

<開催日時・場所>

2009 年 12 月 7 日（月）17：00～

黒田講堂会議室

<参加者数>

留学経験者 6 人

留学希望者 6 人

### (3) 「留学説明会」

企画立案は留学生指導部門で行い，芸術文化学部の島添貴美子教員が「米国セント・アンセルム大学」留学に関する情報提供を行った。

<開催日時・場所>

2010 年 2 月 2 日（火）17：15～



<参加者数>

4人

## 8 おわりに

2009年10月現在、富山大学には343人の外国人留学生在籍している。

富山県では、県内在住の大学等の私費留学生（学部1年生と大学院生は全員。学部2～4年生は、学業成績が上位10%以内の学生）に対し、県から「富山県国際交流奨学金」として1万円（年間12万円）が支給されている。また、国民健康保険料の助成もおこなわれている。さらに、2002年10月より財団法人とやま国際センターが、富山県、富山県婦翔会、留学生を受け入れる富山県内の大学・短大・高専、宅地建物取引業の団体などの連携協力のもとに、「留学生住宅確保支援制度」を実施している。こうした地域の人々の暖かい支援により、留学生がより安定した居住環境の中で安心して留学生活を送ることができるようになり、大変感謝している。

これからも地域との緊密な連携をはかり、留学生支援体制の充実のため一層の努力をしていきたい。

## 4. 留学生センター関連行事等（2009年4月～2010年3月）

富山大学留学生センターでは、以下のような行事等に関わった。

2009年

- 4月2日（木）日本語プログラム講師ミーティング
- 4月7日（火）総合日本語コースオリエンテーション（日研生）  
総合日本語コースオリエンテーション（短期留学生）
- 4月8日（水）第20期日本語研修コースオリエンテーション  
日本語課外補講オリエンテーション
- 4月9日（木）学部オリエンテーション（新入生に対する「留学生センター」概要説明）  
第20期日本語研修コース開講式  
外国人留学生学部新入生オリエンテーション
- 4月13日（月）新規来日留学生（非正規生）のためのオリエンテーション
- 4月15日（水）国際交流学生ボランティア説明会
- 5月23日（土）学部新入留学生に対するオリエンテーション&見学
- 5月26日（火）日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第23回ミーティング
- 5月27日（水）留学生と日本人学生との異文化交流パーティー
- 6月2日（火）平成21年度第1回留学生センター運営委員会
- 6月12日（金）見学（日本語研修コースフィールドトリップ／短期留学生スタディトリップ）
- 6月26日（金）日本語研修コース「私の国」発表会
- 7月9日（木）～10日（金）「平成21年度留学生交流研究協議会」（参加1人）
- 7月24日（金）日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第24回ミーティング
- 7月25日（土）ホームビジット
- 8月4日（火）平成21年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会（参加1人）
- 9月2日（水）第20期日本語研修コーススピーチ発表会
- 9月6日（日）平成21年度日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア
- 9月9日（水）平成21年度日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア 報告会
- 9月14日（月）平成21年度第1回富山大学留学生教育指導連絡会議  
第20期日本語研修コース修了式
- 9月30日（水）日韓プログラム（予備教育専門教科）講師ミーティング
- 10月1日（木）日本語プログラム講師ミーティング
- 10月5日（月）新規来日留学生（非正規生）のためのオリエンテーション
- 10月6日（火）第21期日本語研修コースオリエンテーション（予備教育）
- 10月7日（水）第21期日本語研修コースオリエンテーション（学内公募）  
日本語課外補講オリエンテーション  
総合日本語コースオリエンテーション（日研生）  
総合日本語コースオリエンテーション（短期留学生）  
日韓生のための生活オリエンテーション
- 10月8日（木）第21期日本語研修コース開講式
- 10月13日（火）日韓プログラム 第10期生 工学部長表敬訪問

10月14日（水）国際交流学生ボランティア説明会  
 10月15日（木）日韓プログラム 第10期生 理学部長表敬訪問  
 10月28日（水）見学ツアーのオリエンテーション（1回目）  
 10月30日（金）日韓プログラム「日本文化」活動／日本文学  
     見学ツアーのオリエンテーション（2回目）  
 11月7日（土）～8（日）見学ツアー（外国人留学生のための日本文化探訪・日本企業見学ツアー）  
 11月18日（水）留学生と日本人学生との異文化交流パーティー  
     日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第25回ミーティング  
 11月27日（金）日韓プログラム「日本文化」活動／邦楽  
 11月27日（金）・28日（土）日本留学フェア（タイ）（参加1人）  
 11月30日（月）日韓プログラム「見学」(1)  
 12月7日（月）留学座談会  
 12月11日（金）日韓プログラム「日本文化」活動／茶道  
 12月14日（月）日韓プログラム「見学」(2)  
 12月15日（火）平成21年度第2回留学生センター運営委員会  
 12月18日（金）日本語研修コース「私の国」発表会（金沢大学の日韓生と合同で実施）

#### 2010年

1月8日（金）日韓プログラム「日本文化」活動／水墨画鑑賞  
 1月19日（火）日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第26回ミーティング  
 1月22日（金）見学（日本語研修コースフィールドトリップ／短期留学生スタディトリップ）  
 1月27日（水）富山県留学生等交流推進会議（参加2人）  
 2月2日（火）留学説明会  
 2月6日（土）ホームビジット  
 2月6日（土）～7日（日）ホームステイ  
 2月16日（火）第21期日本語研修コーススピーチ発表会  
 2月18日（木）平成21年度第3回留学生センター運営委員会  
 2月22日（月）平成21年度第2回富山大学留学生教育指導連絡会議  
 3月4日（木）第21期日本語研修コース修了式

## 平成 21 年度外国人留学生と地域との交流状況

No.	行 事 名	期 日	主催団体名	参加人数 (留学生)
1	バスハイク&バーベキュー	4月29日(祝)	日豪ニュージーランド協会	8
2	茶道・土鈴絵付け体験	5月24日(日)	富山市民国際交流協会	5
3	料理交流会 香港料理	6月18日(木)	富山市民国際交流協会	1
4	華展「ヴェール」に作品参加	7月5日(日)	草月木陽会	6
5	ゆかた着付&おわら踊り教室	7月26日(日)	富山市民国際交流協会	26
6	地図で歩く世界旅行の会講師	8月4日(火)	入善町サークル	1
7	とやま祭り おわら踊り	8月8日(土)	富山市民国際交流協会	11
8	ジャパンテント	8月20日(木)～ 26日(水)	ジャパンテント開催委員会	3
9	女子留学生日本語弁論富山県大会	10月24日(土)	WFWPとやま	5
10	日本の伝統文化体験「茶道」	11月7日(土)	富山市民国際交流協会	3
11	国際交流フェスティバル (踊り・出店)	11月7日(土)～ 8日(日)	とやま国際センター他	50
12	みんなで歌おう	11月8日(日)	富山市民国際交流協会	3
13	日本の伝統文化体験「華道」	11月8日(日)	富山市民国際交流協会	5
14	食文化を通しての国際交流	11月15日(日)	富山雷鳥ライオンズ	15
15	地図で歩く世界旅行の会講師	12月8日(火)	入善町サークル	1
16	地図で歩く世界旅行の会・忘年会	12月13日(日)	入善町サークル	3
17	日本の伝統文化体験「書道」	12月13日(日)	富山市民国際交流協会	7
18	年忘れパーティー	12月20日(日)	富山市民国際交流協会	7
19	留学生ホームステイ	年末からお正月	富山県婦翔会	7
20	2010新春国際交流のつどい	1月17日(日)	富山市民国際交流協会	24
21	ボーリング交流会	2月7日(日)	富山市民国際交流協会	17
22	料理交流会	2月18日(木)	富山市民国際交流協会	7

## 5. 留学生センター教員・担当業務

富山大学留学生センターでは、2009年度において、センター長以下、日本語教育部門4人、留学生指導部門1人の専任教員が、次のような業務を行った。

### 【留学生センター教員】

センター長 黒田 重靖（工学部併任）  
副センター長 出原 節子  
日本語教育部門 加藤扶久美（日本語・日本事情担当）  
副島 健治（大学院入学前予備教育担当）  
濱田 美和（日本語・日本事情担当）  
後藤 寛樹（大学院入学前予備教育担当）  
留学生指導部門 出原 節子

### 【コースコーディネーター等（2009年度）】

#### コースコーディネーター

日本語研修コース 後藤 寛樹  
日本語課外補講 濱田 美和  
日韓共同理工系学部留学生プログラム 副島 健治  
総合日本語コース 濱田 美和

短期留学生担当 加藤扶久美  
（紀要報告執筆担当，オリエンテーション開催，成績管理等）  
教養教育「日本語」「日本事情」担当 加藤扶久美  
（紀要報告執筆担当，「日本語A」受講者名簿作成等）

### 【授業担当（2009年度）】 ㊦:日本語研修コース, ㊧:日本語課外補講, ㊨:総合日本語コース, ㊩:教養教育

	前 学 期	後 学 期
加藤扶久美	㊦初級「作文」(月3), 中級「文法」(月4, 木3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊧初級「生活日本語」(月2), ㊨外国語科目「日本語 A1(文系)」(火3), 総合科目「日本事情 II」(木2)	㊦初級2「聴解」(月4), 初級2「作文」(火3), 初級2「文字・漢字」(木3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊦㊧初級1「聴解」(月3), 中級「聴解」(火1) ㊧初級「生活日本語」(月2)
副島 健治	㊦初級「文字・漢字」(木4), 中級「読解」(金3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊦㊧中級「会話」(火2), 中級「文法」(木1, 木2), ㊨外国語科目「日本語 A1(理系)」(金2)	㊦初級1「文字・漢字」(木4), 初級2「会話」(金3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊦㊧中級「会話」(火2), 中級「文法」(木1, 木2), ㊨外国語科目「日本語 A2(理系)」(金2)
濱田 美和	㊦中級「コンピュータ」(月3), 初級「コンピュータ」(月4), 中級「文字・漢字」(水3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊦㊧中級「聴解」(火1), 初級「聴解」(火3), ㊨㊧上級「表現技術」(月2)	㊦初級2「コンピュータ」(月3), 初級1「コンピュータ」(月4), 中級「文字・漢字」(水3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊨㊧上級「表現技術」(月2), ㊨外国語科目「日本語 B4」(火1), 総合科目「日本事情 I」(火5)

	前 学 期	後 学 期
後藤 寛樹	㊦初級「文法」(水1, 水2), 初級「コンピュータ」(木3), 中級「コンピュータ」(木4), 初級「会話」(金3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊦外国語科目「日本語 A1(文系)」(金2)	㊦初級「文法」(水1, 水2), 初級1「コンピュータ」(木3), 初級2「コンピュータ」(木4), 初級1「会話」(金3), 「特別指導」(火4, 金4), ㊦外国語科目「日本語 A2(文系)」(金2)
出原 節子	㊦「日本事情」(水4, 水5), ㊦外国語科目「日本語 A1(理系)」(火3)	㊦「日本事情」(水4, 水5), ㊦総合科目「日本事情 III」(木5)
	※相談業務のオフィスアワーについては, 「留学生指導部門」の報告(p.68)を参照	

#### 【学内委員等 (2009年度)】

国際戦略本部会議	黒田 重靖
国際戦略本部教育部会	黒田 重靖, 出原 節子
富山大学留学生奨学金等選考委員会	副島 健治
留学生奨学金等選考委員会五福キャンパス部会	副島 健治
教養教育外国語系第二分科会	加藤扶久美
センター専任教員評価方法検討委員会	黒田 重靖
日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG	濱田 美和
日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討WG	副島 健治, 加藤扶久美
環境推進員	加藤扶久美
安全衛生管理者	出原 節子

#### 【その他業務分担 (2009年度)】

留学生センター紀要	出原 節子
留学生センター概要	濱田 美和
留学生センターニュース	加藤扶久美
留学生センターホームページ	後藤 寛樹
日本語研修コース報告書『らいちょう』	副島 健治

# 資 料

---

資料 1 富山大学における年度別留学生数の推移

資料 2 富山大学在籍外国人留学生数

資料 3 富山大学留学生センター規則

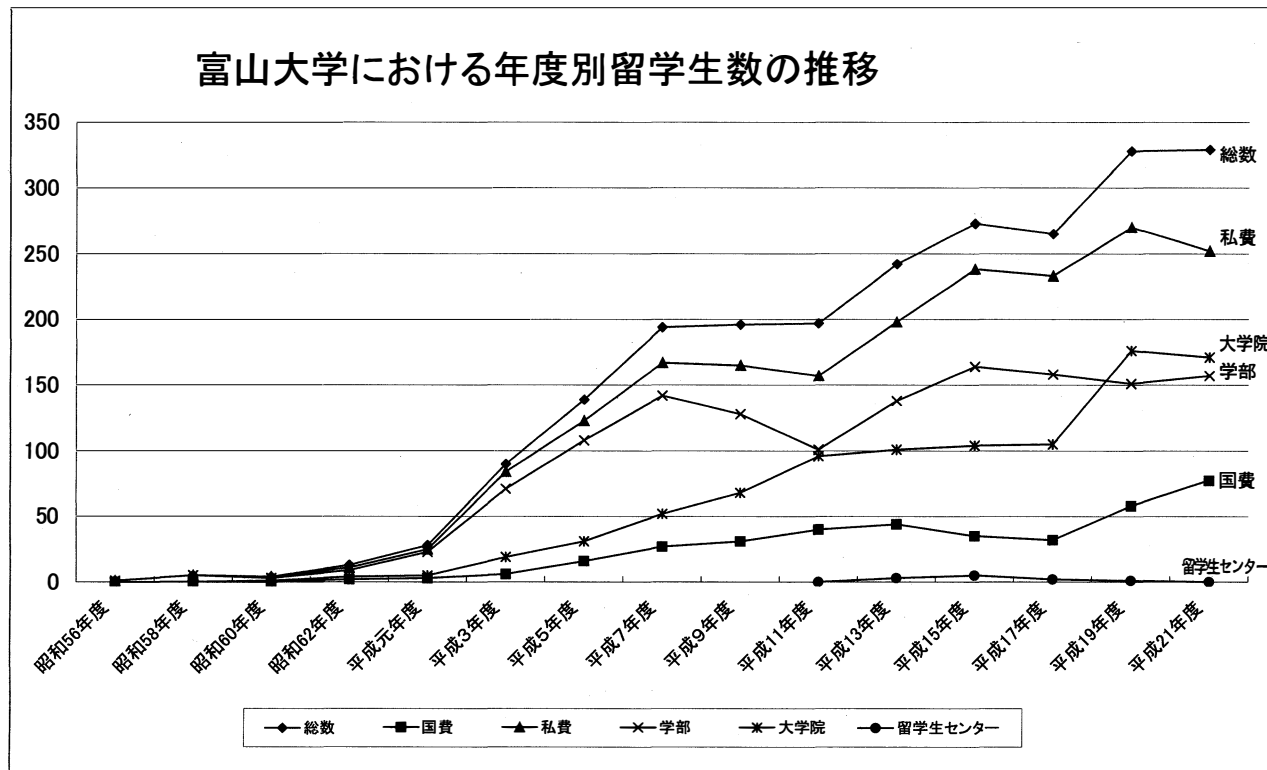
資料 4 富山大学留学生センター紀要投稿要項





# 資料 1

## ●年度別留学生数の推移 Change by Year (Number of International Students)



## ●外国人留学生受入状況 Number of International Students

5月1日現在  
(人)

	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
総 数	1	2	5	3	4	8	13	16	28	57	90	118	139	171	194	191	196	202	197	204	242	265	273	267	265	319	328	334	329
国 費	0	1	0	0	0	1	2	3	3	5	6	12	16	23	27	29	31	35	40	48	44	33	35	30	32	51	58	48	77
私 費	1	1	5	3	4	7	11	13	25	52	84	106	123	148	167	162	165	167	157	156	198	232	238	237	233	268	270	286	252
学 部	1	2	5	2	3	4	9	11	23	49	71	98	108	128	142	127	128	121	101	110	138	162	164	165	158	152	151	161	157
大学院	0	0	0	1	1	4	4	5	5	8	19	20	31	43	52	64	68	81	96	88	101	103	104	99	105	166	176	172	171
その他																													1
留学生センター																			0	6	3	0	5	3	2	1	1	1	0

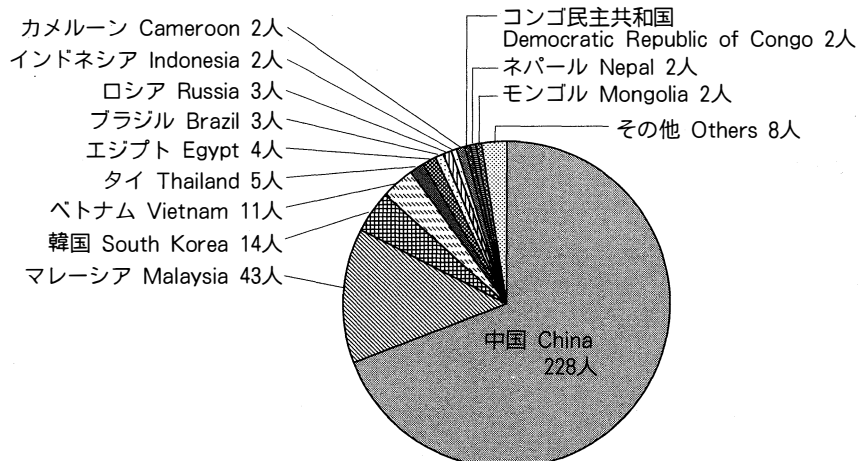
※富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学は、平成17年10月1日統合により富山大学となりました。  
昭和56年度から平成17年度は旧富山大学のデータです。  
外国政府派遣は「国費」に含む。

## 外国人留学生受入状況 Number of International Students

平成21年 5 月 1 日現在 As of May 1, 2009

学部等		正 規 生							研 究 生 ・ 科 目 等 履 修 生 等							合 計
		国 費		外 国 政 府		私 費		小 計	国 費		県 費		私 費		小 計	計
		男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女		
人文学部						6	14	20		2				7	9	29
人間発達科学部							2	2						2	2	4
経済学部				1		9	6	16					13	11	24	40
理学部						2		2					1	1	2	4
医学部								0							0	0
薬学部		1						1							0	1
工学部		1	1	31	7	23	5	68					4	1	5	73
芸術文化学部							3	3					1	2	3	6
小 計		2	1	32	7	40	30	112	0	2	0	0	19	24	45	157
人文科学研究科			1			1	2	4						1	1	5
教育学研究科						2	1	3	1						1	4
経済学研究科			1			11	27	39					1	2	3	42
生命融合科学教育部	博士 (医・理・工)	1	3			6	4	14							0	14
	博士 (医)	1	1			2	3	7					1	1	2	9
医学薬学教育部	修士	2				4	2	8							0	8
	博医	2				2	3	7						1	1	8
	博薬	3	4			2	4	13							0	13
医学系研究科	博士	1						1							0	1
薬学系研究科	博後					1		1							0	1
理工学教育部	修士		1			31	10	42							0	42
	博士	10	1			8	5	24							0	24
理工学研究科	博士							0							0	0
小 計		20	12	0	0	70	61	163	1	0	0	0	2	5	8	171
高岡短期大学部								0							0	0
留学生センター								0							0	0
和漢医薬学総合研究所													1		1	1
合 計		22	13	32	7	110	91	275	1	2	0	0	22	29	54	329

五福キャンパス	281
杉谷キャンパス	42
高岡キャンパス	6
合 計	329



## 富山大学留学生センター規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学学則第12条第2項の規定に基づき、富山大学留学生センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する富山大学（以下「本学」という。）の学生に対し、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 外国人留学生に対する日本語・日本事情教育
- (2) 外国人留学生に係る入学前における予備教育（以下「予備教育」という。）
- (3) 外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言
- (4) 海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言
- (5) 留学生教育に関する調査及び研究
- (6) その他センターの目的達成に必要な事項

(職員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任の教員
- (4) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 センター長の選考については、別に定める。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター業務を整理する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 副センター長の選考については、センターの専任の教員のうちから第8条に定める運営委員会の議に基づき、学長が行う。

(専任の教員)

第7条 専任の教員は、センターの業務に従事する。

2 専任の教員の選考については、別に定める。

(運営委員会)

第8条 センターに、センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、富山大学留学生センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(運営委員会の審議事項)

第9条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 事業の計画及び実施に関すること。
- (3) センター長、副センター長及び専任の教員の人事に関すること。
- (4) 予算概算の方針に関すること。
- (5) その他センターに関し必要な事項

(運営委員会の組織)

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 学長が指名した学長特別補佐又は学長補佐
- (3) センターの専任の教員
- (4) 学部（理学部、医学部、薬学部及び工学部を除く。）及び研究部の各系から選出された教授各1人
- (5) 学務部長

- 2 前項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 第1項第3号の委員のうち教授を除く専任の教員は、前条第3号の事項のうち専任の教員の人事に関する事項の審議には加わらない。
- 4 第1項第5号の委員は、前条第3号の事項の審議には加わらない。

(委員長)

第11条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(運営委員会の議事)

第12条 運営委員会は、構成員の半数以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

- 2 前項の規定にかかわらず、第9条第3号の事項を審議する会議は、構成員の3分の2以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の3分の2以上をもって決する。

(意見の聴取)

第13条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第14条 運営委員会に、専門的事項を担当するため、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(日本語研修コース)

第15条 センターに、予備教育を行うため、日本語研修コースを置く。

- 2 日本語研修コースに関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

(事務)

第17条 センターの事務は、学務部学生支援グループにおいて処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年10月1日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初に任命される副センター長は、この規則の施行日の前日において富山大学留学生センター副センター長であった者をこの規則により選考されたものとみなし、任期は第6条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。
- 3 この規則の施行後、最初に選出される第10条第1項第4号に規定する委員の任期は、第10条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行日の前日において、理学部、医学部、薬学部及び工学部から選出された者については、第10条第1項第4号の研究部の各系から選出された者とみなす。ただし、任期は同条第2項の規定に関わらず、平成19年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

## 富山大学留学生センター紀要投稿要項

### 1 目的

富山大学留学生センター（以下「センター」という。）は、日本語・日本事情教育、異文化教育、留学生教育、国際交流等にかかる理論的・実践的研究に関する論文、研究資料等を発表するため、富山大学留学生センター紀要（以下「センター紀要」という。）を発行する。

### 2 執筆者の資格

- (1) センターの専任教員及び非常勤講師、各学部の留学生専門教育教官とする。
- (2) 編集委員会が特に認めた者

### 3 原稿の内容

- (1) 投稿原稿は、未発表のものとする。
- (2) 原稿の種目は、論文、研究ノート（特定の主題に対する研究上及び教育上の提言、史・資料の紹介及び考察、又は萌芽的研究を記したものを指す。）、研究資料（実践記録・調査結果、既成の知見の確認等研究上報告する価値のあるものを指す。）、実践・調査報告、書評のいずれかとする。

### 4 原稿の長さ

原稿の長さは、1 篇につき、図・表・写真等を含め、原則として刷り上がり20ページ以内とする。

### 5 原稿の体裁

富山大学留学生センター紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）に従って、記述する。

### 6 編集委員会

センター紀要編集のため、センター長を委員長とした編集委員会を置く。

### 7 投稿手続き

- (1) 投稿カードに所定の事項を記入のうえ、原稿とともにセンター長に提出し、原稿受領書を受け取る。
- (2) 提出された年月日をもって、受付年月日とする。
- (3) 原稿提出締切日は、別途定める。

### 8 原稿の採否

論文等の採否は、本要項及び執筆要領に基づいて、編集委員会が決定する。

### 9 発行回数

原則として、年1回とする。

### 10 その他

別刷希望者は、実費負担とする。

### 付 記

本要項の実施は、センター紀要第1号の執筆時から適用する。

## 執筆者一覧

出原 節子	富山大学留学生センター教授
加藤扶久美	富山大学留学生センター教授
後藤 寛樹	富山大学留学生センター准教授
副島 健治	富山大学留学生センター教授
高畠 智美	富山大学留学生センター非常勤講師
濱田 美和	富山大学留学生センター准教授

### 富山大学留学生センター紀要 第9号

発行年月 / 2010年11月

編集・発行 / 富山大学留学生センター

〒930-8555 富山市五福3190

印刷所 / (株)なかたに印刷



# Journal of International Student Center University of Toyama

Vol.9

November 2010

## Contents

### I Research Papers

GOTO Hiroki;

Characteristics of Japanese and Thai Technical Terms in Pharmaceutical Science:  
An Analysis Based on Word Type and Approaches to Establishment of Terms ..... 1

TAKABATAKE Tomomi, HAMADA Miwa;

Kanji Class Lesson Improvement and Development of Teaching Materials  
for Multilevel Learners: Toward Revitalization of Learner's Learning ..... 9

### II Annual Reports (April 2009—March 2010)

1. Outline of ISC from April 2009 to March 2010 ..... 19
2. Japanese Language Education Division
  - Intensive Japanese Program ..... 20
  - Extra-curricular Japanese Language Program ..... 29
  - General Japanese Language Course ..... 47
  - Program for Exchange Students ..... 51
  - Japan-Korea Cooperative Program for Science and Engineering Students ..... 54
  - Japanese Language and Culture as General Education Program ..... 60
  - Report 1 Japanese Language Consultation ..... 64
  - Report 2 Japanese Learning Support Site RAICHO ..... 66
3. Advisory Division ..... 68
4. Schedules ..... 74
5. List of Staff and the Responsibility of ISC ..... 77
6. Data ..... 79

**International Student Center University of Toyama**  
**3190 Gofuku, Toyama 930-8555 Japan**